

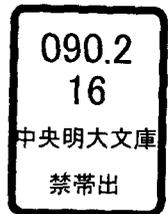
明治大学の大学史料

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 明治大学総務部歴史編纂事務室 公開日: 2014-03-06 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 明治大学歴史編纂事務室 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10291/16519

歴史編纂事務室報告 第二十集

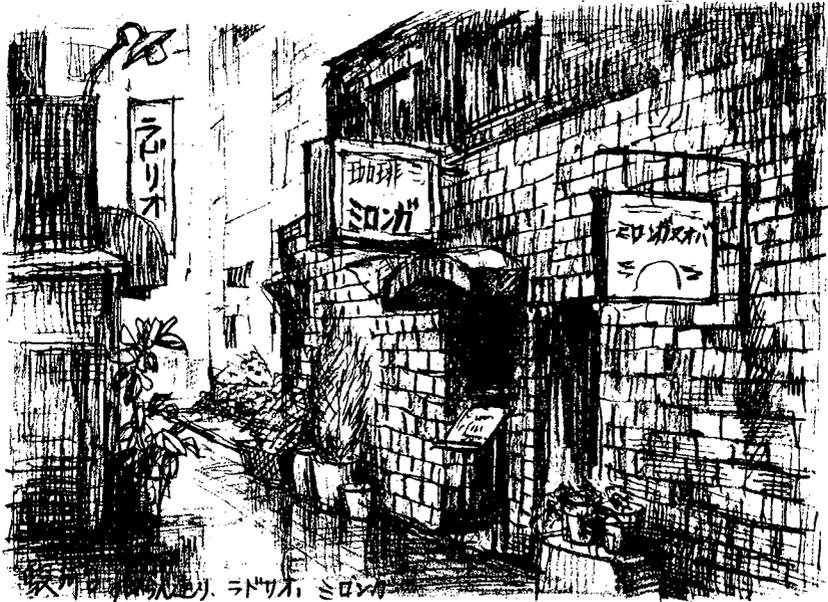
明治大学の大学史料

明治大学歴史編纂事務室



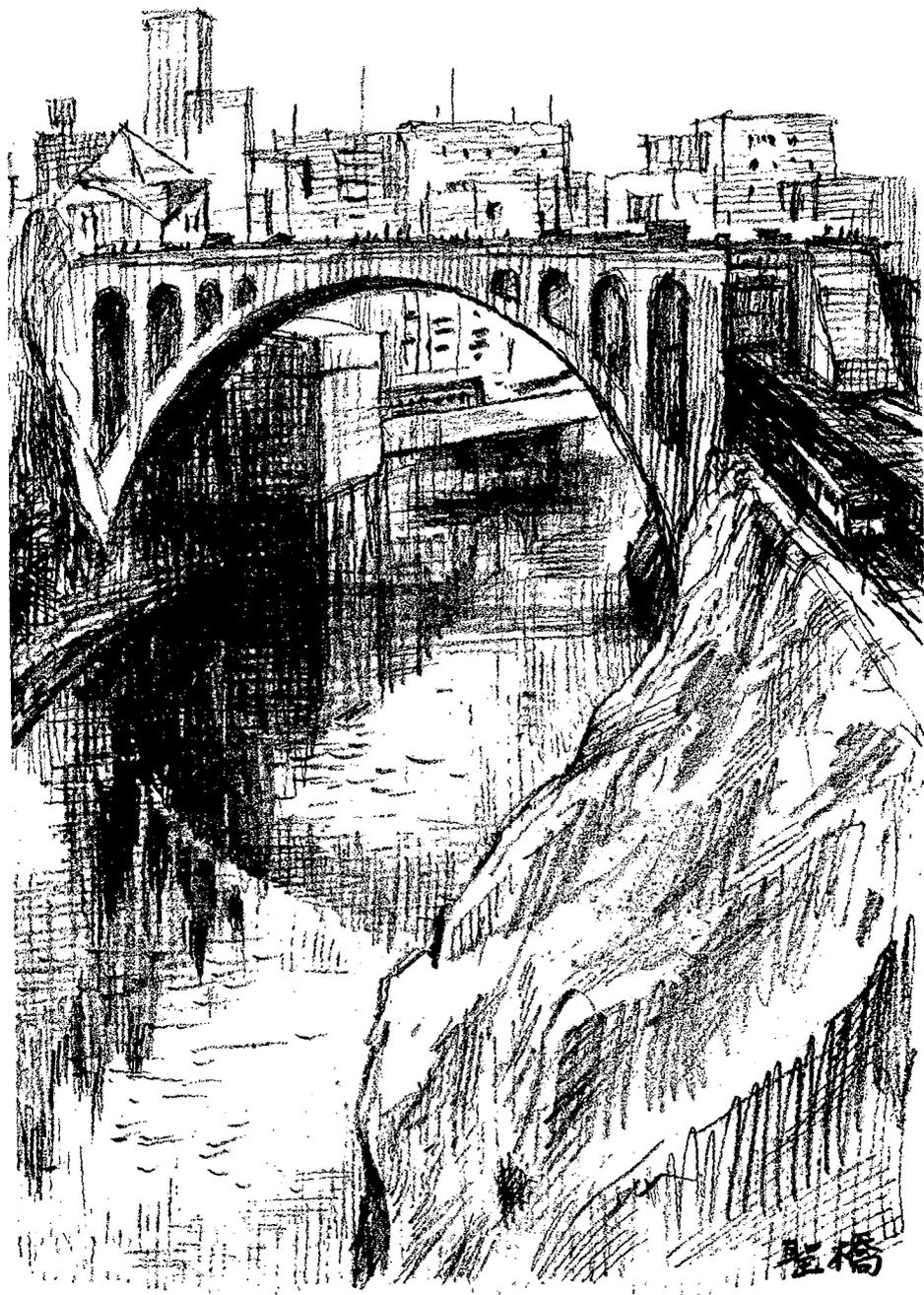
090.2-13

090.2-16



すずらん通り横町・ラドリオ，ミロンガ（1998年7月16日）

画・羽子田 長 門



お茶の水・聖橋（1998年7月16日） 画・羽子田長門

羽子田 長 門

(はねだ ながと)

1942年 茨城県生

1968年 東京芸術大学大学院修了 (日本画)

日本美術院々友。

数多くの院展出品，個展開催



明治大学歴史展会場入口（1998年11月21日）



明治大学歴史展見学（1998年11月21日）

刊行にあたって

「歴史編纂事務室報告」第二十集をおとどけます。

本報告集は、一九六七年に第一号を刊行して以来、主に明治大学の歴史に係わる貴重な史料を紹介してまいりましたが、今回は大学史料の収集・整理のあり方に焦点を当てました。

「過去は未来の土台」と申しますが、大学史料の収集・整理はこの土台を明らかにする地味ではあるが重要な研究分野であると認識しております。とりわけ、二十一世紀を間近にひかえ大学が激しく変貌する社会に対応する改革を迫られている今日、本学の土台を振り返り、現状を把握し、確かな未来を構築する糧を得る必要が一段と高まっていると言えます。

収集・整理した史料の活用につきましては、『明治大学百年史』の編纂過程で蓄積した力量を背景にして、九十年代に入ると「明治大学の歴史展」を九三年十月、九五年十一月と頻繁に開催して広く学内外にアピールしてまいりました。更に、昨年度は十一月十九日から二十四日にかけて、「明治大学歴史展」をリバイター竣工記念ホームカミング行事の一環として最上階の二十三階で開催し見学者が五千人を越えましたが、その報告も収録しました。

当事務室では、今日までに収集した史料の整理・保存はもとより、新たな史料を発掘し「本学の理念」を更に明らかにするよう努めると共に、大学史料館の創設に向けて地道な努力を積み重ねていく所存ですので、大方の御協力と御叱正を賜われれば幸甚に存じます。

一九九九年三月

明治大学総務部歴史編纂事務室

事務長 長 浜 忠 雄

第一部 明治大学の大学史料

——収集と整理を中心に——

鈴木 秀 幸

はじめに

「史料の調査って、準備が大変なんですわね」

史料調査はデスク・ワークよりも気が楽であろうと思
っている人がいても不思議ではない。だが、多くの人は
それは容易なことではないと思っっているであろう。とこ
ろで、最も肝心なことは、その事前準備である。このこ
との良し悪しで、その史料調査の成否の大方が決する。
あとは現場で判断すればよいわけである。

「地味な仕事をしてますなあ」

私が歴史編纂事務室で史料を一点ずつ所定の封筒にい
れて、表紙に必要な事項を記入する、いわゆる「上書き」
の作業をみていた来訪者のことばである。年史刊行や展
覧会開催が花ならば、史料整理は茎や根である。派手さ
がないのは事実である。

「ここ（歴史編纂事務室―筆者注）は史料がないとなに
もできないんですわね」

正しく当を得たことばである。これは学内のある人の
ことばであるが、どのような人でも当室に歩を運ぶと多
かれ少なかれ、そのように思うらしい。

「明治大学の校歌の二番にある『暁の鐘』とはどの鐘のことなのか」

旧記念館の正面上部にあったレリーフは子供二人が鐘をもっていた。当時の設計図や工事仕様書には何と書いてあるのか。「デザイン」と「装飾物」としかない。当時の学内紙には子供や鐘のことは載っているのか。「キャメル子」としかない。そういうえば森永製菓の創業者・森永太一郎の子息の太平（二代目社長）は明治大学の卒業生だ。「我社のエンゼル・マークに鐘を持たせたらどうですか、なんて！」。さっそく調査のために同社資料室の手を煩わせることとなってしまった。太平の卒業は大正一三（一九二四）年、記念館竣工は昭和三（一九二八）年、ということとはつじつまが合う。しかし、目下のところは裏付ける史料がない。それに校歌が制定されたのは、記念館が完成する以前のことである。

「明治大学の創立者は本当に岸本辰雄・宮城浩蔵・矢代操の三人でしょうか」

驚くべきことに、改めて調べてみると二人、四人、五

人、七人はは八人をあげた史料まである。しかし、あるにこしたことはない。おかげさまで従来どおりの三人と再確認できた。

「こんなものでも展示になるんだ」

これは昨年（一九二八）の一月に当室が主幹となって開催したリパティタワー竣工記念「明治大学歴史展」の時の一見学者の声である。その史料とは創立者岸本辰雄が学校経営のために義兄永見明久に宛てた借金を願う書簡である。現在では本学にのこる唯一の岸本自筆書であり、かつ創立当初の明治法律学校の経営実態がよくわかる史料である。

以上、史料の重要性について、明治大学における実際の会話を通して説明してきた。要は史料を収集して、整理をするということは、大学史を調査し、研究し、活用していくうえで基本であり、基礎であり、かつ中核であるという、当然のことを述べたにすぎない。

大学史をも含めた歴史および歴史研究に対して「足と

頭を使え」といわれる。足に相当するのが、史料調査であり、頭に相当するのが研究であろう。ただ、厳密に言えば、史料調査であっても頭は使う。闇雲に走り廻ったり、ひとつの手法だけで史料を探すというわけにはいかない。したがって、前記のことばと解釈は一応、ことをわかりやすくする区別とか目安にすぎない。そうでない、私は頭で考える、史料集めまでしている暇はない、という不遜な態度をとるようになってしまう。そして、他の人の集めた史料ばかりに依存して、必ずまちがいを

1 明治大学の大学史料収集の歴史

(1) 戦前の大学史の教訓

明治大学が史料を公的、意図的に収集するということ、戦前になかったわけではない。その活動そのものを示す史料は現存していないが、結果としてのものは残されている。それはとりもなおさず年史である。その年史は二〇年史と五〇年史である。それ以外のは増補版

の類である。この年史の執筆・編集の際に史料の収集が行われたのであろう。また、戦前でも明治大学史に関する展覧会が催されている。後掲「明治大学歴史展関係資料 No.14 明治大学史の歩み」(P.112)のように昭和三年四月二一日〜二四日の震災復興記念「明治教育文化展覧会」、同六年一月一〜六日の創立五〇周年記念「明治五十年史料展覧会」、同一五(一九四〇)年一月一八〜二一日の創立六〇周年記念「近世文化展」がそれである。これらの展覧会の準備の状況は『明治大学学報』掲載の結果報告記事からいささか知りうる。しかし、当時の状況としてはやむをえないことであるが、記念誌の刊行、展覧会の開催といったそれだけの、いわゆる「花火の打ち上げ」で終わってしまい、残念ながら原史料の蓄積、事業の継続といった発想は希薄である。結果論ではあるが、年史刊行・展覧会開催により散失した史料があることは否めない。また、関東大震災の発生は明治大学の校舎を壊滅状態にした。とりわけ、錦華小学校(現お茶の水小学校)方面から迫ってきた舌火は避けがたいものとなり、それを察した職員(夏期休暇中ながら新学期準備の

ために出勤)が重要書類を持ち出した。最も知りたいことは当時どのようなものを重要書類として搬出したのか、ということであるが、今日の史料残存状況からすると学籍簿や金銭出納帳の類、つまり当時の現用文書が主であったと思われる。そして、多くの文書や物品は焼失してしまったわけである。

要するに、明治大学の場合、戦前は大学史料を意図的、体系的に処理をするという意識はなかったといえよう。それでも、大学史料ではないが、刑事関係史料を収集したことは意義がある。

(2) 八〇年史の判断

前記資料(P.112)にあるように、戦後まもなく創立七〇周年を記念して大学史展が催された。今日、この展覧会と法科七五周年記念展覧会の際に制作した展示物は、数はあまり多くないものの、特製の木箱に収められ、当歴史編纂事務室に保存されている。大学、あるいはその周辺の歴史を描いた絵画、時にはいきなり木板に写真や複製画等を貼りつけたものもあるが、いずれにしても史

料を厳重に保管したことは、明治大学にとって画期的なことである。

昭和三五(一九六〇)年一月一―五日に行われた創立八〇周年記念行事は特筆すべきことである。この創立八〇周年記念行事は、正式というか、実質的には同三三(一九五八)年八月一日付で準備委員会に計画が委嘱されたことから始まった。翌年の三月五日の準備委員会では記念事業中の建築事業のことが審議された(資料1)。また、企画課では五月一四日、「明治大学創立八十年記念事業計画(案)」(資料2)を作成しているが、その中の第二番目に八〇年史の刊行を盛り込んでいる。それらを下げた準備委員会は六月一六日、八〇年史刊行を決定し、七月二一日付で「明治大学創立八十年記念事業計画準備委員会答申書」(資料3)を作成し、上部機関に提出した。そこには「八十年史の編纂及び刊行」とあり、八〇年史の編纂をすること、そのために編纂委員会を設置するとある。この委員会が組織されたのは二月四日のことであり(資料6―1)、またメンバーが任命されたのは二一日のことである(資料6―3、7)。そ

の三日後の文書「委員会について」（資料6―2）によれば八〇年史は三ヶ年以内に脱稿するとされている。翌年一月一日の『明大広報』第23号には八〇年史記念事業の実施概要が公示された（資料7）。また、第一回目の委員会は一月二二日に行われた。ところが、そこにおける結論は「比較的簡単な案（画報的なもの）を作成すること」となった。さらには「正確な歴史を編纂することは、たいせつなことであるから、別に歴史編さん所を設立する必要のあること」が決まった（資料8）。その後、この編さん委員会はその方向で会議が進められた。したがって、各委員は史料の収集に当たるとともに、七月中旬には編集試案を作成し、理事会に報告することとなった（資料6―4）。ところが、九月二二日の同委員会の議題は「記念画報中止について」となっており、（資料12）この時点で八〇年史の刊行はとりやめとなった。

編纂室の設置は検討された。例えば一〇月五日の会議では「明治大学校史編纂室案」（資料15）が検討されている。さらに、その年の一二月には同委員会は「史料編纂委員会規程（案）」（資料18）を作成し、理事会に提出し

た。その第一条には同委員会の目的について、『明治大学史』（八〇年史ではない）刊行のため、史資料の収集・整理ならびに編纂業務を行うとうたっている。

以上、八〇年史をめぐる一連の出来事から明確に次のことが断言できよう。大学年史は安直なものを作るべきではない、作るからには史料の収集等を担当する委員会や編纂室を設置して本格的に当たるべきである、ということである。八〇年史編纂の中止は大学史の発展につながることもなかったといつてよい。これは高い見識と鋭い判断といえよう。

(3) 百年史編纂・組織変更と史料

昭和三七（一九六二）年五月一日、それまで大学史の事務を担当してきた企画課は組織変更により、企画室と広報課に分立することになり、後者が「明大歴史編纂に関する事項」を管掌することとなった（資料17）。そして、早速、学内各部署へ向けて史料の収集に関する文書を発している（資料20）。一方、歴史編纂委員会は広報課のセッティングにより聞き取り調査にかかっている（資

料21)。そのことがあった昭和三八（一九六三）年の一月一四日、「大学歴史編纂計画（案）」が作成され、その中で編纂室業務の基礎作業として史料収集のことが具体的にまとめられている（資料25）。また、この年、広報課歴史編纂係名で「明治大学歴史編纂計画について」が理事會に提出された（資料21）。とくに、その第二章には次のように述べられている。

編纂室は史資料の収集・整理・保存をはかる上からも資料室の役割を持つものであり、至急の設立を希望してやまない。

現在において、その史資料の収集をはからなければ、他日散佚された状態において、その復元は望みえない事である。

これをうけて、翌三九（一九六四）年六月一七日、広報課長名で「大学歴史編纂室設置について（お願い）」が作成された（資料27）。ここでは「広報業務と歴史編纂業務とは本質的に異なる」ことや「史料収集保管のため広報課も手狭」となったことにより史料室および保管の部屋確保を望んでいる。また、同年一月一日の参考資

料「大学歴史編纂計画（案）」では九〇年史編纂のこととともに、そのための「恒常的に資料室を設置」のことが記されている（資料28）。そして、同四二（一九六七）年七月一九日には『歴史編纂資料室報告』の第一集（田島義方文書目録）が刊行された。資料33は昭和四四年一月の広報課「昭和四五年度業務の要求予算」であるが、その第三項目をみると、目下、歴史資料室（広報課内）で史資料の収集に当たっていることが記されている。こうして、歴史編纂は広報課の中でかなり重要なセクションとなった。

この九〇年史は「大学九〇年小史」（仮称）とされていたが、結局は一〇〇年という大きな単位、それによる行事の方に吸収される形となった。一〇〇年史体制の下、歴史編纂資料室は広報課の一係のままであったが、同五二（一九七七）年六月に「明治大学創立一〇〇周年記念委員会設置要綱」が制定され、それにより歴史編纂委員会が設置された。その第一回目の会議は同五三（一九七八）年四月一八日に開催された（最終回は第七回、同六〇（一九八五）年七月一七日の創立一〇〇周年記念事業

委員会の解散まで続いた)。この委員会は一〇〇年史編纂の大綱を決める機関であったが、歴史専門委員会の設置と『図録・明治大学百年』(写真集)の刊行というふたつの大きな判断を下した。それにより発足した専門委員会は同五三年一月一六日に最初の会合を持ち、以降、同六三(一九八八)年九月一日には百年史編纂委員会に改組され、一九九五(平成七)年三月二四日・第一五四回の会議をもって解散した。

懸案となっていた歴史編纂資料室の独立は同六二(一九八七)年五月一日のことである。資料41の「学校法人明治大学事務組織暫定規程」にあるとおり、「歴史編纂事務室」として総務部に所属することとなった。とにもかくにも一課として独立することとなった意義は甚大である。

ここでの問題は編纂体制のことではないが、大学史料の収集と不可分の関係にあるので、簡単に触れた。大学史料の収集の体制や組織は関係者の労苦により目を追って拡充していったと評価してもけっして過言ではない。

(4) 新生・歴史編纂と史料

一九九三(平成五)年一月、歴史編纂事務室が主幹となり「明治大学の歴史展」を開催した。その目的は『明治大学百年史』最終巻の編集に際して、不足の史料を補うため、つまり大学史展を通して史料への理解を求めることであった。あるいは大学史関係団体の東日本大学史連絡協議会・西日本大学史担当者が本学で共催されることに協力するためであった。また、長年多くの方々に史料収集で指導・協力をいただいたことに報いるとともに公表したいという気持ちもあった。さらに、というよりも実は、というべきかもしれないがこうした史料および八〇年史・九〇年史・一〇〇年史の成果を「一発火花」ではなく、今後、いかにして大学の遺産として守るとともに、次代に生かしていくべきかという課題が横たわっていたからである。ここで確信したことは、一〇〇年史の編纂を終えてからその後のことを考えればよいということではなく、ふたつは雁行していく方がよいということである。さらに言うならば、東北大学のように編纂室と資料室が並存する形がより良い、ということ

にならう。

以上のような意識により、次の段階の準備も進められていった。それは具体的には一九九四（同六）年一〇月二〇日『大学史料保存・利用小委員会』（仮称）設置のお願い（資料47）などである。その結果として『明治大学百年史』が終刊した一九九五（同七）年二月一三日「明治大学大学史料委員会設置要綱」が制定され（資料48）、大学史料委員会と歴史編纂事務室の体制により、大学史料の収集・保存・活用が図られることとなった。この一連の出来事は明治大学および明治大学史にとって大きな進歩である。

以上のことを、ごく簡潔に整理してみると、次のようになる。

a 大学史料の収集は全体としてひとつひとつの段階をクリアーして発展的になされてきた。その契機となったのは年史編纂や展覧会である。

b とはいえ、戦前の場合には記念行事に対して華を添える、いわば「一発花火」のような存在であり、篤志家が奉仕的に当ることが多く、したがって史料保存等の

ことまでは及ばなかった。

c その後、八〇年史編纂の時、編纂を断念することによって、史料の重要性が明確に認識されるようになった。さらに、百年史編纂の時代には本格的に大学史料に当たることとなった。

五 百年史編纂の終わりころよりいままで収集した史料を公開するとともに、とくに不足の史料を収集しようとする動きもでてきた。それが大学史展の開催である。

f また、時折なされた組織改革の際には大学史料の収集・保存・活用をしやすいうように努力をしてきた。

g さらに、今後とも史料の収集に対する意識はますます高められ、そのための体制・組織あるいは施設の拡充はますます図られなければならない。

2 史料収集・整理からみた大学史料館

(1) 史料の収集と大学史料館

明治大学において大学史料館建設の要望は今に始まったことではない。なぜ、大学史料館が必要なのか。この

ことについては、すでに多くの人が説いており、今更ここでとりあげる必要もないが、あえて言えば、徹視的には史料を受け入れたり、整理したり、あるいは展示したりする場所がなければならないこと、巨視的には大学の「心の拠り所」とか、アカデミズムの「貯蔵所」や情報発信基地となる場所がなければならないことが理由であらう。

最近、大学史料の収集と保存について、次のようなやりとりがあった。

私「いずれ、この史料はどこかに寄贈されるような予定はおありですか」

史料所蔵者「これはやがては明治大学に寄贈するのが一番いいでしょう。明治大学でしっかり保管したり、飾ってもらえたら」

このひとこまからも、大学史料の収集と大学史料館が無関係ではないことがよくわかるし、また、確固とした（華美なものということではない）施設・設備と史料の有効活用の機関のないままでは受け入れにくいことを物語っている。例えば日本女子大学の場合は、以前、『大学

史紀要・紫紺の歷程』第2号に紹介したことがあるが、大学史料館の成瀬記念館で展示と大学史料収集を連動させている。前記したように当室でも近年、大学史展を三回催したが、オープン前はただけではなく、その期間中、また終了後でも史料の寄贈が絶えなかった。そして、そのたびに次のようなことばが聞かれる。

「このようなものでも史料になるのですか」

「世にでてうれしいです」

(2) 大学史料館建設の運動

ところが、現在、明治大学には大学史料館がない。大学史料館の建設運動はあった。その最初は昭和五六（一九八一）年七月二八日の『大学史資料館』（仮称）設置についてである（資料37）。この文書は『明治大学百年史』の編纂に当たっている歴史編纂専門委員会が理事長に提出したものであり、「歴史編纂事業はあくまでもその根本は資料の発掘・収集にある」とし、次に、そのことと目下、広報課歴史編纂室が当たっているが、さらに広く利用に供したいとある。また、収集史料が手狭に

なっており、発展的に史資料館が必要であるとし、施設の面積等のデータも添えてうったえている。

さらに、昭和六〇年五月三十一日、同委員会は事務組織改善委員会に宛てて、「歴史編纂資料室の組織上の位置づけ及び大学史資料館・大学史資料館事務室への移行について（お願い）」を提出した（資料39）。ここでは百年史の編纂のためや大学史資料の収集・整理・保存のためといった設置目的以外に研究機関的要素の保持、あるいは図書館との相違をも強調している。そして最後に事務組織図中の商品陳列館の横に独立機関として大学史資料館および同事務室を加筆して、添付している。

その後、同委員会の後身の百年史編纂委員会が理事長に『『大学史料館』（仮称）設置について（お願い）」を提出した（資料40）のは、一九九四年四月七日のことである。この中では、これまで膨大な史料を収集・整理してきたが、今後は保存し、公開しなければならぬとし、最後では「そのなんたるかを学外、つまり社会に向かつて明示することは、今後二一世紀に予想される大学生生き残りのなかで不可欠なことであろう」と結んでいる。ま

た、その関連資料では大学関係者の「拠り所」（常設展示場）の必要も説いている。

ところで、資料46に「メモリアル・ホール」という文言がある。このメモリアル・ホールなるものは、のちの明治大学リビティタワー二三階の岸本辰雄記念ホールのことである。当時、百年史編纂委員会および歴史編纂事務室ではこの場が大学史料館として実現することを望んでいた。やがて、建設の主幹部署の総合施設整備推進室における会議を経て、当ホールのレイアウトと展示構成が博物館事務室と歴史編纂事務室に委嘱された際に両室共作の報告書を作成し（資料49）、提出したが、これは幻と化したようである。

(3) 現在の状況

もはや大学史料をベースに確固とした大学史料館を建設することは夢物語や理想論の段階ではなくなり、外国だけではなく、日本国内でも着実に増加している。今や大学史料館はその大学の理念形成の場となったり、知的シンボルともなっている。

そうした社会的な趨勢の中で、大学史料委員会および歴史編纂事務室では駿河台キャンパスB地区開発にからめて大学史料館開設を検討している。また、当室では、当分の間、随時、大学会館一階にスペースを得て、大学史料の収集・保存・活用に理解と協力をいただくために一九九八（平成一〇）年二月四日、「大学史料のミニ展示について（案）」を提出し（資料60、本誌「歴史編纂事務所室の記録」の方に掲載した）、理事会の承認をえた。

なお、教務部の管轄のもとに大学史料委員会・歴史編纂事務室等々のスタッフにより二年前より始めた学部間共通総合構座「日本近代史と明治大学」（二単位と四単位）は一九九九（平成一一）年度より駿河台・生田キャンパスでも開講することとなった。この授業によりまずまず大学史および大学史料の重要性は一層認識されることと思われる。

3 大学史料の収集と整理——現状と課題を中心に——

(1) 史料収集の姿勢

史料収集に関する業務は収集・保存・活用といわれる。その内、本稿では収集のことについて扱ってきた。ところで、収集した史料の整理はその三つの分野のいずれに属するのかわくという素朴な疑問がわく。しかし、そのこと自体はここでは本質的な問題ではない。そこで本稿では史料収集のなかに整理のことも含めることとした。

まず、その史料収集の現状と課題について、これとても大きなテーマであるので、いくつかの項目に絞って追ってみる。最初に史料収集の姿勢について、述べたい。今日にあって「大学史の広がり」や「大学史の深まり」は否定しがたい事実である（拙稿「大学史の広がり」『大学史紀要・紫紺の歷程』創刊号、同『大学史の広がり』を考える）『大学アーカイヴズ』No.17）。であるから、当然、大学史料の調査の対象や範囲も多様化し、拡大している。例えば収集の対象とするものが文書・写真・新聞雑誌・書籍といったものだけでなく、建築物・調度品

・食物・実験器具等々、さまざまなものに目をくばらなければならなくなっている。最近、関係者の努力により関東大震災復興時の図面六五〇点が当室に寄贈された。

目録後掲「歴史編纂事務室の記録」(参照)の作成にはきわめて難航した。とくに土木学・建築学の知識が必要なことを痛感した。収集の項目も学校教育の分野だけではなく、増大の傾向にある。たとえば教職員の学外活動、卒業生の業績等々、増大の傾向にある。たとえば学校教育内であつても制度はいうまでもなく、学生寮・筆記用具・サークル活動等、つねに社会史・生活史的な事柄にも目をくばらなければならない。また、対象地域は大きく学内と学外に分けられる。前者は当たり前のようであるが、それでも部局程度では収まらない。ましてや学外はますます広がっている。近年、当室では「校友」・「地域」をキーワードに、卒業生による地域の啓蒙・教育活動を追っているため、地方・地域の史料を探し求めている(当報告集・第19集「明治大学と校友(一)」。国内だけではなく海外の調査も必要である。例えばGHQ占領期の文書は戦後の大学改革の実態を知る絶好の史料である。

国会図書館所蔵マイクロ・フィルムの閲覧等を終えたら、ぜひアメリカのメリーランド大学などに出向くべきである。また、明治大学の場合、創立者のパリ大学留学時のこと(学籍簿は確認済み)や教師ボワソナードやアッペールのことはフランスでも史料調査をすべきである。例をあげてもきりががない。いずれにせよ、大学史料の世界はますます広がることは間違いない。

問題は常に鋭い眼力とワイドな視野を持ちつつ、自らの足で探し求めるということである。いくら今日は情報化社会とはいえ、情報機器の前に座っているだけでは史料は近寄ってこない(情報機器を無視せよといっているわけではない)。待っていても史料は集まらない。

ここで、前述したことと一見、無盾するようなことを言いたい。つまり、これほど大学史が広がり・深まると自然に自ら求める史料以外のものも集る。それはそれでもまた大変、結構なことである。学内事務室の移転のために廃棄したいが一度見てほしいと連絡をうけた史料の中から貴重なものを見出し、驚くとともに感激したことがある。年度末に退職される方々が思い出のものを寄贈し

てくださることもある。「歴史編纂友の会」(実在しない)会員のごとく古書の情報を連絡してくれたり、中には個人で購入してまで史料を寄贈してくださる方もいる。ただし、こうしたこともただ受身でいても起こることではなく、いままでの日々の労苦の積み重ね、いわば大学史の広がり、深まりの結果である。

(2) 史料収集の普遍化

史料収集には担当者の情熱・思い入れが必要である。しかし、それだけでは済まない。とりわけ大きな問題として史料収集の普遍化・一般化がある。これはきわめて難物である。明治大学では昭和四三(一九六八)年三月二五日に制定し、その後、幾度か改定された「文書の整理及び保存に関する規程」がある。その先見性には見るべきものがある。しかし、少なくとも「第九条2 各部署長は、廃棄しようとする文書が歴史編さんの参考となると判断される場合は、総務部歴史編さん事務室長と協議の上、その処理を決定するものとする。」という肝心の部分はスムーズに機能しているとは言い難い。また他

大学にあっても保存規程や保存委員会による史料収集体制のことを耳にすることはあるが、機能している話を聞くことは少ない。そのことは大学史の分野だけではなく、規模の大きな機関、例えば県立文書館クラスでも苦慮しているようであり、「文書が流れていく川岸で海に流れ込む寸前、係員が柄杓で汲み取っているようなものです」という話を聞いたこともある。事実、当室でも古紙回収日は忘れてはならないほど重要な日である。しかし、いずれにせよ史料がシステムチックに収納されるのにはいけないのか、実情に即して再検討をしなければならない。また当然、成功している他の機関等の事例も研究する必要がある。

もうひとつ、大学史料の収集上、大きな問題となっており、早急に解決しなければならないことがある。それはいわゆる「住みわけ」の問題である。大学史という分野は新しいだけにその担当部署が収集する史料は図書館あるいは博物館、さらには学部資料センターなどと重なり合うことがある。妥当な表現かどうかはわからないが、

「敵は内にあり」ということでもある。むしろ、こうした機関が分立するのは訳があり、社会や文化の進歩の証である。最も理想的な言い方をすれば、関係部署が相会し、所蔵史料の交換をすればよいが、事は容易ではない。むしろ、従前から所蔵している史料はその部署のままとし、相互利用の方法を検討する、そして徐徐に調整していくことの方が解決が早い。とはいえ、今後の史料収集の方針については早急に協議をしなければならない。そうでなければ、せっかく収集した史料が死んでしまう。

ところで、本学刑事博物館が史料の現地保存を重視し、散逸する恐れのある文書を古書店を通じて購入していることは大いに学ぶべきことである。全てがそうとはいかないまでも、やはり史料の原蔵者や地域の史料館（ある場合）との関りも考慮しなければならない。「大学が一方的に史料を持って行ってしまった」ということは昔話にしたい。無理やりに原史料の収集にこだわらなくてもよいのは、今後、ますます進歩するインターネット化と関係する。それを利用して史料に接すればよいことである。また、貸借等の体制を整えればよいわけである。こ

のことは、学内の場合も同様である。当室でも、学内各部署からの史料整理の依頼が多い。例えば教務課・大学院事務室、目下は体育課等々である。整理した史料は入力し、原史料は当面、原課に置き、状況をみて、当室に移管するようにしている。こうした考え方は史料の収集に水をさすような言い方かもしれないが、実利的であろう。そして、大学史料について、学内のオンライン化はもちろん、各大学間でもそれを積極的に推進していくべきである。さらに、ゆくゆくは全国大学史情報センターのようなものを設立して、情報交換を行うべきである。

(3) 史料の整理

何をどのような目的で収集するのかは、その業務の目的や体制の現状、さらには収集経費等々で異なるであろう。また、自然に集まる史料とでも、さまざまな条件や環境などによっていろいろであらう。しかし、いずれにしても、史料は集まる。では、どのようにしてそれを整理したらよいのだろうか。

まずは大学史料の分類の仕方である。かつて、寺崎昌男氏は『東京大学史紀要』第4号に「大学アーカイブズとはなにか」と題して、大学史料の内訳を整理した。それは次の一〇種類である。

- (1) 大学運営の歴史を示す公的文書、簿冊、事務所記録、その他の文書。
- (2) 大学内諸機関の議事録、意見書、答申、報告書等。
- (3) 大学の刊行する年報、要覧、雑誌、新聞、広報紙誌等。
- (4) 大学卒業生の卒業証書、アルバム、講義ノート、伝記、書簡等々(とくに当該大学に関係あるもの)。
- (5) 学長、学部長、教授、職員等の私蔵する文書類のうち、とくに大学に関係するもの。
- (6) 大学設立者、寄附者、卒業生など関係者の文書。
- (7) 大学の歴史を示す記章、門標、記念品、トロフィー、旗、制服、制帽、印璽等々の物品。
- (8) 大学に関する写真、テープ、ビデオテープ、フィルム等。
- (9) 大学史に関する諸刊行文献。

基幹部分は(1)～(6)等の文書資料であるが、それに限定せず、(7)～(8)等の記念的物品、視聴覚資料の類も収集・保存するところに、大学アーカイブズの特色がある。このほか、

- (10) 学問史的な意味をもつ実験器具、研究室製作品、報告書等。

また、われわれは「大学史編纂と資料保存―現状と課題―」と題し、共筆したが、その中で「資料の収集と整理」や「大学資料の性格」という項を設けた(『記録と史料』No.3、一九九二(平成六)年八月三一日発行、全国歴史資料保存利用機関連絡協議会)。そこでは収集資料の整理は容易ではないこと、また大学史料整理の方法論は定立していないこと、さらに史料収集の範囲は広がっていることを述べた。この状況は本論文が発表されて約七年経つ今日でも変わっていない。その一方では、大学史料は毎日作りだされ、多量に収集されているのが現実である。

私は大学史料の整理に対しては次のように考えている。

簡単な整理方法であること、早く整理できること、しかも整理結果（例えば目録）がわかりやすいことである。したがって、形態分類を中心とし、その内訳は次の六種だけとする。

文書、物品、写真・CD・テープ、書籍、新聞・雑誌、その他

この「その他」には平常、予期しないもの、あるいはその大学独自のものを入れればよい。そして、数量が最も多い文書の場合はこの分野史料を一点ずつ整理（いわゆる「封筒の上書き」など）し、さらにコンピュータに入力する。この整理や入力の際、内容のデータは多めにとると、問い合わせ等、後の検索で威力を発揮する。また、入手経緯、素材、形状あるいは、少し細かいことではあるが現物か複写かも記録しておくことと展示の際に便利である。収納場所も付記しておくことよい。それは収蔵室以外に史料を保管することもあるからである。いわゆる、その「別置史料」で最も問題となるのは現用・半現用のものである。資料65は教務事務部の史料を、資料67は大学院事務室のものを整理した時の目録の目次である。こ

の場合はまだ業務のために使用しているものも含まれていたために、その部署の業務内容に合わせて分類し、整理をした。したがって、項目分類の方式であり、入手順・残存配置順ではない。そして、作成した目録一件々に当室の史料整理番号を付した上で入力した。当然、しばらくは当室外の別置文書となる。もちろん、このコンピュータ処理以前は、いわば以前から近世史の関係者で行われていた項目による文書分類法（A支配、B村政云々）によっていた。資料66は「歴史編纂資料室所蔵目録」であるが、昭和五〇年代のはじめに作成し、同六三年まで使用していたものである。これは同志社大学のものなどを参考に、当時としてはかなりの労力を割いて作成したものであり、一定の有用性があったと思われるが、今となっては分類が複雑であり、迅速処理に欠ける気嫌がある。また、写真資料の整理は資料68の「写真資料整理台帳」（一九九五年三月三一日）のように整理項目を起こして、項目単位で写真をポケット・アルバムにまとめて収納してきた。しかし、目下はアルバム一冊につき一小項目としている。たとえば、「リバティタワーの竣

工式」でアルバム一冊とするように、つまりタイトルを具体的に付するようになった。そして収集と同時にアルバムに整理していく。このようにすれば収集・入力に時間や手間がかからない。あとの利用にあたっては例えば「リバティタワー」で検索すればよい。容易に検索ができるわけである。これとても、あるいは画像一括処理が理想かもしれないが、検討すべき点が多々あるのが実情である。

ただし、史料整理上、注意すべき点は史料をあまり分割しないことである。例えば、文書の中に写真が一枚はさまれていた場合は、文書に入れ、写真(アルバム)の方には複製で処理する、といった具合である。

とにかく史料の整理はその後の保存・活用のための手段である。何々方式の整理が絶対というわけではない。広い視野と状況に応じた対処および利用のしやすさを常に心がけていなければならないだろう。

(4) 史料収集と収納スペース

他の史料館や文書館を見学することが多い。史料を満

載したトラックがバックして入ってきて、史料をベルトコンベアに乗せるところ、その隣にある燻蒸の施設、多くの人が働いている史料整理の部屋、向こう五〇年間は大丈夫という保存庫等、気が滅入るばかりである。また、学外の史料管理の講義においては自己の職場の施設と照らし合わせると茫然自失の状態に陥る。

多くの史料論者が説くように、いずれの史料とも平等に重要である。できることなら全ての史料をのこさなければならぬ。しかし、そのことは現実には不可能なことも皆知っている。そこで、どうしても史料の選別をしなければならぬ。その選別をどのようになすべきか、さまざまな考え方が提示されている。だが、それはまだ試行錯誤の段階であり、決定打は出ていない。とすると、これもまた置かれた状況やケースに応じて対処していかなければならない。

当室の収蔵室(「資料室」)は駿河台キャンパスA地区校舎建設にともなう仮の場ということもあり、すでに満杯状態である。したがって、何でもかんでも収蔵するというわけにはいかない。しかし、史料は欲しいし、また

多くの方々が寄贈・移管してください。また、史料は図書館などとは異なり、多種多様で収納スペースをより多くとる。そうした矛盾をどのように解決したらよいか、日夜、腐心している。そうした中で目下、私は次のようなことを考えている。当面は寄贈や移管をしてくださるものや自動的に移管されるものは全て受け入れる。重複する史料でも、そのようにする。一方、探し求めるものは選択をする。しかし、これも変則の方法であり、一日も早く広く堅牢な収納スペースを設けて、収集制限を解除していくべきだと自戒している。「守り」の姿勢による史料収集に前進は少ない。

むすび

本稿にとって「むすび」とか「まとめ」ということは相応しくないかもしれない。まだまだ、大学史料の収集・整理の歴史は浅いし、それに一般の史料の場合ですら定立していない。それどころか、このところ史料の収集・整理に対し見直しまでなされているからである。た

だ、一応、本稿ではいささかの問題提起をしてきたので、そのことを整理してみる。

a 社会や学問等が急変する中で、大学史料の収集について、今一度、過去を振り返ってみる必要がある。とりわけ、大学史料の重要性を再認識するとともに、そのことに関った先人たちの努力の過程を再認識しなければならぬ。史料なくして大学史なしである。

b とくに大学史料を自ら探し求める姿勢が第一であるが、それとともに史料が自然に移管される体制・組織作りを急がなければならぬ。

c 現実には大学史料は多様化し、かつ急増している。収集の上でそれに対応できるように、理想と現実の矛盾、ハードとソフトの関係、類似施設との連携等々を考慮し、広い視野と柔軟な姿勢で対応していくべきである。史料を殺さないために。

d 一方、こうして複雑化し、増加していく大学史料に対して技術的には簡単で分かりやすく、かつスピーディに処理をしなければならぬ。

e そうしてしっかりと収集され、整理された史料に基

づく大学史料館こそ必ずやアイデンティティの場、情報発信基地となるであろう。そして、各大学史料館の中核となる全国、ひいては世界の大学史情報センターという場も必要となろう。

以上のことをさらに端的かつ比喩的に述べるならば、以下のようになろう。樹木にたとえるならば、葉や花（年史、展覧会）が繁茂し、咲きほこるためには、まずは根・茎（史料収集、整理）の存在が重要であり、そうして成った樹木は伐採・製材（大学改革）により立派な建物（大学史料センター等）となるのであろう。

なお、本稿は個人的な論考であるが、援用した史料は本学の歴史編纂に関った多くの方々の努力の結果としてのものである。一言断っておくとともに改めて感謝するしだいである。また、本稿の作成に当っては現室員の指導と協力によった。

(注)・本文中の資料番号および資料は第二部明治大学の大学史料

・資料関係（後記）を参照されたい。

・年号および年度の表記は明治大学の場合、一九八九（平成元）年二月六日より、原則として西暦を用いることとなった（「文書の作成基準等に関する規程の一部を改正する規程」）。よって、本稿では、その年月以前は元号の次にカッコを付して西暦（初出のもののみ。次出からは元号のみ）、以後は西暦の次にカッコを付して元号（初出のみ、次出からは西暦のみ）で記した。



第二部 明治大学の大学史料・資料関係

- 各史料の番号（No.）は「明治大学歴史編纂関係資料一覧」中のそれと同じものである。
- その一覧表中、ゴチック体の史料番号は、後のページに史料紹介をしてあるものである。
- 史料の表記については読みやすくするため、最低限の範囲で変更等をした。
- 史料文の省略は、極力ひかえたが、やむをえない場合はした。その場合は「(略)」とした。

《文書》

明治大学歴史編纂関係資料一覧

- 1 昭和34・4・1 『明大校報』第1号 創立80年記念事業計画準備委員会
- 2 34・5・14 創立80周年記念事業計画（案）
- 3 34・6・11 『明大校報』第8号 創立80年記念事業計画準備委員会
- 4 34・6・22 『明大校報』第9号 創立80年記念事業計画準備委員会
- 5 34・7・21 明治大学創立八十年記念事業計画準備委員会答申書（二）八十年史の編纂および刊行
- 6 34・12・24 明治大学八十周年記念委員会綴
委員会について（歴史編纂委員会）
明治大学創立八十周年記念行事実施概要
創立80周年記念祭実行についての組織
創立80周年記念祭委員会について
各委員会の現状（概要）について
歴史編纂委員会経過報告（S35・9・5）
- 7 35・1・11 『明大校報』第23号 明治大学創立80周年記念行事実施概要
- 8 35・2・22 『明大校報』第27号 歴史編纂委員会報告
- 9 35・3・2 『明大校報』第30号 歴史編纂委員会
- 10 (35)・4・30 歴史編纂委員会開催通知
- 11 35・7・8 歴史編纂委員会開催通知
- 12 35・9・20 歴史編纂委員会開催通知
- 13 (35)・9・28 創立八十周年記念歴史編纂委員会開催通知
- 14 35・6・1 明治大学創立八十周年記念事業計画（五 歴史編さん）
- 15 35 明治大学校史編纂室規程案
- 16 (34 ♪ 35) 明治大学校史編纂室規程案
- 17 37・5・21 『明大校報』第96号企画室および広報課の設置について
- 18 (36 ♪ 37) 歴史編纂委員会規程（案）
- 19 (37 ♪) 歴史編纂室並びに歴史編纂委員会設置規程案

- 20 38・2・20 明治大学歴史編纂業務に関する資料保存方について（依頼）
- 21 38・5・6 座談会開催について“大学史編纂のあり方について”
- 22 38・5・11 座談会開催お〔ママ〕通知—大学歴史編纂のあり方について—
- 23 38・9・11 大学歴史編纂のための『座談会』開催について
- 24 38・10・ 大学歴史編纂委員会開催について
- 25 38・11・14 大学歴史編纂計画（案）
- 26 38 明治大学歴史編纂計画について（理事会提出資料）
- 27 39・6・17 大学歴史編纂室設置について（お願い）
- 28 39・11・11 大学歴史編纂計画
- 29 40・4・20 実行委員会議事録（第3回）—報告 法学部史に対する歴史例よりのアプローチ—
- 30 40・4・22 実行委員会議事録（第4回）—座談会 長野理事長を囲んで—
- 31 40・6・15 第5回実行委員会記録（法学部史の構成等）
- 32 43・3・25 文書の整理及び保存に関する規程
- 33 44・12・8 昭和45年度業務の要点（Ⅲ歴史編纂について）
- 34 53・5・18 歴史編纂委員会資料No.1 主要私立大学歴史編纂計画調査 第1次報告
- 35 53・12・16 歴史編纂専門委員会議事録（第1回）
- 36 56・7・17 歴史編纂専門委員会議事録（（第22回）審議事項「大学史資料館」構想の理事会提出について）
- 37 56・7・28 「大学史資料館」（仮称）について（お願い）
- 38 56・9・2 歴史編纂専門委員会議事録（第23回）（報告事項「大学史資料館」について）
- 39 60・5・31 歴史編纂資料室の組織上の位置づけ及び大学資料館・大学資料館事務室への移行について（お願い）
- 40 60・9・23 歴史編纂専門委員会議事録（第61回）（報告事項「大学史資料館」設置について）
- 41 61・12・ 学校法人明治大学事務組織暫定規程
- 42 昭和 歴史編纂専門委員会規程（案）
- 43 昭和 歴史編纂資料室業務一覧図

- 44 1992・10・27 歴史編纂業務に関する1993年度計画書（2「大学史資料館」〈仮称〉構想の実現化について）
- 45 1994・4・7 「大学史料館」（仮称）設置について
- 46 1994・10・20 「歴史編纂業務に関する1995年度計画書」（メモリアルホール構想）
- 47 1994・10・20 「大学史料保存・利用小委員会」（仮称）設置のお願い
- 48 1995・2・13 明治大学大学史料委員会設置要綱
- 49 1996・7・23 A地区23階記念ホール常設展示について
- 50 1998・12・14 大学史料のミニ展示について（案）
- 51 不明 明治大学歴史編纂室設置要項，歴史編纂専門委員会規程
- 52 不明 歴史編纂に関する他大学調査
- 53 不明 大学史刊行委員会規程（案）
- 54 不明 歴史編纂委員会規程（案）
- 55 不明 歴史編纂委員会設置要項（草稿）
- 56 不明 歴史編纂室設置要項

《文献》

- 57 昭和58・3・31 『東京大学史紀要』第4号寺崎昌男「大学アーカイブスとはなにか」（東京大学）
- 58 昭和61・3・31 『明治大学百年史』第1巻 史料編〔木村礎「編纂経過の概要」（明治大学）
- 59 1987・3・31 『東洋大学紀要』第5号木村礎「私立大学における年史編纂の現状と問題点」（東洋大学）
- 60 1992・8・31 『記録と史料No.3 澤木武美他「大学史編纂と史料の保存一現状と課題一」（全国歴史資料保存利用機関連絡協議会）
- 61 1994・3・31 『明治大学史紀要』第11号 中村雄二郎「近代史としての大学史」（明治大学）
- 62 1994・3・31 『明治大学史紀要』第11号鈴木秀幸「『明治大学百年史』編纂と「明治大学の歴史展」について（明治大学）
- 63 1997・9・26 『大学アーカイヴズ』No.17鈴木秀幸「『大学史の広がり』を考え

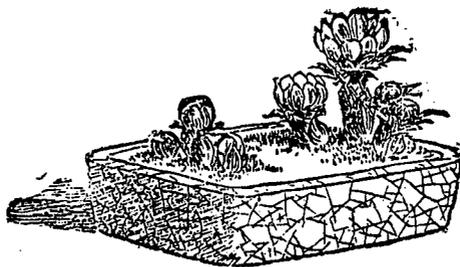
て」(全国大学史資料協議会)

- 64 1998・3・31 『大学史紀要 紫紺の歷程』創刊号鈴木秀幸「大学史の広がり」
(明治大学)

《その他》

- 65 昭和59・5・5 教務課所蔵文書目録(1990年増補)
66 昭和50年代 歴史編纂資料室所蔵文書目録
67 1993・6・11 大学院所蔵文書目録
68 1995・3・31 写真資料整理台帳

(注) 年号および年度の表記は明治大学の場合、1989(平成元)年2月6日より原則として西暦を用いることとなった(「文書の作成基準等に関する規程の一部を改正する規程」)。よって、本稿もそれになった。



資料 1

創立80年記念事業計画準備委員会

3月5日(木)

記念事業中の建築事業に関する事項について審議した。

資料 2

明治大学
創立80周年記念事業計画(案)

企 画 課
34. 5. 14

明治大学創立80周年記念事業計画(案)

- (1) 和泉記念会堂(仮称)の建設
- (2) 80年史の刊行および学術叢書の出版
- (3) 奨学金制度の再検討
- (4) 学術褒賞制度の創設(学術賞, 文芸賞, スポーツ賞の制定)
- (5) 法律相談所の開設
- (6) 中・小企業相談所の開設
- (7) 海外遠征(学術調査団の派遣)

(8) 記念映画の製作

(略)

2 記念出版

(1) 明治大学80年史の編纂および刊行

光輝ある本学の80年の歩みを刊行物として発行し歴史を顧みることが意義のあることである。

日本の私学の歩んだ道は決して坦々たる大道でなく、むしろ苦難の連続であった。80年の歴史を彩る先覚の苦心の賜である今日の本学が、その先覚の遺業に思いをいたし、歴史編纂に当ることは将来の本学の礎となる今日の我々がなすべきことに重大なる反省を与えるものと思う。然しながら、80年史の編纂は決して簡単なものではなく、現在最も必要と考えられることは、従来各所に散在していた史料を収集し、整理することである。

このためには

- (ア) 臨時独立の機関として歴史編纂所を設ける。
 - (イ) この運営のために若干名の委員からなる歴史編纂委員会を組織する。
 - (ウ) 編集委員の構成は、主として歴史専門家をもって当て、その他学問に明るい者をふくめる。
 - (エ) 編纂所には、専任または兼任の職員2名乃至3名を置き実務に当たらせる。
 - (オ) 編纂のため経費は、大学が負担する。
- 以上のことが実施方策として考えなければならない。

(2) 学術叢書の出版

本学が総合大学として、日本の学問文化の一翼を担っていることは論をまたない。

従来記念論文集では、絵画的色彩をまねかれることはできないし、また80年の記念事業として、どれほど学問的な価値があることかは不明である。論文集の出版のための論文ということではなく、社会科学、人文科学、自然科学の3部門ごとに学問的に価値あることを認められるものを叢書として出版することの方が意義あると考えられる。

この実施に当っては、3部門をそれぞれに委員会を設け、審査編集に当らせる。具体的内容について計画することは、現在のところ難かしいので委員会を設けて検討することが妥当と考える。

以上

資料3

昭和三十四年七月二十一日

明治大学創立八十年記念事業計画準備委員会答申書

創立八十年記念事業計画準備委員会

答申書

昭和三十三年八月十一日付をもってご諮問のありました、創立八十年記念事業計画については、委員長に長野国助、副委員長に武田孟・後藤小太郎が選任され、以来数次にわたって会議を開催、慎重に審議を重ねて、漸く去る七月四日審議を終了し、次のとおり結論を得ましたので、ここにその大要を述べて答申いたします。

(一) 八十年記念館(仮称)の建設

本大学の創立八十年を記念するものとしては、いろいろの事業が考えられるのであるが、中でも記念館の建設は、最もやさしい事業として、多くの委員の要望するところであった。しかし何分にも地域や予算に制限があるので、種々検討はしてみたが、結局次のような計画に落ち着いたのである。

即ち本計画は、本学に最も由緒の深い駿河台の一角に、記念館を建てようというのが、その趣旨であって、まず建設用地には現在の四号館あとをこれに当てるとのことについては、意見の一致をみましたが、建物および収容施設については、駿河台の中心的建物ということを考慮し鉄骨鉄筋コンクリート造、地上八階、地下一〜二階建程度のもの、建坪三四〇坪、延約三、〇〇〇坪の建物が適当と考えられ、また内部における施設についても、種々と論議いたしました。総長室、理事長室をはじめ大学本部を集中統合するほか、記念ホール等を収容することが適当であろうという意見が出されたのであります。この点につきましては、既に進行中の総合計画との

関連もありますので、具体的な立案については、充分にその間の調整を計られるよう希望いたします。

(二) 記念刊行物の出版

1 八十年史の編纂および刊行

八十年記念事業のうちに、本学の八十年の歴史を編纂し、記念刊行物として出版することは意義のあることと考え、事業の項目の中に加えたのである。この実行に当たっては、専門家スタッフによる編纂委員会を設けることが妥当と考えます。

2 学術叢書の出版

本学創立八十年を記念して、本学の学問の真価を世に問う学術叢書の刊行は、まことに意義のあることであると同時に、記念事業としてもふさわしいものであると考えます。

この実行に当たっても、専門委員会を設けて検討することが適当であると考えます。

(三) 奨学金制度の創設

本委員会は、本学が教育の府であることの意義を考え、学生の育英奨学金制度の充実をはかることの必要性を認識し、現在本学が行なっている貸与制度のほかに、母校出身教授の養成と、全国の俊秀を集めて社会的に有益な人材を育成することを目的とする奨学金制度の創設を記念事業の一環に加えることが適当であると決定いたしました。この具体化については、前項同様、専門委員会を設けて検討することが妥当と考えられます。

(四) 学術調査団の派遣

1 海外調査

本計画は創立八十年を記念して、国際的規模をもつ学術調査を行うものであって、その概要は、本学の民族・考古学・地理学等の教員スタッフと、体育会山岳部をもって組織する調査団をアラスカに派遣し、新旧大陸における民族・文化の交流移動の調査を中核とし、あわせてマッキンレー連峯の登頂を実施しようとするものであります。本委員会は、本学の学術振興のためにも、また八十年記念事業としても、有益なる事業であると考え、採択いたしました。これが実施に当たっては、万全の準備を整え有効なる成果を期待するものであります。

2 国内調査

本件は、学生会からの要望により本委員会が採択した事項であって、本学の教育研究スタッフと学生および校友の協力により、国内において総合学術調査を実施しようとするものであります。また、本計画を成功に導くためには、まづもって有効適切な研究テーマを設定する必要がありますので、これが具体化のために、早急に専門委員会を組織すべきであると考えます。

(五) 学生会館の設置

本件は、学生会の要望により、現八号館を改装整備して、学生会館とすることを、記念事業の一環に加える旨承認した事項であって、昭和三十六年以降使用できるよう改装工事を推

進させることを要望いたします。

(六) 校友会館（仮称）の設置

本件については、校友会からの要望により、種々検討いたしました。総合計画による教育施設の整備充実に応じ、現小川町校舎を改装し、これを学校法人が所有管理する校友会館に転用するという従来の方針の実行を記念事業の一環に加えることにいたしました。

(七) 映画の製作

本件は、当初、昭和三十四年度予算委員会において審議されたものでありますが、本委員会は、映画の製作を記念事業の一環として実施することを妥当と考え承認いたしましたものであります。

なお、当然のことながら、本事業計画を遂行するためには、財政措置を講ずる必要があります。本委員会におきましても各議案審議の過程において募金の規模や方法等について、種々論議をいたしました。結論として、法人・校友・教職員および学生父兄を対象とし、分割または一括払、募金目標二、二億五千万円という意見が出されたのであります。募金計画の重要性に鑑み、適正な規模と方法を規制する具体的な募金計画を樹立することを要望いたします。最後に本事業計画を具体化するために、記念事業実行委員会およびこれに付属する専門委員会を早急に組織するよう重ねて要望し、本計画に関係する資料を添付し以上をもって本委員会の答申といたす次第であります。

昭和三十四年七月二十一日

創立八十年記念事業計画準備委員会

委員長	長野 国助
副委員長	武田 孟
副委員長	後藤 小太郎
委員	神保 成吉
委員	松本 留義
委員	椎名 良一郎
委員	三神 修
委員	石田 梅次
委員	今野 幹彦
委員	阿保 浅次郎
委員	伊藤 省吾
委員	木村 尚一
委員	渡辺 政人
委員	水野 東太郎
委員	中川 富彌
委員	森永 太平
委員	北 耕二
委員	近藤 栄一
委員	加納 伸三
委員	松岡 熊三郎
委員	小出 廉二
委員	関場 保
委員	麻生 平八郎

学校法人明治大学理事長
長谷川 大 一 郎 殿

委 員 青 山 公 亮
委 員 石 田 四 郎
委 員 千 種 虎 正
委 員 佐 々 木 吉 郎
委 員 野 田 孝 明
委 員 春 日 井 薫
委 員 加 藤 五 六
委 員 浅 羽 靖 樹

資料 6 - 1

創立80周年記念祭実行についての組織

34.1.24

(一) 創立80周年記念祭総務委員会の構成

総長を委員長とし、委員は次のものから選び、人員は、100名以内とする。

- A 理事，監事，各学部長，大学院長，短期大学長，教務部長，学生部長，学校長
- B 教職員及び評議員から若干名
- C 校友会役員から若干名
- D 学生から若干名
- E 校友の政界，財界，官界，法曹界，報道諸関係等から若

干名

(二) 顧問

記念祭並びに募金について、顧問若干名を置く。

(三) 各部委員会の構成

(ア) 式典準備委員会

総務担当理事を委員長とし、学内から15名（一部学生3名，二部学生2名を含む），学外から5名をもって構成し、式典並びに諸行事の企画をする。

(イ) 80周年記念館建設委員会

財務担当理事を委員長とし、総合計画委員並びに校友から若干名，工学部建築科教授1名，管財課長をもって構成する。

(ウ) 歴史編さん委員会

図書館長を委員長とし、教職員（文学部史学関係教員1名を含む）並びに校友から若干名，司書長をもって構成する。

(エ) 学術図書出版委員会

学長を委員長とし、一部，二部教務部長，各教授会から2名，短大1名及び教務課長をもって構成する。

(オ) 奨学金制度委員長

教務担当理事を委員長とし、一部，二部教務部長，学生部長，各教授会から2名，短大1名及び学生課長をもって構成する。

(カ) 学術調査委員会

A アラスカ学術調査委員会

学長を委員長とし、武田孟、渡辺操、杉原莊介、泉靖一、多田文男、岡山俊雄、岡正雄、小笠原義勝、交野武一、後藤大策、大塚博美及び企画課長をもって構成する。

B 国内学術調査委員会

学長を委員長とし、学部長、大学院長、短期大学長、研究所長（人文、社会、科学技術）、一部、二部教務部長、教務課長及び学生5名（一部3名、二部2名）をもって構成する。

(キ) 映画製作委員会

大木直太郎を委員長とし、後藤小太郎、宗京奨三、堀江史朗、菅井幸雄、野口鶴吉、加賀二郎及び企画課長をもって構成する。

(ク) 校友会館設置委員会

総務担当理事を委員長とし、総合計画委員並びに校友会役員から若干名、工学部建築科の教授1名、校友課長及び管財課長をもって構成する。

(ケ) 学生会館設置委員会

教務担当理事を委員長とし、学生部長、学生部委員3名、総合計画委員2名、工学部建築科教授1名、学生課長、二部学生課長、管財課長及び学生5名（一部3名、二部2名）をもって構成する。

四 80周年記念募金委員会

(ア) 委員長及び副委員長

募金委員会の委員長は理事長とし、委員長のほかに、副委員長を2名から4名を置く。

(イ) 構成員

募金委員は、法人対象、校友対象並びに教職員学生父兄対象の三部門から選び、その人員は150名以内とする。

(ウ) 常任委員会

募金委員会は、臨時の処置をするために上記150名の委員のうちから若干名を選んで、常任委員会を作り、募金委員会の推進機関とする。

(エ) 実行委員

募金活動を拡大強化するため、全国にわたって、4,000名程度の実行委員をお願いする。

(オ) 募金目標 5億円とする。

(五) 委員の交替

(ア) 役職により、委員を委嘱された者が、役職員の改選その他事故によって、その役職を失った場合は、後任の役職員が、委員の職を踏襲するものとする。

(イ) 評議員として、委員を委嘱された者が、評議員の資格を失った場合は、後任の評議員のうちから適任者を委嘱する。

(ウ) 上記二項の場合においても、特に必要ある者については、役職等にかかわらず委員として留任することがある。

(六) 事務局

(ア) 構成

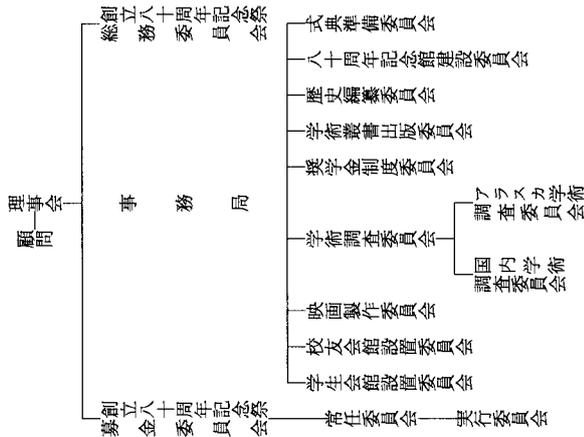
総務課長を局長とし、参与として各課長並びに、職員若干名をもって構成する。

(イ) 業務区分

- A 総務（各種委員会の庶務事項処理）
- B 募金（募金に関する業務と金銭出納業務）
- C 企画（全般の企画、調査）

(ウ) 参与名

宮田、水越、総務課長、企画課長、会計課長、管財課長、校友課長、事業課長、教務課長、二部教務課長、学生課長、二部学生課長、体育課長及び就職課長



資料 6 - 2

委員会について

34.12.24

◎ 創立80周年記念祭総務委員会

創立80周年記念祭総務委員会は、創立80周年記念祭遂行の総合的協力の機関である。

会務推進のため常任委員会を設ける。

1. 式典準備委員会

式典準備委員会は、祝典、表彰、慰霊祭、講演会、体育際、演芸、展覧会等の諸行事を計画し、任務を終る。

2. 80周年記念館建設委員会

80周年記念館建設委員会は、記念館（4号館）の構想完了をもって（昭和35年4月末日まで）、任務を終る。

3. 歴史編さん委員会

歴史編さん委員会は、80年史を編さんする。（3か月以内にて脱稿すること）

4. 学術叢書出版委員会

学術叢書出版委員会は、市販性のある80周年記念叢書を、監修出版すること。

5. 奨学金制度委員会

奨学金制度委員会は、奨学金制度の立案をもって終る。

6. アラスカ学術調査委員会

アラスカ学術調査委員会は、アラスカ地域総合学術調査を計画し、実行のうえ調査報告書の提出をもって終る。

7. 国内学術調査委員会

国内学術調査委員会は、国内の学術調査を計画し、実行のうえ調査報告書の提出をもって終る。

8. 映画製作委員会

映画製作委員会は、本学の記録映画を製作すること。(業者からの作品納入をもって終る)

9. 校友会館設置委員会

校友会館設置委員会は、校友会館としての、適切な使用計画を立案すること。

10. 学生会館設置委員会

学生会館設置委員会は、学生会館としての、適切な使用計画を立案すること。

以上

宗 京 獎 三
伊 藤 省 吾
田 川 保 男
川 口 寿
小 林 定 義
筒 井 政 行
奥 村 藤 嗣

宮 崎 繁 樹
小 山 捨 男
田 中 豊 喜
岩 下 篤 広
秋 永 肇
神 田 信 夫
村 山 英 太 郎
川 口 寅 之 輔
林 杵 雄
委員 牧 野 亥 之 助
山 本 大 二 郎
篠 崎 武
山 田 坂 仁
立 石 芳 枝
立 蘭 茂

6-3

歴史編さん委員会

34.12.

委員長 島 田 正 郎
(印南 博吉)
委員 春日井 薫
" 関 未代策

学術叢書出版委員会

34.12.

委員長 武 田 孟
委員 印 南 博 吉
" 町 田 久 一 郎
" 和 田 英 夫

資料6-4

(一) 当歴史編纂委員会は、昭和三十五年一月第一回委員会を開催以来、次の事項について協議して作業を進めてきた。

(1) 正確かつ詳細な校史の編さんは、重要であるが、当委員会では困難であると考えられるので、別に校史編纂所を設置することが要望された。そこで「明治大学校史編纂要規程案」を立案し、各委員に配布され今後の審議を待つこととして、現在

各委員で検討されている。

(2) さしせまって当委員会の任務とされているものは、今秋催される八十周年記念式典までいかなる方式による校史を編さんするかに集中して審議した結果、比較的簡単な画報式のものを作成することに決定された。

(一) 画報式のことを編さんするにあたって予算、方式、編集内容等については、慶応義塾大学の「図説慶応義塾百年小史」や、日本大学の「日本大学創立七十年記念」等を参考として意見が交換され、次の通り決定された。

(1) 編さん方式は、前記の慶応義塾大学と日本大学の中間位とする。

(2) 編集内容は、大学の現況について、三十頁、歴史編について六十頁前後とし、写真説明と小史と記入する。

(3) 部数は、三万五千部を作成する予定とする。なお製作費は慶応式のもので、五千部作成の場合は一部につき四百円から四百五十円、三万部作成の場合は二百五十円から二百七十位とされる。

(四) そこで各委員は、資料を蒐集し、編集は小林定義委員が、中心となって七月中旬に試案が作成され、直ちに理事会で報告された。

その後資料の選択等、細部にわたって、整理、調査をれて現在印刷所を選定中である。

九月五日

歴史編集委員会

資料7

明治大学創立80周年記念行事実施概要

主旨

明治大学は、その前身である明治法律学校として明治14年1月17日発足してから、きたる昭和36年1月17日をもって滿80周年を迎えることになった。

この記念すべきときにあたり、充実のため諸事業を實行、もって大学発展を期するため記念行事を行なう。

1 記念事業

(1) 実施期間

記念行事は、昭和35年1月17日から同36年1月17日の間に行なう。

ただし、建設事業並びにこれにともなう期間内に完了困難な事業は向う3か年間にわたって行なう。

(2) 事業は、次のとおり

(ア) 80年記念館建設

神田駿河台に資料館、博物館、記念ホールのほか、大学本部を集中、統合する構想で、地上8階、地下1〜2階の鉄骨・鉄筋コンクリート建物、約3,000坪を建設する。

(イ) 10号館建設

実施中の総合計画の一環である神田駿河台に建築する10

号館（教室、研究室等収容）鉄骨、鉄筋コンクリートの建物、約2,500坪を建設する。

(ウ) 学生会館の設置

神田駿河台の既存建物を改装、整備して、学生会館に改造することを促進する。

(ニ) 校友会館の設置

創立80周年を期して、教育施設の充実をはかるとともに、長年の懸案である校友会館の設置を促進する。

(イ) 奨学金制度の創設

現行奨学金制度のほか、母校出身教授の養成と社会的な有為な人材の育成を目的とするあらたな構想の奨学金制度を創設する。

(カ) 記念出版

- 1 80年史の編さんおよび刊行。
- 2 学術叢書の出版

(キ) 学術調査団の派遣

1 海外調査

本学の民族学、考古学のスタッフと体育会山岳部をもって組織する調査団をアラスカに派遣し、新旧大陸の民族・文化の交流・移動の調査を行ない、あわせてマッキンレー山登頂を実施する。

(ク) 国内調査

本学の教育・研究スタッフと学生および校友の協力により、国内総合学術調査を行なう。

(ケ) 映画の製作

大学1年の生活記録を中心として80周年記念映画を製作する。

(コ) 記念祝典の挙行

昭和35年11月に、80周年記念祝典を挙行する。

(ク) その他

歴史編さん委員

昭和34年12月21日

委員長 島田正郎（印南博吉）

委員 春日井 薫

〃 関 未代策

〃 宗京 奨三

〃 伊藤 省吾

〃 田川 保男

〃 川口 寿

〃 小林 定義

〃 筒井 政行

〃 奥村 藤嗣

資料8

歴史編纂委員会

○1月22日（金）

1 今秋までに比較的簡単な案(画報なもの)を作成することにした。

2 正確な歴史を編さんすることは、たいせつなことであるから、別に歴史編さん所を設立する必要があることを、大学当局に要望することにした。

資料12

郵便はがき

田川保男 殿

東京都千代田区神田駿河台

明治大 学

電話東京(291)局(代)1181(代)7131

歴史編纂委員会開催通知

一、と き 九月二十一日(水)午後三時から

一、と ころ 本館第二会議室

一、議 題 記念画帳中止のことについて

右ご出席くださるようご通知します。

九月二十日

歴史編纂委員会

委員長 島田正郎

資料15

明治大学校史編纂室規程案(昭和三十五年 月制定)

第一条 明治大創立八十周年記念校史編纂室を設置する。

第二条 校史編纂室は創立八十周年記念事業の一機関とし、その設置期間は昭和三十五年 月より昭和三十八年 月に至る三カ年とする。期間中に「明治大学八十年史」を刊行する。

第三条 編纂室に編纂委員長、編纂委員、編纂室員、並びに編纂顧問を置き、学長これを委嘱する。

第四条 編纂委員長は編纂に関する一切の事業を統轄し、編纂委員会を招集、主催する。

第五条 編纂委員(若干名)は委員会を開き、編纂の基本方針を決定し、資料の収集、検討に当り、編纂室員を指揮し、編纂委員長と共に編纂に関する責任を負う。

第六条 編纂室員(三名)は専任とし、編纂委員会の指揮により編纂実務に当る。

第七条 編纂室員中より主事(一名)を定める。主事は室員としての実務に当ると共に、編纂に関する事務を運営する。

- 第八条 編纂顧問(若干名)は編纂委員会の諮問に応じ、編纂の事業を援ける。
- 第九条 大学各部(別定)に編纂連絡員を置く。
- 第十条 編纂連絡員は編纂室の求めに応じそれぞれ所管の資料を提供し、編纂室と各部との連絡に当る。
- 第十一条 編纂室は各年度末に所定の予算を計上し、年度末にこれが決算を行なう。
- 第十二条 編纂室予算に計上すべきものは、編纂室構成員に対する手当、稿料資料購入費、資料収集並びに調査に関する費用、委員会会費、雑費とする。印刷公刊に要する費用は別に定める。
- 第十三条 編纂室は各年度末に編纂の進行、研究調査の概要を記して学長に報告する。

資料17

★通知★

企画室および広報課の設置について

このたび、企画室および広報課を設置することになり、次の要領にもとづいて5月1日から実施することになりました。

企画室および広報課設置要項

1 主旨

一貫した経営方針にもとづいて恒久的施策を樹立する必要と当面する懸案諸事項を逐次解決する具体的立案を推進するため

の事務機関として企画室を設ける。

2 機関の性格

理事会の直轄機関とし、理事会の定める特定事項ならびに必要とされる諸事項の資料蒐集調査立案をする。

3 構成

- (1) 職員7名前後をもって構成する。
- (2) 室長をおき、事務の指揮、監督をする。
- (3) 調査事項および事項が数項におよぶときには、人員の増減を行なう。
- (4) 構成員のための職員全体の増員は差し当たって行わず、現在員中より任命する。

4 業務

- (1) 調査事項に関して、総合的な検討をおこない、立案のための資料を整理する。
- (2) 調査事項検討の必要によっては専門家の指導をうけて現状分析をおこない資料を整理して立案する。

5 企画室設置にともなう措置

- (1) 現企画課所管業務のうち下記のものは新たに広報課を設けて移管する。
 - ア 校報、季刊明治など広報誌の発行に関する事項
 - イ 学生募集をはじめ、大学関係事項の宣伝、広告に関する事項
 - ウ 明大歴史編纂に関する事項
 - エ 維持費募集に関する事項

オ 国庫助成金をはじめ、所轄市町村申請に関する事項
カ その他広報に関する事項

(2) 現企画課所管事項のうち調査、企画、統計業務は企画室に移管する。

(3) 企画課は廃止する。

(4) 上記企画課より広報紙に移管する事項については必順により内容検討のうえ他課に所属させるよう検討する。

(5) 企画室の場所は検討のうえきめる。

(37. 5. 16 総務課長)

資料 18

歴史編纂委員会規程(案)

第一条 「明治大学史」刊行のため、史資料の収集、整理並びに編纂業務を行うため、法人に歴史編纂委員会(以下委員会という。)を置く。

第二条 委員会は、総長の外若干人の委員をもって組織する。

2 総長以外の委員は、歴史編纂に関する専門的智識ある学識経験者のうちから、理事長が委嘱する。

3 委員は、非常勤とする。

第三条 委員会に、委員長及び副委員長各一人を置く。

2 総長は、委員長とする。

3 副委員長は、委員の互選による。

第四条 委員長は、委員会の議長となり会務を統括する。

2 副委員長は、委員長を補佐し、委員長事故あるときはその職務を代理する。

第五条 委員会は、委員長が招集する。

第六条 委員の任期は、一年とする。ただし再委任するを妨げない。

第七条 歴史編纂について諮問するため必要がある場合は、委員会に編纂顧問(以下顧問という。)若干人を置くことができる。

2 顧問は、本学の歴史に精通した学識経験者のうちから、委員会の推薦にもとづき、理事長が委嘱する。

第八条 顧問の委嘱期間は、一年とする。ただし再委嘱するを妨げない。

第九条 委員会の事務を処理させるため、委員会に事務室を置く。

第十条 事務室に専任の室員 人を置き、うち一人を事務主任とする。

2 事務主任は、委員長の命を受けて事務室の事務を掌理し、室員を指揮、監督する。

3 室員は、編纂室の事務を整理する。

第十一条 事務主任及び室員は、理事長が任命する。

付 則

1 この規程は、昭和三十七年四月一日から施行する。

2 当分の間事務室は、企画課内に併置する。

資料20

昭和38年2月20日

明広発 5号

各課長・事務長 殿

広報課長

明治大学歴史編纂業務に関する

資料保存方について(依頼)

当課の歴史編纂担当の業務もようやくその緒についたので、仕事を軌道にのせ、その計画に沿って進行させたいと念願しております。

1. 各学部設立時間係資料
2. 各課・事務室業務日誌類
3. その他学校関係史料全般

等文書の収集保存については、以前にもご依頼しましたが、各課・事務室で学校関係の資料(文書・雑誌・新聞等)を払い下げまたは整理処分を行う場合には、必ず広報課にご連絡くださるようお願いいたします。

関係資料の収集・保存は、各課・事務室のご協力のない限り困難であり、編纂事業にもまた支障をきたすわけですから、どうぞご了承のうえお手配くださるよう、重ねてお願いいたします。

以上

資料21

座談会開催について

“大学史編纂のあり方について”(案)

趣旨 大学史編纂を軌道に乗せるために、専門家及び各有識者の方々の意見を伺い、編纂事業のより一層の推進をはかるために座談会を開催する。

出席依頼者

加藤 理事 大木 理事

史学科関係 図書館長

宗 京 先生 印 南 先生

渡 辺 先生 司書長

圭 室 先生 奥 村 先生

遠 藤 先生

木 村 先生

高 島 先生

会場 本館 第一会議室

日時

五月十六日(木)午後五時 (予定)

主催

広報課長

歴史編纂係

昭和三十八年五月六日

資料25

大学歴史編纂計画（案）

昭和38年11月14日

1. 大学歴史編纂の基本方針の確立

“専門委員会”自体としての独立方針を確認し、編纂室業務の推進をはかる。

2. 編纂室業務の基礎作業について

(1) 史料収集について

ア 明治大学に関する原史料の収集及びその保存対策

(ア) 現存せる大学直接関係文書

（故伊藤省吾氏所蔵文書）一仮目録の作成

年次累積文書の整理・保存対策—各学部事務室との連絡

(イ) 間接的学校関係文書

新聞、雑誌、著作、絵図、写真等々

（史料所在）

東大明治新聞雑誌文庫

東大新聞研究所

東大法学部史料室

国会図書館憲政史料室

内閣文庫

最高裁判所図書館

中央大学図書館（西園寺文庫）

立命館大学図書館（西園寺文庫）

早稲田大学社会科学研究所（大隈文書）

各大学編纂室及び資料室

(ウ) 文献以外の資料収集・保存及びその対策
座談会録音テープ，フィルムライブラリー

(ニ) 設立者，功労者等の伝記・著作等の収集

イ 近代教育史関係資料

(ア) 教育史，教育制度史等

(イ) 他校大学史の収集，各編纂室との交流

ウ 近代史に関する全般的史料収集

例 (ア) 創設期における民権運動の実体的把握を意図した史料収集

(イ) 民法典論争期における諸文献

(ウ) 大学令をめぐる時期の諸史料

(ニ) 戦時体制化における諸問題—軍教問題，赤化争
件問題等

(2) 大学史年表の作成

(3) 中間報告書の刊行（新4ヶ年計画として）

3. 編纂実行計画について

ア 年次計画書の作成

(ア) “大学史”の段階区分について

(イ) 担当者の責任分担について

4. その他

資料26

(理事會提出資料)

昭和三十八年 月 日

明治大学歴史編纂計画について

広報課 歴史編纂係

はじめに

過日、広報課長主催のもとに関係理事・歴史専門家等による座談会「大学史編纂のあり方」についての話し合いが行われた。

出席者 大木理事、印南図書館長、宗京教授、

渡辺(保)教授、圭室教授、遠藤教授、木村教授、

永野総務課長、内園広報課長、

欠席者 加藤理事、奥村司書長、高島専任講師、

ここで問題として出されたのは大きくわけて二つにしばらくはあった。

即ち、一つは大学史編纂の基本的態度であり、他方はその具体的対策の問題である。

前者についてはこの問題を更に深め、近代史の中における学
校史の問題をどの様に位置づけるのか、又学校行政の中におけ

る「大学史編纂」の制度的なものをどの様においたらよいか
と言った問題である。

これらの問題は必然的にその具体的表現としての対策に投影
されてこなくてはならないわけであり、論議は専らそこに集中
される格好となった。

こゝにおいて結論されたことは、至急に歴史編纂室の設置及
び、歴史編纂専門委員会の組織作りをすることであった。

それ故、この基本線にそった形で実施計画書を作成した。よ
ろしく御討議下さいまして実施方をお願いします。

第一章 大学歴史編纂の基本的態度

先づ、歴史編纂を進める前提として問題になるのは、歴史編
纂に対する基本的な態度・視角であろう。言換えるならば「歴
史編纂」にどのように取組まねばならぬかという問題である。

勿論、この問題は理事会及び歴史編纂専門委員会が決定すべ
きであり、歴史編纂の一担当者である者が軽々しく論ずる事は
出来ないが、しかし、基本的な考え方はもたねばならぬであろ
う。

先づ第一に考えねばならぬのは、それが単に懐古的なもの、
又は個々の具体的な事実の羅列であったり、「我田引水」的な
ものであってはならないという点であろう。

明治大学八十余年の歴史は、大きく考えるならば日本近代
史全体の歩みであり、その近代史上における明治大学の歴史的
位置を考え、その巨視的な視角のもとに、大学史編纂を組入れ、
そこから編纂計画と取組まなくてはならないのではないであろ

うか。

それ故、「明治大学」という一枚の歴史にとどまらず、明治大学の歴史を基軸として日本近代史がどの様に展開されたかという側面を追求することである。

明治大学の歴史はそれ自体として独立して存在するものではない。政治・社会・経済・文化等々の一構成体として、それらの連繋のもとに存在することは論をまたないであろう。言換えるならば明治大学歴史編纂を通じて日本近代史の歩みをさぐることであろう。

第二章 大学史編纂の具体的対策について

一、歴史編纂室の設置について

歴史編纂を組織的に行なおうとするには、その活動母体としての編纂室を作らねばならないのは論をまたない事であろう。現在、歴史編纂は広報課の業務として編纂係がおかれているに過ぎない。

しかし、都内著名大学においては、それぞれ編纂室・資料室が設置され常時三名〜五名の専任室員によって精力的にその活動が続けられている。

我大学においても今後編纂事業を推進し、史料の収集保存方法をはかり、各大学との史資料の借覧等の交流・又所轄官庁・官立図書館・研究所等とも交渉を行わねばならない。このような場合に、私立大学の雄をもって任ずる我大学に編纂室として独立した機関が存在しないという事はおかしな事であり、又対外的のみでなく今後の編纂活動に重大な支援をきたすことにな

るのである。

編纂室は史資料の収集・整理・保存をはかる上からも資料室の役割をも持つものであり、至急の設立を希望してやまない。

(歴史編纂室設置要領(別紙)を参照)

現在において、その史資料の収集をはからなければ、他日散佚された状態において、その復原は望みえない事である。例えば学内の現代の資料にすら、その整理・保存が行われていない現状からも納得されることであろう。

二、歴史専門委員会の設置

編纂室が設立されそれが組織的に活躍するためには、その基本方針を決定し、業務計画を立て、その編纂業務の推進をはかるための「編纂専門委員会」が構成されなくてはならない。

(「歴史編纂専門委員会規程」参照のこと(別紙))

編纂室と委員会とは表裏一体をなすものであり、これが一本化されてこそ、編纂計画が軌道にのり進行されるのである。

それ故委員には歴史編纂に関する専門家を委嘱されたい。

「明治大学史」が完成刊行される時に、はじめて全学的な「大学歴史刊行委員会」(仮称)が組織されるのであり、現段階にあつては専ら編纂の実行委員会的性格をもつものである。以上の様な点をお含み下さいます。よろしく御善処下さいますようお願い致します。

以上

資料27

広発39 第36号
昭和39年 6月17日

殿

広報課長

松尾真之

大学歴史編纂室設置についてお願い

大学歴史編纂の業務も順調に展開いたしておりますが、その業務の一端である資料収集にありましても、故伊藤吾氏文書、藤森達三氏文書、学部関係文書等、その収集、整理に、又各所に散在している史料と歴史編纂室に集結させねばなりません。

しかし、当課の広報業務と歴史編纂業務とは本質的に異なるため、又史料収集保管のため広報課も手狭となり、広報活動の分野にまで支障をきたすようになりました。つきましては、史料室及保管の部屋を確保していただきたく下記の要領にてよろしくご配慮をお願いいたします。

記

- 1 広さ 30坪程度 (整理室、保管室共)
- 2 耐火建造物が望ましい。
- 3 湿気のない室。

資料28

1964.11.11

大学歴史編纂計画(案)

広報課

1. 大学歴史編纂の基本方針

- (イ) 創立90周年を記念し、明治大学90年史を昭和45年度に上梓する。
- (ロ) 歴史編纂専門委員会(別紙参照)はその刊行のための編纂業務を立案し、推進する。
- (ハ) 歴史編纂室は、その立案に従いその基礎的作業(史料収集、整理、保存)を行う。
- (ニ) 明治大学90年史の刊行は、どの様な形であっても、編纂室は充実したものになくしてはならない。他校の場合(早稲田大学、慶応大学)においても「各年史」を刊行しても恒常的に資料室を設置し、過去の資料は勿論、年次累積文書の収集につとめるなど活発な動きを示している。当校に於ても歴史編纂は我が校百年の計を考えるならば、その拡充はうなづけよう。

2. “90年史刊行”5ヶ年計画

昭和40年(1年次) 編纂室の設置及び室員の拡充

編纂室員を最低2名は必要とする。又歴史研究者(特に近代史専攻者)が望ましい。

昭和41年(2年次) 執筆担当者を決定する。

執筆は制度史へ明治大学の史的発展へ学部史、校友

会等、それぞれの執筆担当者を決定し、担当者と編集委員会、編集室との交流によって、仕事を円滑に遂行する。

昭和42年（3年次） 1年次より3年次までは執筆の前段階として資料収集を強力に行う。

昭和43年（4年次） 中間報告書作成及刊行、90年史刊行委員会の設置（仮称）。之は大学史刊行を目的としたもの。

昭和44年（5年次） 原稿完成 印刷に入れる。

〃 45年（創立記念日） 刊行

3. 歴史編纂室設置要領

(イ) 坪数 30坪程度
(史料整理室及史料室)

(ロ) 設備資材

- a) ロッカー 13コ（既存）
- b) 長形ロッカー 2コ（〃）
- c) 書棚 2架（〃）

追加申請

- d) ロッカー 3コ
- e) スチール書棚 2架
- f) 資、史料整理棚（木製）
資料室のコーナーに設置する。
- g) 資料整理机
(小委員会の会議机をかねる)

(ハ) 耐火建造物が望ましい。

(ニ) 湿気のない室。

以上

資料33

44.12.8 広報課

〈昭和45年度 業務の要点〉

～予算編成と関連して～

本学ならびにわが国大学の現況にかんがみ、広報課が所管（昭和44年度現在）する業務（大別して広報・広告・歴史編纂）を基礎に、昭和45年度およびその後の業務実施の方向とその要点を下記のように設定する。

この実施細目等は、組織・体制・予算との関連において検討を加えつつ進行させるものとする。

記

（略）

Ⅲ 歴史編纂について

大学が発展しこれからも進歩拡大するところには、過去から将来への長い歴史があり、また伝統が培われる。この歴史と伝統は言葉としては一言で表現されるが、あくまで正確な資料にもとづかねばならない。本学の資料の収集・刊行・学内年次累加記録の保存と整理は歴史資料室で不断の作業をつづけている。

時あたかも明後年1月17日をもって本学は満90周年の開校記念日を迎える。大学の現況から100年への前提として「大学90年小史」(仮称)をまとめる準備をすすめる。

資料37

昭和56年7月28日

明治大学理事長

松本留義 殿

歴史編纂専門委員会

委員長 木村 礎

「大学史資料館」(仮称)設置について

(お願い)

現在、歴史編纂専門委員会は「明治大学100年史」編纂につき、長期的展望をもって鋭意活動をいたしております。

しかし、歴史編纂事業はあくまでもその根本は資・史料の発掘・収集にあるといえます。

現在、広報課歴史編纂室が中心となって、資・史料の収集、整理、保存、利用の体制がとられておりますが未だ十分とは申せません。創立100周年を機会に歴史編纂資料室を拡大強化した「大学史資料館」(仮称)を設置し、100年史編纂に供するは勿論、広く、学生、教職員、研究者、一般人の利用する資料館を設置することが望まれます。

猶、その場合、大学史資料館は新設でなく、既存の建物(大

学会館新築後の空いた施設)においても充分可能であると考えます。

大学史資料館の設置こそ、創立100周年にふさわしい、永久に記念すべき事業であると共に、きわめて独自の機関として、社会に対して誇り得る付属機関であると思います。

別紙、「大学史資料館の設立について」を御参照くださいまして、よろしく設置方につき御配慮いただきたくお願い致します。

以上

『大学史資料館』の設立について

歴史編纂専門委員会

委員長 木村 礎

歴史編纂専門委員会におきましては、創立100周年にあたり、長期的展望をもって『明治大学100年史』の編纂にあたっております。申すまでもなく学術的な大学史編纂作業の第一歩は史料の発掘と収集であります。これなくしては歴史研究としての大学史の編纂は望み得ません。

さきに、「80年史」の編纂が計画されたことがあり、その反省の上になつて歴史編纂資料室が設けられ、現在同室が中心となって、史料の発掘・収集・整理・保存・調査研究・利用体制がとられておりますが、これは基だ不十分なものであります。

大学史編纂のために収集された史料は、100年史が刊行された後においても保存されるべきことはもとより、編纂完了後に

においても、将来を期して史料の一層の蓄積を計らねばなりません。

このように「明治大学史資料館」の設立は、現在進行中の大学史編纂の強力な基礎を形成すると共に、将来における史料保存措置の基盤ともなるものであり、その早急な設立が望まれます。

また、「大学史資料館」は歴史史料としての文書保存に当るのみならず、大学の教育行政全般の資料の保存にも当るべきものであります。現在、本学におきましては「文書保存規程」が存在しておりますが、その実態は有名無実であるといっても過言ではありません。

最近の20年間、歴史研究の諸学会が中心となり、国及び地方自治体に文書館・史料館設立運動が展開され、すでに国立公文書館、東京都公文書館をはじめとして府県文書館、市文書館が各地に設立されております。それは、歴史研究者や一般市民のためのみでなく、広く公務員の行政面に反映すべきものとして設立されたものであります。

大学におきまして、当然に大学行政文書を含む「大学史資料館」構想を立てるべき時期に来ていると思われれます。その第一歩と致しまして、歴史編纂資料室を発展的に拡大強化していくべきだと考えます。

現在、歴史編纂資料室においては、整理保存された史料3000点、未整理文書5000点をかかえております。

更に寄託・寄贈された資料としては、

- (1) 野田孝明所蔵文書
- (2) 渡辺世祐所蔵文書
- (3) 文学部日本史研究室所蔵文書
- (4) 藤森達三所蔵文書
- (5) 田島義方所蔵文書
- (6) 内田章五所蔵文書

又、「図録明治大学100年」のために収集された写真約5000点
マイクロ・フィルム化された史料

- (1) 国立国会図書館
- (2) 国立公文書館
- (3) 東京大学100年史編纂室
- (4) 東京大学明治新聞雑誌文庫
- (5) 東京経済大学図書館
- (6) 専修大学歴史編纂室
- (7) 神奈川県立博物館
- (8) 本学OB卒業アルバム

等、本学関係史料が所蔵されております。

このように、これらの文書・資料・写真・マイクロフィルム・参考文献をかかえ歴史編纂資料室も極めて手狭になって来ており、発展的に「明治大学史資料館」設置によって史・資料の保存・整理・利用の体制を強化されるようお願い致します。

施設

- | | | |
|---|-------|-----|
| 1 | 資料室 | 40坪 |
| 2 | 資料整理室 | 15坪 |

- 3 閲覧室（専門委員会会議室） 15坪
 - 4 資料展示室 30坪
 - 5 事務室 15坪
- 計 115坪

以上

資料39

昭和60年5月31日

以上

事務組織改善委員会

座長 森田 泰 司 殿

歴史編纂専門委員会
委員長 木村 礎

歴史編纂資料室の組織上の位置づけ及び大学史資料館・大学史資料館事務室への移行について（お願い）

標記について去る56年7月28日付で前理事長松本留義殿に設置趣意書を提出いたしました。何等進展をみることなく現在にいたっております。ここに歴史編纂資料室及び歴史編纂専門委員会の位置づけについて依頼がありましたので、下記事項について審議くださるようお願いいたします。

記

- 1 大学のもとに大学史資料館（仮称）とおく。
但し、大学史資料館は大学付属機関として、刑事博物館・考古学博物館・商品陳列館と並列したものとする。

- 2 大学史資料館の事務処理のため大学史資料館事務室（仮称）をおく。

但し、現在の歴史編纂資料室をそのまま大学史資料館事務室に移行する。

- 添付書類
- 1 大学史資料館の設置理由について
 - 2 大学史資料館、大学史資料館事務室について
 - 3 事務組織図（案）

- (1) 大学のもとに大学史資料館（仮称）をおく理由について
 - 1 大学史資料館の運営は近代史専攻の選任教員によって行なわれること。
 - 2 明大100年史は専門委員によって編纂されているが、大学史資料館は今後大学史資料の収集、保存及び整理の体制の中で考えねばならないこと。
 - 3 明大100年史、明治大学史紀要は専門委員及び専門職員によって執筆されていること。
 - 4 大学文書館設立の先進国である諸外国において共通している事項は
 - ① 史料の公開性（プライバシーに関しては一定のルール）
 - ② アーカイヴズ（Archives）の職員は一面ではライブラリアン（Librarian）であり他面では歴史研究者である。

そのために、研究機関的要素をもったものとして考えられる。

- 5 史料を体系的に収集するためには、専門職を必要とするが、しかし、それは図書館の図書収集機能とは次元を異にするものである。

上記の理由により大学史資料館は大学付属の機関とすることが望ましい。

以上

- (2) 大学史資料館、大学史資料館事務室について

- 1 大学のもとに大学史資料館（仮称）におく。
- 2 大学史資料館は当面、100周年記念事業の一環として明大100年史に係ることを行なうが（昭和66年3月）、新設の意図は過去の大学史編纂の経験に照らして大学における史料保存体制の問題、更には史資料の収集を通じて今後の大学史編纂及び大学行政に対する貢献をなすものと考えている。
- 3 大学史資料館の運営委員は、さしあたり現在の歴史編纂専門委員をもってあてる。
- 4 運営委員会は次の事項を取り扱う。
 - ① 大学史編纂に関すること。
 - ② 大学史に係る史料収集に関すること。
 - ③ 明治大学史紀要の編集に関すること。
 - ④ 資料館報告集、その他大学史一般の編集に関すること。

- 5 大学史資料館の事務を処理するため、大学史資料館事務室（仮称）をおく。

- 6 大学史資料館事務室は次の事項を取り扱う。

- ① 大学史発行に関すること。
- ② 明治大学史紀要の発行に関すること。
- ③ 資料館報告集、大学史一般の発行に関すること。
- ④ 大学史関係史・資料の調査、研究並びにそれに係る収集、整理、保存及び利用に関すること。
- ⑤ 学内、他大学及び研究機関との資料交換に関すること。
- ⑥ 他大学の校史編纂室との交流及び調査協力に関すること。

以上

資料40

1994年 4月 7日

明治大学理事長

岡村 了 一 殿

百年史編纂委員会

委員会 中村 雄二郎

「大学史料館」(仮称)設置について

(お願い)

現在、百年史編纂委員会は『明治大学百年史』編纂につき、完結をめざして鋭意活動をいたしております。

史料編と通史編からなる本編の刊行は今年度末に終了する予定ですが、これまで多年にわたり収集・整理をしてきた膨大な史料は後々まで厳重に保存をせねばなりません。

また今日、日々、作り出される文書等の諸史料を保存することはいうまでもなく、さらに大学における管理行政・出版事業・問い合わせ等々に活用し、また場合によっては公開をせねばなりません。

すでに先進諸国では大学史料館を有することは常識となっており、わが国でも全国各地で文書館の建設が陸続となされていることは周知の事実であります。また近隣の各大学においても「大学史料館」開設の動きが顕著となっております。

当委員会でいち早くこうした時代の進運を察知し、すでに1981年7月と1985年5月の二度にわたって設立の要望書を提出してまいりましたが、大きな進展を見ることなく現在にい

たっております。

百年史編纂もそうですが、大学史料館の設置によって、明治大学のアイデンティティを学内的に明確にするとともに、そのなんたるかを学外、つまり社会に向かって明示することは、今後21世紀に予想される大学生生き残り競争のなかで不可欠なことであろうと思います。

別紙として関連資料を添付いたしましたので、あわせて御覧いただき、大学史料館設置につき、よろしく御高配のほどお願いいたします。

以 上

関連資料

「大学史料館」の設立について

百年史編纂委員会

委員長 中村雄二郎

別紙1の通り、百年史編纂委員会(旧歴史編纂専門委員会)では長期的な展望をもって『明治大学百年史』の編纂に当り、今まで本編、報告集、紀要そして図録等を刊行してまいりました。

この間、学内外の多くの機関・部署・関係者の協力により多量の史料を発掘・収集・整理・保存し、かつ調査研究・利用してきました。これら収蔵史料の一部は昨秋の「明治大学の歴史展」において公開いたしました。常設展示をして大学関係者の「拠り所」を作ってほしいという声が強く出されました。

しかも史料は今後なお、日々、作り出されていくものであり、その利用も単に往時をしのぶ材料としては扱われなくなっております。また別紙2の通り、百年史編纂終了後も百年史刊行以外の業務は残され、また新時代の要請に基づく事業も容易に想像されます。

そのためには現在中心となって実務を進めている歴史編纂事務室では、きわめて不十分であります。

従来、当委員会では百年史の編纂に傾注してまいりましたが、今年度内にその事業計画を発展的に終了したいと存じます。そのためにはぜひ大学史料館の早期実現のほどをお願いいたします。

添付書類

- 1 大学史編纂の歩み
- 2 「大学史料館」(仮称)の業務内容

資料41

学校法人明治大学事務組織暫定規程

(目的)

第1条 この規程は、学校法人明治大学寄附行為施行規則第3条第3項の規程に基づく職制規則制定までの暫定措置として、学校法人明治大学(以下「法人」という。)及び法人が設置する学校(以下「設置学校」という。)の事務組織の基本を定め、法人及び設置学校の諸業務が適正かつ効率的に遂

行されることを目的とする。

(室及び部の設置)

第2条 法人及び設置学校の事務を処理するため、次に掲げる室及び部を置き、その所管事務は、当該各号に掲げるとおりとする。

- | | | |
|---|---------|---|
| 1 | 企画室 | 法人及び設置全般にかかわる調査・計画に関すること。 |
| 2 | 庶務部 | 庶務、秘書、文書、校友及び歴史編纂さんに関すること。 |
| 3 | 人事部 | 人事、給与、労務及び福利厚生に関すること。 |
| 4 | 広報部 | 広報に関すること。 |
| 5 | 経理部 | 予算、決算、金銭の出納保管、資金運用及び募金に関すること。 |
| 6 | 管財部 | 土地・建物・付帯設備の取得、処分、管理及び施設営繕並びに機器備品、消耗品等の取得、保管、使用及び処分に関すること。 |
| 7 | 電算化推進室 | 事務電算化に関すること。 |
| 8 | 和泉校舎事務部 | ①法人各部から委任された事項に関すること。
②地区全般にかかわる服務上及び事務上の運営・調整に関すること。 |
| 9 | 生田校舎事務部 | 前号の和泉校舎事務部に準じた事項 |

- 10 学 長 室 大学全般にかかわる教育・研究関係の調査及び計画並びに学長の秘書に関すること。
- 11 教 務 事 務 部 大学及び短期大学の教務全般，入試，教職等課程及び父兄会に関すること。
- 12 学 生 事 務 部 学生の厚生補導，課外活動及び課外体育に関すること。
- 13 就 職 事 務 部 学生の就職あっせん及び就職指導に関すること。
- 14 図 書 館 事 務 部 ①図書の購入，整理及び管理並びに閲覧に関すること。
②刑事博物館及び考古学博物館に関すること。

資料46

1994年10月20日

歴史編纂業務に関する1995年度計画書

歴史編纂事務室

1. 百年史編纂業務完了に伴う史・資料の整理
先ず長年修史事業のために収集してきた未整理史・資料を登録・分類して体系的に検索しやすいように整理をするこ

- と。
2. 将来の大学史編纂のための史料の調査・収集・整理すること。
 3. 百年史編纂・発行に忙殺され一時中断していた『歴史編纂資料室報告書』を再刊すること。当面は年一度12月に発刊を原則とし，'95年度は『明治大学学則集その1』の刊行を予定している。
 4. 記念館取り壊しに伴う史・資料の保存について
このことは総合施設整備推進室より広報部と共同して行うようにと依頼されたもので，当事務室としては試みに以下のような計画を立案してみた。
 - (1) 景観撮影：四季ごとの建物の外形，及び内部・周辺撮影（広報部担当か）
 - (2) 建材等建物の一部保存
 - (3) ステンドグラス，資料室の壁紙・カーテン，看板等建物内部一部備品の保存
 - (4) 芭蕉旧宅，石碑，樹木，胸像等の建物周辺の調査・保存
 - (5) 各部署の廃棄文書・図書・物品の調査・保存
 5. 大学史に関する学内・外からの問合せへの回答，及び学内・外の諸事業への協力業務（この業務は近年件数が頼に急増してきている）。
 6. 他大学の大学史編纂室等との交流及び調査協力に関すること（'94年度は本学は会長校である）。

以上

なお、「明治大学百年史編纂委員会」(以下『編纂委員会』と略称)では、「1993・1994年度業務計画書」でも触れているように、「編纂委員会」解散後の歴史編纂事務室の在り方について検討を重ねてきた結果、「編纂委員会」に代わるものとして、同じく教員の構成から成る「小委員会」の設置が必要であると判断、目下「大学史料保存利用小委員会(仮称)」の名称で理事会へ申請しているところである。この案が認可された暁には以下の事業をも計画している。

1. 『明治大学史紀要』の継続・刊行(年一度)

将来の大学史編纂・発刊と、次項の「メモリアルホール構想」に備えるために継続・発刊をする。

2. メモリアルホール構想へ向けての資料の収集及びそのための調査・研究をすること(前記4.の「記念館取り壊しに伴う史・資料の保存について」はこの業務と密接に関わってくるものと考えている)。

3. 明治大学の歴史展の開催(年一度)

前項の「メモリアルホール構想」実現へ向けてと、大学史・資料の保存・利用の意識・理解を高めて頂くことを主旨として行う。'95年度は小規模な「写真でみる明治大学の歩み」を計画・予定している。

資料47

1994年10月20日

総長 宮崎 繁樹 殿

百年史編纂委員会

委員長 中村 雄二郎

「大学史料保存・利用小委員会」(仮称)設置のお願い
百年史編纂委員会では、百年史編纂事業終了後のあり方について検討、討議しました。

その結果、21世紀の本学の活発な活動を支えるため上記の小委員会(4名程度)を残しておいた方がいいのではないかとこの結論に達しました。それは130年、150年、200年史の編纂を視野に入れつつ、新たな史料の発掘収集・保存利用、学内外からの調査に協力するためのものです。大学史展の定期的開催、『明治大学史料集』・『明治大学史紀要』の継続的発行のためにもつ小委員会は不可欠のものでありましょう。

また、21世紀にむけて明治大学の「アイデンティティ」を学内外に明示する必要から構想されている「明治大学史資料館」、「メモリアルホール」のプランについても歴史編纂事務室と協同して当たりたいと思います。

この新たな小委員会の設置に対し、大学当局のご理解をお願い致します。

以上

資料48

○明治大学大学史料委員会設置要綱

(一九九五年二月十三日制定例規第十一号)

(目的及び設置)

第一条 明治大学大学史料(以下「大学史料」という。)の収集、利用、保存及び管理(以下「管理等」という。について総合的に企画・立案し、及びその活用に関する事業を推進するために、明治大学大学史料委員会(以下「委員会」という。)を置く。

(任務)

第二条 委員会は、前条の目的を達成するため、次に掲げる事項を任務とする。

- 一 大学史料の管理等に関する基本方針の策定
- 二 学内又は外部から依頼を受けた大学史に関する調査への協力及び助言
- 三 大学史料の活用に関する事業を行うための調査・研究
- 四 その他委員会が認めた事項

(組織)

第三条 委員会は、大学史に関し専門知識を有する専任教員のうちから総長が理事会の同意を得て指名する委員若干名をもって組織する。

(委員長)

第四条 委員会に委員長一名を置く。

2 委員長は、委員の互選による。

3 委員長は、会務を総理し、委員会を代表する。

4 委員長に事故あるときは、あらかじめ委員長が指名する委員がその職務を代行する。

(会議)

第五条 委員会は、委員長が招集する。

2 総長は、必要に応じ、委員会に出席し、意見を述べることが出来る。

(事務)

第六条 委員会の事務は、総務部歴史編纂事務室が行う。

(雑則)

第七条 この要綱に定めのない事項については、委員会の意見を聴いて、理事会が定める。

附 則 (一九九四年度例規第十一号)

(施行期日)

1 この要綱は、一九九五年(平成七年)四月一日から施行する。(明治大学百年史編纂委員会設置要綱の廃止)

2 明治大学百年史編纂委員会設置要綱(昭和六十年例規第七十八号)は、廃止する。

(通達第七九〇号)

資料49

1996・7・23

A地区23階記念ホール常設展示について

A. 企画上の主眼

1. 明治大学の伝統・理念（「権利」・「自由」・「自治」）を強調する。
2. 明治大学の正史を示す。
3. ダイナミック、かつ立体的に表現し、現代の展示レベルに劣らないようにする。

B. 常設展の構成と史料（編年でオーソドックスに）

日本・明治大学年表

1. 夜明け前

(1) 創立者とふるさと

- 岸本辰雄と鳥取
- 宮城浩蔵と天童
- 矢代操と鯖江

※創立者胸像とふるさとの写真・地図（作成）

※島原藩邸の模型（作成）

(2) 東京時代の創立者

- 司法省法学校
- パリ留学
- 講法学舎

※ボワソナードら「お雇い外国人」の写真（パネル作成）

※岸本、宮城のパリ大学学籍簿・成績表（複製作成）

※講法学舎開業願と転校届（パネル作成）

※明治初期の地図（パネル作成）

(3) 維新のころのお茶の水

- 絵でみる光景
- 写真でみる風景

※錦絵（3枚、複製作成）

※神田川の溪谷（3枚、複製作成）

※江戸切絵図（複製作成）

2. 草創期の明治法律学校

(1) 学校設立

- 誕生
- 数寄屋橋時代

※設立願（複製作成）

※企画部所蔵建立碑（借用か複製作成）

※数寄屋橋周辺の地図（複製作成）

(2) 学園のようす

- 学舎の光景
- 生徒の生活

※校門のようす（絵を描く）

※食事のようす（絵を描く）

3. 危機と発展

(1) 迫る外圧

- 民法典論争
- 「私学撲滅」策
- 特別監督条規

※「民法出デム」の雑誌記事の部分（拡大複製）

- ※新聞記事「私立学校と壮士の関係」(拡大複製)
 - ※「私立学校特別監督条規」(複製作成)
 - ※ボワソナーの写真または画像(複製作成)
 - ※錦絵(複製作成, 第1回帝国議会, 宮城・矢代関係)
- (2) 移転と改革
- 校舎移転
 - さまざまな改革
 - 学園生活
- ※南甲賀町校舎の写真と図面の組み合わせ(パネル作成)

※鳥瞰図(拡大複製)

※「岸本先生書簡」(借用か複製, 資金借用関係)

※初期講師生徒の写真(総務部庶務課蔵)

※講法会・校外生制度の案内書(複製作成)

※校舎模型(作成)

4. 明治大学昇格

(1) 大学昇格の運動と実現

- 商科の解説
- 昇格運動
- 学園の移転と動向
- 災害の襲来と復興

※『明治大学基本金募集記事』(複製作成)

※制服・制帽・校章の制定(作成)

※大学認可書(複製作成)

※西園寺公望揮毫(借用か複製作成, 額)

※経緯学堂写真(拡大複製, 校舎と学生)

※山田耕筰原譜(借用か複製, 同人写真も複製展示)

※学友会関係(今後史料収集, ポート, 野球, 雄弁部等)

※白熱党の写真(パネル作成, そのほかデモクラシー関係のものも展示)

※関東大震災の写真と復興の絵(パネル作成, 絵を描く)

※記念館(初代〜3代, パネル作成, 図面展示・模型は初代と2代は作成, 3代は現在あるもの)

5. 戦争と明治大学

(1) 体制の立て直し

- 制度調査委員会
- 女子部の設置
- 復興の行事
- 予科の移転

※制度調査委員会関係(手帳や報告書等展示)

※女子の制服制帽, 中田正子氏らや校舎の写真(前者は作成, 後者はパネル作成)

※復興記念の絵はがき・品物(歴史編纂事務室蔵のもの)

※和泉校舎の写真(パネル作成)

(2) 強まる戦時色

- 軍事教練
 - 学園周辺の様子
- ※教練の模型(作製)

※錦絵（複製作成，軍隊行進）

(3) 太平洋戦争と学園

- 勤労働員
- 学徒出陣

※出陣の日の丸寄せ書き（歴史編纂事務室蔵のもの）

※学友会慰問史料（歴史編纂事務室蔵のもの，演劇脚本等）

※戦時下，学生の姿（学徒兵，勤労働員の時，人形作製）

6. 戦後復興と飛躍

(1) 新制明治大学のスタート

- 新制明治大学
- 敗戦直後の大学界限

※新制大学申請書（複製作成）

※大学周辺のようす写真（パネル作成）

※大学院建設の模型（作成）

※焼け野原の絵（絵を描く）

(2) 改革と紛争

- 専教連改革
- 総合計画
- 安保闘争（60・70年）と学費改定問題
- 経営学部創設

※専教連関係史料（歴史編纂事務室蔵のもの）

※鶴沢総明写真と記念碑拓本（パネル作成，拓本作成表装）

※総合計画の模型（作成）

※紛争関係ビラ（歴史編纂事務室蔵のもの）

※経営学部新設記事（拡大複製）

(3) 変貌，そして未来

● 百周年記念

● 総合施設整備

※百周年記念の品々（歴史編纂事務室蔵のもの等）

※総合施設整備関係（完成模型等）

※明治大学の未来の絵（絵を描く）

《備考》関連したビデオや映画を上映（マルチ・スクリーンで）

校歌等，音楽を流す

挨拶文や説明のパネル

B. 企画展のテーマ（例）（「時間」ではなく，「場」を重視）

1. 山田耕筰と古賀政男展

校歌，マンドリンクラブ，児玉花外，西条八十等

2. 創立者とその周辺

佐々木忠蔵，北島道龍，磯部四郎，井上正一等

3. 明大スポーツの歴史

端艇，六大学野球，ラグビー，箱根マラソン，北島・島岡監督等

4. 明大生の学園生活

衣食住（とくに制服，学食）

5. 明治大学の「お雇い外国人」

ボワソナード, アッペール, パテルノストロー等

6. 明治はじめ校女のつくった学校

東北法律学校, 夜学法律講習所, 熊本法律学校等

7. 明治大学ゆかりの地

数寄屋橋, 南甲賀町, お茶の水, 神保町, 八王子等

8. 留学生と明治大学

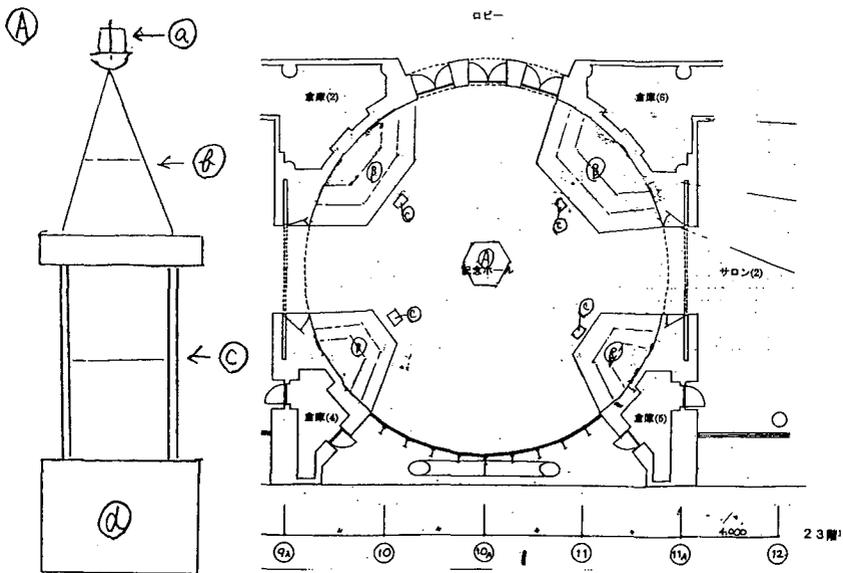
経緯学堂, 北京大学構想, 国際交流校等

9. 和泉・生田とその歴史

和泉村・生田村の歴史, キャンパス移転, 理工農学部
の歩み

10. 明治大学の生んだ人々

安藤正榮, 佐々木味津三, 村山富市ら多数



図面について

1. Aについて

- a : 校章 (表裏とも)
- b : 三角錐 (3面) 《上段》創立者の故郷写真
《下段》創立者の胸像模型
- c : 六角錐 (6面) 《上段》昔の写真等
《下段》今の写真等
- ①島原藩邸
今の有楽町と開学記念
碑模型
 - ②南甲賀町校舎線画
今の主婦之友
 - ③駿河台移転時の写真
今のキャンパス
 - ④予科時代の和泉
今の和泉
 - ⑤開設時の生田
今の生田
 - ⑥その他
- d : 土台 (4面) 概要説明
校歌
校訓 (「権利」・「自由」…)
その他

2. Bについて

ガラス・ケース (内部3段, ひな壇)

別紙常設展史料候補リスト1~6を可能な範囲で展示なるべく高さのあるケースがよい

3. Cについて

VTR説明機

画面部分 (TV) 各器械 (4台) につけるか, 天井より大画面を1, 2台つるす

4. その他

天井よりスピーカーと校旗をつるす

空いている部分に記帳や刊行物・頒布品の見本コーナーを設ける

資料65

教務課所蔵文書目録

A 入学志願者

- 1 入学志願者名簿
- 2 入学志願者成績証明書綴
- 3 大学院入学願書

B 入学者名簿

- 1 学部・予科
- 2 高等研究科・高等専攻科・大学院
- 3 専門部
- 4 高等予備校

- C 在学證書
 - 1 予科
 - 2 法学部
 - 3 商学部
 - 4 政治経済学部
 - 5 高等研究科・高等専攻科・大学院
 - 6 専門部
- D 予科修学状況調査簿
- E 学生原簿
- F 学生名簿
- G 学生索引簿
- H 県別学生簿
- I 出席原簿
- J 成績原簿
- K 共通随意選択外国語科目採点表
- L 校外生試験応試者名簿
- M 学籍移動書類
- N 学籍削除簿
- O 除籍・除名・退学者名簿
- P 本籍変更・改姓届
- Q 各種証明願
- R 諸願書
 - 1 諸願書
 - 2 中・高等学校教員検定願

- S 卒業証明書
- T 留学生
 - 1 留学生在学證書
 - 2 留学生学生原簿
 - 3 留学生索引
 - 4 留学生関係 雑
- U 校友名簿
- Z 雑

資料 66

歴史編纂資料室所蔵文書

目次

A	文部省・諸官公庁	
a ₁	法令	2
a ₂	通知・通達・書簡	6
a ₃	大学・学部等認可申請	10
a ₄	学事報告・学校基本調査	18
a ₅	諸官公庁綴	22
a ₆	占領にともなう命令等	26
B	他大学	
b ₁	私立大学関係諸団体	30
b ₂	大学一般についての調査・報告	34
b ₃	各大学の個別調査・資料	36

l ₅	学籍	292
l ₆	成績	296
l ₇	授業科目・担任	300
l ₈	教授会・学部長会	308
l ₉	学術・研究	318
l ₁₀	勤労働員・教練	322
l ₁₁	報国団	326
l ₁₂	その他	330
M	学生	
m ₁	学生生徒心得等	334
m ₂	学生の厚生	336
m ₃	学生の厚生施設	338
m ₄	就職	342
m ₅	学生行事	348
m ₆	学友会・文化部・体育会	350
m ₇	学生運動	360
N	外国人留学生	
n ₁	外国人留学生	374
O	大学の沿革と式典	
o ₁	大学の沿革と式典	378
P	個人	
p ₁	顕彰・葬儀	390
p ₂	書簡・メモ・談話	394
p ₃	著述	398

q ₄	その他	400
Q	新聞・雑誌	
q ₁	学内の新聞	402
q ₂	学内の雑誌	408
q ₃	学外の新聞・雑誌	416
R	騒擾	
r ₁	笹川・植原問題	418
r ₂	小平移転・横田学長辞任問題	422
r ₃	八王子分校問題	426
r ₄	その他	430
Z	雑	
z ₁	雑	432
資料67		
1993年6月11日		
大学院所蔵文書調査の概要報告		
1	期間 1993年5月7日(金)～6月4日(金)	
2	場所 大学院倉庫, 同第2会議室	
3	内容 総点数 964	
	(S.24. 4～H.5. 6)	
A	管理運営庶務	
1	通達・收受・発行 (P.1～P.4)	
	(S.47. 3～H.1. 1)	
		34点

2	管理職会 (P. 5) (S. 49. 4 ~ S. 63. 10)	10点	D	学則 (P. 33 ~ P. 34) (S. 27. ~ S. 58. 4)	17点
3	稟議書 (P. 7 ~ P. 8) (S. 29. 4 ~ S. 59)	13点	E	学籍	
4	人事 (P. 9) (S. 60. 5 ~ S. 62. 4)	2点	1	学生原簿 (P. 35 ~ P. 40) (S. 27. ~ S. 58)	53点
5	予算, 出納 (P. 11 ~ P. 12) (S. 48年度 ~ S. 60. 4)	18点	2	在籍者名簿 (P. 41 ~ P. 43) (S. 54年度 ~ H. 2年度)	25点
6	視学視察 (P. 13) (S. 50. 7 ~ H. 1. 11)	7点	3	学生台帳 (P. 45 ~ P. 47) (S. 27 ~ H. 2. 4)	21点
7	教室管理 (P. 15 ~ P. 16) (S. 61年度 ~ H. 4年度)	12点	4	学生数集計・報告 (P. 49 ~ P. 53) (S. 45. 3 ~ S. 62年度)	46点
8	図書貸出 (P. 17) (H. 3. 12)	1点	5	留籍願 (P. 55 ~ P. 56) (S. 47年度 ~ S. 59年度)	20点
9	大学改革 (P. 19) (S. 44. 10 ~ H. 1. 7)	4点	6	休学願 (P. 57) (S. 45年度 ~ S. 54年度)	4点
10	私立大学協会 (P. 21) (S. 61. 12 ~ S. 63. 11)	2点	7	退学願 (P. 59 ~ P. 60) (S. 47年度 ~ H. 2年度)	19点
11	その他 (P. 23) (S. 38. 4)	1点	8	除籍関係 (P. 61) (S. 49年度 ~ S. 54年度)	5点
B	設置増設 (P. 25 ~ P. 26) (S. 26 ~ S. 48. 11)	14点	9	学籍移動伝票 (P. 63) (S. 50年度 ~ S. 58年度)	9点
C	教務一般 (P. 27 ~ P. 32) (S. 31. 5 ~ H. 3年度)	51点	10	学籍整理通知 (P. 65) (S. 48年度)	2点
			11	聴講生名簿 (P. 67)	

	(S.46～S.63)	2点	8 各研究科委員会 (P.107)	
12	その他 (P.69)		(S.28年度～S.60年度)	9点
	(S.46～S.54年度)	5点	9 連合研究科委員会 (P.109)	
F	学位取得 (P.71～P.76)		(S.37. 2～S.43. 3)	3点
	(S.29. 4～H.2年度)	51点	J 委員会	
G	単位取得 (P.77～P.80)		1 学則委員会 (P.111)	
	(S.45年度～S.63年度)	38点	(S.37. 5～S.50. 7)	2点
H	大学院委員会 (P.81～P.86)		2 組織委員会 (P.113)	
	(S.29. 4～S.60年度)	52点	(S.24. 4～S.50. 6)	8点
I	研究科委員会		3 カリキュラム検討委員会 (P.115)	
1	法学研究科委員会 (P.87～P.89)		(S.63. 12～H.1. 3)	4点
	(S.38. 4～S.64年度)	24点	4 研究室委員会 (P.117)	
2	商学研究科委員会 (P.91～P.93)		(S.40. 1～S.59. 5)	3点
	(S.38年度～S.50年度)	22点	5 留学生委員会 (P.119)	
3	政治経済学研究科委員会 (P.95～P.97)		(S.45. 4～S.60. 7)	7点
	(S.38. 4～S.60. 4)	21点	6 図書委員会 (P.121)	
4	文学研究科委員会 (P.99)		(S.35. 4～S.51. 5)	4点
	(S.38. 4～S.48. 6)	9点	7 紀要委員会 (P.123)	
5	工学研究科委員会 (P.101)		(S.38年度～S.60年度)	5点
	(S.45. 4～S.52年度)	5点	8 各種委員会 (P.125)	
6	農学研究科委員会 (P.103)		(S.45. 6～S.52. 7)	7点
	(S.43年度～S.51. 4)	4点	K入試	
7	経営学研究科委員会 (P.105～P.106)		1 入試一般要項 (P.127)	
	(S.38～S.60)	15点	(S.40. 3～S.61. 3)	7点

2	出願書類 (P.129～P.132) (S.49. 3～H.4年度)	36点
3	問題用紙 (P.133～P.137) (S.35年度～H.5年度)	49点
4	解答用紙 (P.139～P.141) (S.62. 3～H.4. 10)	23点
5	成績簿 (P.143) (S.41. 3～H.4年度)	4点
6	志願者, 合格者名簿 (P.145) (S.41. 3～H.4年度)	8点
7	学内特別選考 (P.147) (S.61. 5～H.4年度)	9点
8	その他 (P.149) (S.47年度～H.3年度)	6点
L	教員資格 (P.151～P.153) (S.26. 4～S.43. 12)	25点
M	国際交流・留学 (P.155～P.156) (S.51. 3～H.3. 12)	15点
N	奨学金関係 (P.157) (S.49. 5～S.62. 6)	6点
O	紀要判定等 (P.159～P.161) (S.39～不明)	29点
P	特別公開講座 (P.163～P.165) (H.1. 10～H.5. 6)	24点

Q	調査統計 (P.167) (S.41. 12～S.59. 8)	4点
R	明治大学出身教育 (大学,短大,高専,名簿関係) (P.169) (H.3. 11～H.4. 2)	7点
S	参考資料 (P.171～P.172) (S.49. 4～S.63年度)	14点
Z	その他 (P.173) (S.45年度～S.63前後)	8点

4 備考

○公開する場合には検討を要す

(とくに個人のプライバシーについて)

○目録の通し番号順に倉庫に保管されている。

○歴史編纂事務室第5次『目録』に入力予定である。

資料68

写真資料整理台帳

1995年3月31日現在

整理項目

- I 人物 (イ. 個人別文書 ロ. 個人別 ハ. 集合 (未整理))
- II 文書
- III 施設・風景
- IV 式典
- V 学生生活
- VI 付属校
- VII アルバム (写真集)
- VIII その他

I 人物編

イ 人物 (個人別文書)

アップール

- I-1 東洋自由新聞記事 (明治法律学校講師は無報酬の件) (M. 14. 3. 29)
- 経済学講義録 (M. 16)

磯部四郎 刑法要論完 (M.)

I-1

鵜沢聡明

- I-1 著書三冊 (老子書目・感恩録・読易備志) (S. 21)

極東国際軍事裁判場景 (S. 20)
 顕彰会集合写真 (S.)
 鵜澤總明関係調査 鈴木氏 (生家と墓) (平成3年2月)
 胸像と除幕式 (三号館前)
 学術叢書の口絵他資料 (感恩録, 讀易備志, 老子書目, 創立70周年式辞他)

岸本辰雄

- I-1 鳥取藩政資料・政庁日記・「新国隊簿」(M. 元～)
- パリー大学学籍カード, スライドネガ (M. 元)
- 預金証書 (長直四郎宛) (M. 15)
- 書簡 (永見明久の借入金願書) (M. 16)
- 講義録 (法学通論・商法他) (M. 26)
- I-2 葬儀記事 (東京朝日・報知新聞) (M. 26) (略)

第三部 明治大学歴史展の報告

明治大学歴史展の概要

1 準備の体制・経過

明治大学の歴史展の歴史は古い。現在までにわかっているところでは、昭和三（一九二八）年四月に震災復興記念に平行して開催された「明治教育文化歴史展」を嚆矢としている。

その後は、同六（一九三一）年一月に創立五〇周年を記念して「刑事展覧会」、同一五（一九四〇）年一月には創立六〇周年を記念して「近世文化展」など特定テーマの展覧会が開催されている。

総合的な明治大学の歴史展については、昭和二五（一九五〇）年一月に創立七〇周年記念祝典に合わせ「明治大学七十年のあゆみ」が展示されて以来、約半世紀近く開催が途絶えていた。

九〇年代に入ると、「明治大学百年史」の編纂過程で蓄積された史料と力量を背景にして明治大学の歴史展が頻繁に開催された。平成五（一九九三）年一〇月五日から九日にかけて、大学会館六階で「明治大学の歴史展」が久々に開催され、好評を博している。次いで、同七（一九九五）年一月七日から一日にかけて、「記念館さよならイベント」の一環として二号館二部学生課跡で「明治大学記念館歴史展」が開催され、約三千人を越す見学者が来場し、消えゆく記念館に名残を惜しんだ。

今回、同一〇（一九九八）年一月一九日から二四日にかけて、リビティタワー竣工記念イベントの一環として最上階二三階にある岸本辰雄記念ホール、サロン紫紺、伊藤紫虹ホールを会場にして再び「明治大学歴史展」を開催し、前回は大きく上回る五千人を超える見学者が来場した。

盛況のうちに終了した今回の「明治大学歴史展」の開催に至るまでの準備過程、問題点などを、経費、展示構想、会場設定、運営組織、広報活動など項目別に述べると、以下のとおりである。

(1) 展示経費

平成九（一九九七）年一〇月、「明治大学歴史展」開催に必要な予算要望書を提出した。一九九八年二月中旬には予算の内示を得ていたが、後に述べる事情により会場の正式決定が遅れたため展示業者との折衝開始が七月にずれ込んでしまった。

八月上旬に展示業者が経費見積りを提示したが大幅に予算額を越えていた。理由は、展示会場の豪華に見合っ

た設営をしたためであり、双方が合意できる経費を決定するのに更に時間を要した。このことは、以後の準備作業に大きな影響を及ぼした。

(2) 展示構想

まず、展示の目的は、「過去は未来の土台である」という観点に基づき、リビティタワーの竣工に際して明治大学の一一七年の歴史を振り返り未来を考える糧にするこ

とにあった。そこで、四月中旬には第一次企画案を作成した。今回は、過去二回の歴史展の経験をふまえて、展示方式として「時経事緯」、即ち、時系列の大学通史を縦系にし、例えば「校友の活躍」など事柄（特定テーマ）を横系にして全体を織り成すことにした。「時経事緯」の具体的内容については次章で紹介されるので省略するが、目的は明治大学の歴史をより幅広くより親しみやすく理解してもらうことにある。そのために、解説文などでもできるだけ平易な表現に心がけた。

なお、展示に際しては個人情報や差別用語の問題には

細心の注意を払った。

(3) 展示会場

会場については、当初からリバティタワー二三階にある岸本辰雄記念ホール、サロン紫紺、伊藤紫虹ホールを想定していたが、展示企画案の作成をした四・五月の段階では会場使用許可を決定できる部署が明確でなく、正式決定が六月中旬の常勤理事会までずれ込んでしまった。従って、会場決定を必須条件とする展示業者による経費の最終見積りも大幅に遅れてしまった。そのため、当室では短期間に大量の準備作業をこなすことを余儀なくされた。

更に、会場使用についても、展示により建物内部の景観と外の眺望を損なわない、伊藤紫虹ホールの壁面に掲げられた芸術作品の鑑賞を妨げないとの条件が付けられた。そのため、展示のレイアウトや展示量が大きく制約され、展示終了後のアンケートにも「展示品の数が少ない」、「見学順路がわかりにくい」との不満として現れている。

今回の会場に関しては、使用決定時期、展示見積り最終決定時期、展示上の制約などの面で様々な問題があったが、何よりも大きなプラスは、五千名を大きく上回る来場者が訪れ、明治大学の歴史を広く学内外にアピールできたことである。

(4) 運営組織と開催期間の要員

当初は、歴史編纂事務室の単独事業として準備を進めていたが、会場設定や開催期間中の要員手配、事前の広報活動などの関係から六月中旬以降はリバティタワー竣工記念イベント実行委員会傘下の各行事プロジェクト・グループに「明治大学歴史展プロジェクト・グループ」として参加した。

従って、開催期間も、リバティタワー竣工記念ホームカミング実施日の十一月二二日（日）を含む十一月九日（木）から十一月二四日（火）に設定した。

展示構想や準備過程については、六月一〇日のリバティタワー竣工記念イベント実行委員会で展示構想を説明して了承を得、準備過程では何度かプロジェクト・グ

ループ責任者会議で進捗状況を報告し、行事全体との調整を図った。

開催期間中の要員については、イベント全体の事務局である教育振興部を通じてイベント担当部署の枠を越えた手配がなされたため、受付、取材・質問対応、見学者誘導、展示品保護などの要員手配が可能になった。おかげで、五千人を越える見学者が来場したなかで、特にトラブルもなく無事に終了することができた。

(5) 広報

「明治大学歴史展」の広報は、主に以下の四つのルートで行われた。

a 広報部発行の「明治大学広報」

b 教育振興部校友課発行の「Meiji Now」

c リバティタワー竣工記念イベント実行委員会による広報。パンフレットやポスター、新聞六社（朝日、毎日、読売、日経、産経、東京新聞）一〇月一〇日付け全面広告、ニッポン放送関係メディア（びあ、SPAなど）

d 歴史編纂事務室作成の「明治大学歴史展」独自のポスターと案内状

今回の「明治大学歴史展」は、リバティタワー竣工記念イベントの一環とし開催されたため多岐にわたる強力な広報がなされ、来場者が五千人を大幅に越すという成果をもたらした。

準備過程の大略は以上の通りであるが、最後に、開催に至るまでに展示資料の借用や運搬などの面で、総務部総合施設整備推進室、体育課、図書館、管財部ほか多くの部署の協力を得たことを感謝の意をこめて申し添えます。

2 展示内容について

ここでは展示の内容について、目的・方法上のこと、技術上のこと、そして内容構成上のことの三点に分けて述べたい。いずれも大学史展にとって核心的なことである。

(1) 展示の目的と方法

今回の大学史展準備に際し、ひとつの手がかりとして、当歴史編纂事務室の過去の事例を思い越こすことから始まった。幸いにも当室は近年、二回の大学史展を経験していた。そのひとつは前記したように、一九九三年一月五日から九日まで開催した「明治大学の歴史展」である。この展覧会は長年携わってきた一〇〇年史編纂事業の過程で寄贈や移管されたり、購入するなどして収集された史料を公開するとともに、やや不足している部分の史料収集に理解を得ようということ（とくにこれから執筆に当たる『明治大学百年史』題四巻の史料のため）、さらに東日本大学史連絡協議会・西日本大学史担当者会合同研究会々場校として協力しようということのために開催したのであった。本学にとって実に約半世紀ぶりの本格的な大学史展であった。このように久々の開催であったこともあり、基本的に明治大学の正史を知っていただくことに展示の主眼をおいた。したがって、展示方式・内容構成とも時期を追う形をとり、かつ制度を中心にした。その二年後、すなわち一九九五年一月七日から一

日まで「記念館さよならイベント」の一環として「記念館歴史展」を開催した。これはすでにキケツチ・フリーズや名称からもわかるように、解体・消滅する三代目記念館を偲んで催したものであった。そのため、ひとつのテーマを設定して行った。このように、全く異なる形と内容の大学史展を経験したことは幸いであった。

今回の展覧会はいままでのものに比べれば規模・予算あるいはスペース等、全ての面で多大であった。

そこでまず、展示目的としては多くの見学者に創立以来の本学の歴史を正式に、正確に知っていただくことにした。それとともに、二一世紀の明治大学を構想していただくための手がかりを提供することとした。そのために、業務の都合上、われわれはわかりやすく、前者は「正史」、後者は「トピックス」（時には「テーマ・コーナー」と呼ぶことにした。問題はその正史とトピックス（テーマ・コーナー）の整合をどのようになすべきか、ということを考案しなければならなかった。しかも、そのトピックス（テーマ・コーナー）たるものは何か、具体的にはキーワードを求めねばならなかった。当初は

「建学の精神・理念の再認識」・「校友と地方論」・「国際的交流」・「教育環境」・「学校生活」といったものが候補にのぼった。だが、結局はこのイベントのために全国から集う多くの「校友」（彼らの学生時代のことも含めて）を意識し、強調することがよいということになった。事実、明治大学の歴史は校友の歴史、という側面は否めないし、また今後も校友の協力なしに明治大学はありえないと思ったからである。

しかしそれにしても、正史とトピックス（テーマ・コーナー）をうまく組み合わせることは容易にはできなかった。なぜかというところ、正史が流れるように追う「動」であるとするれば、トピックス（テーマ・コーナー）は立ち止まる「静」のような性質を有しているからである。いろいろと検討の結果、至った展示方法はわれわれの造語といえようが「キャラバン方式」であった。シルク・ロードを行く隊商を連想してとったこの方式は、ラクダを結ぶロープの部分に正史にたとえ、ラクダ（もしくはコブのところ）をトピックス（テーマ・コーナー）とした。もっとも、たとえば何でもよかった。中

国の万里の長城を見立てて、通路のようなところを正史、途中の櫓のようなところをトピックス（テーマ・コーナー）といったことも譬えられた。展示を追っていき、途中で一息入れて考えたり、懐かしんでいたかどうかという光景をイメージした。その結果として、今回の大学史展はいままで経験した正史展とテーマ展をミックスした新しい方式となった。若干、改まった言い方をすれば、時系列（時代の流れ）の展示と場（空間、テーマ）の展示とを混合させたものといえよう。

(2) 展示の技術

次に展示の技術上のことに、いささか触れてみたい。企画の上で最も意識したことは、できる範囲で極力、新しい展示の方法や技術を採り入れたい、ということであった。そのためにはなるべく立体的な陳列をしたいと考えた。したがって、物品の類を多くしたり、関連するものと複合させて並べる。例えばボワソナード使用の机上に、彼の肖像画をたてるといった具合である。あるいは窓側に明治初年の鳥瞰写真を拡大して掲示し、現状と比

較してもらおう、ということである。これらは実現したが、音声と映像による表現などは予算の関係でできなかった。次に大勢の方々、あらゆる関係の人たちが見えるために、親しみやすい展示にしようとした。とりわけ説明文はわかりやすく、かつ簡潔にするように心がけた。また、図版の形に統一性を持たせ、カラフルにしようとした。さらに、もう少し詳しく知りたいひとのために展示品の補足パンフレットを用意した。しかし、なんとしても残念であったのは外国人のために英語・フランス語等の、また身体障害者のための点字等のキャプションが実現しなかったことであり、反省事項となった。

問題は展示会場のことであった。前記したように展示会場は当初からリパティタワーの最上階（二三階）を希望していたが、どの部屋が使用できるのか、容易に決定しなかった（前記）。したがって、当室では二室（岸本辰雄記念ホールとサロン紫紺）と三室（前者に伊藤紫虹ホールを加える）の使用を想定してレイアウトを進めた。結果としては三室とも使用出来ることとなった。レイアウトを急ぐために建設途中の会場に出向くこともあった

が、展示のイメージを浮かべにくかったことは事実である。当然、竣工した後は幾度も歩を運んだ。しかし、岸本辰雄記念ホールは円形であり、天井は高くドームになっているため、この特殊な構造を展示にどのように活用したらよいか、考えねばならなかった。また、これは一面、贅沢な悩みといえなくもないが、当ホールは施設・設備がより一層、華美なため展示史料とのバランスを考慮しなければならなかった。いわゆる「展示物が死んでしまう」恐れがあったためである。さらに、この三室とも東側窓はきわめて展望がよかった。というよりも、眺望できるように設計されたのである。したがって、この部分を遮蔽（しへい）してしまうわけにはいかなかった。場合によっては、展示見学より外観見物を楽しむ方のことも配慮しなければならなかった。しかし、窓側のスペースを広くとることは、展示の最大の障害となる自然光をどのように調整したらよいか、苦慮した。また、伊藤紫虹ホールに掲げられている同氏の絵画を展示に生かしてほしいという要望もあった。ただし、岸本辰雄記念ホール内のはめ込みの展示ケース（一〇基）については、その

利用を十分に検討したが、実現には至らなかった。

(3) 展示の内容構成

前記のような展示の目的・方法や技術により内容構成にかかった。いうまでもなく、この部分は本展示の良し悪しが問われる、いわば命に相当する。そのため、このことには相当な時間と手間を要した、構成案は幾度も修正された。その結果なった内容構成は次のようである。

- 1 夜明け前、
- 2 明治法律学校の誕生、
- 3 山あり谷ありの時代、
- 4 大学昇格、
- 5 戦争と明治大学、
- 6 戦後の復興と改革、
- 7 未来へはばたく

これが書物でいえば章に当たる部分であり、その下に「節」のようなものを配した。例えば、「1 夜明け前」の下には次のようである。

- (1) 創立者が生まれ、育つ
 - (2) 創立者が上京する
- このように短文にして、わかりやすく、かつ見やすくした。

次に、前述したように、所々にテーマのコーナーを配した。それは以下の六コーナーである。

- 1 幕末維新・明治大学ゆかりの地、
- 2 草創期の学生生活、
- 3 支える校友、
- 4 スポーツ明治・「おゝ明治」、
- 5 心のよりどころ・記念館、
- 6 戦後・学生の生活事情

さらに、こうした「節」やテーマ・コーナーに史料を配置するわけであり、まずは候補史料のリストを作成した。展示のスペースを考慮して、一点ずつ、素材・形状・寸法も記録した。その次に選択した史料にタイトルを付した。制作年代の確認・点検も行った。これらが終わった後、各節やテーマ・コーナーにおける史料の配列にかかった。

著作権やプライバシー等々にも留意した。いくつかの史料に対しては利用許可の手続きをとったが、敗戦直後の明治大学女子寮の写真(『毎日グラフ』掲載)は撮影者の所在が確認できず、断念した。

さらには、各章やテーマ・コーナーの解説や年表や図表、さらには「ごあいさつ」・「おわりに」といったパネル原稿の作成にもとりかかった。展示史料のキャプションには必要に応じてごく簡単な解説を付した。それ

でも不十分と思われ、前述したようにいくつかの出来事について、補足的なビラを作成した。また、やや詳しくかつ一覽できる当室作成の年表も用意した。

借用する史料は直接出向いたり、搬送（いわゆる「美術搬送」）の手続きをとった。

やや蛇足気味であるが、内容構成にともなう関連業務のことも、若干、綴っておきたい。レイアウトについてはかなりの期間、展示業者と話し合った。業者もしばしば当歴史編纂事務室や展示会場に足を運び、精力的に当たってくれた。ポスター、ポスト・カードの印刷業者、

学内印刷担当者も的確に仕事を処理してくれた。この間、本展覧会について、校友会報、イベント全体のパンフレット、『学園だより』に記事を掲載するために執筆などに当たった。こうした、内容構成とその関連業務については筆舌がたい。後掲の資料も一覽いただきたい。

なお、本稿の最後に付記しておきたいことは、目下、当室は資料室（明治中高校、仮設）と事務室（大学会館）とがかなり離れており、史料の検討や運搬にかなり非能率であった。今後の大きな反省点と課題である。

4 結果報告

開催期間中の来場者の年齢層および反響については、以下の報告にかえる。

a 「明治大学歴史展」の入場者数と年齢層

b 「明治大学歴史展」アンケート結果

* 以上は歴史編纂事務室作成。本文のあとに掲載した。

なお、アンケートの中で、今回の「明治大学歴史展」が閉幕後に撤去されるのを惜しみ、常設展への要望が多く出された。そのことに応えることをも含めて歴史編纂事務室では、「大学史料館」の創立を最終目的にしているが、一九九九年は大学会館一階の西側壁面を利用して、時折テーマを変えながら大学史に関する小展示を試みる予定です。

a 「明治大学歴史展」の入場者数と年齢層について

一九九八年二月（歴史編纂事務室集計）

この数年來、歴史編纂事務室は、本学の歴史に関する
 展覽会を頻繁に開催している。九三年一〇月（五〜九
 日）には約半世紀ぶりに総合的な大学歴史を開催し、繼
 いで九五年一月（七〜一日）には記念館サヨナラ・
 イベントに合わせて記念館歴史展を、今回九八年一月
 （一九〜二四日）はリバイタワー竣工記念イベントの
 一環として校友の活躍や学生生活にも焦点を当てた大学
 歴史展を開催した。

今回の入場者は、前回の三〇〇〇名を更に大きく上回
 り、五〇〇〇名を越えている。各開催日の入場者数は下
 記のとおりである。

一月一九日（木）	午前一〇時〜午後六時	三二五名
一月二〇日（金）	午前一〇時〜午後六時	三四四名
一月二一日（土）	午前一〇時〜午後四時	四六九名
一月二二日（日）	午前一〇時〜午後六時	四〇〇〇名

一月二三日（月）祝日 閉場

一月二四日（火）午前一〇時〜午後四時 三五〇名

合計 五四八八名

* 一九日〜二一日の入場者数は芳名簿記入者数による。

二二日のイベント当日は大勢の入場者があり、午後
 一時には用意した芳名簿がなくなり自由入場に切り
 換えた。三時間の芳名簿記入者が一七〇〇名なので、
 閉場までの五時間の入場者数は少なくみても二〇〇
 〇〜二五〇〇名と思われる。従って二二日の入場者
 数を四〇〇〇名と推定した。二四日の入場者数は、
 会場で配布した注意事項の印刷物枚数による。
 入場者の年齢層については、アンケート結果から見
 と、五〇〜六〇代が最も多く、一〇〜二〇代がこれに
 次ぎ、三〇〜四〇代が最も少なかった。

b 「明治大学歴史展」アンケート結果

一九九八年二月（歴史編纂事務室集計）

I よかったこと

これから入る予定の学校のことが分かってよかった
です。

一〇代 歴史のある大学に入学したことを、あらためて実感
しました。

二〇代 自分の大学の歴史を知らないまま卒業するところ
だったのでよかった。

二〇代 明治大学の歴史、昔の学生の生活などから日本の歴
史が見えてきそうなくわくするような展示でよかつた。

二〇代 こんな物もとってあるんだ！ という細かな物の展
示があつて面白かつた。

二〇代 西園寺公望やボアソナードなど日本史の教科書にも
出てくる人の所持品が見られて、驚くとともに感激し
た。

二〇代 創立者である三人の写真があり、顔が分かつてよ
かつた。

二〇代 明治大学の歴史と一緒に、この近辺の歴史も分かっ
てよかった。

二〇代 在学中に見られなかつた貴重な資料が、ごく一部と

はいえ見られたこと。

三〇代 在学中には知らなかつたことが、あらためてよく分
かつた。

四〇代 昔の資料などを、じかに見ることができたこと。

四〇代 歴史ある貴重な資料を拝見し、ここに息子が学んで

いると思うと嬉しくなります。

五〇代

大学の歴史が時系列で示されておりよかつた。学生
時代は関心が無かつたが、今になると……やはり、私
も年をとつたのだろうか！

五〇代

今まで大学の歴史をよく知らなかつたが、あらため
て歴史を知つてよかつた。

六〇代

明治大学を卒業した一人として、創立以来の資料を
拝見して感動した。

六〇代

リバティタワー竣工まもなくの歴史展開催は、とて
もタイムリーでした。

六〇代

歴史展を見て、明治大学のよさを再認識しました。

七〇代

戦時練り上げ卒業だったので、当時の展示品に感動

した。

七〇代

年代順でわかりやすい。特に、記念館にスポットを当てた点がよい。字（パネル）も大きくてよい。

二〇代

年代順の途中に、テーマ別の展示があったこと。

二〇代

わかりやすい時代区分と簡潔な年表がよかった。

三〇代

展示品、説明パネル等のレイアウトがよかった。

七〇代

展示場と展示がうまく調和していた。

三〇代

解説が分かりやすかった。

五〇代

Ⅱ よくなかったこと、こうすればよかったこと

展示資料が、もう少し多ければよかった。歴史が古

いわりには展示物が少ない。

一九七〇〜八〇年代の展示品が少なかつた 二〇代

現在、未来をもっと充実させて欲しかった 五〇代

明治中学・高校のことが展示から欠けていた。

一〇代

「戦争と明治大学」のコーナーでは、大学の戦争責任が不明な点。

三〇代

明治大学の歴史のなかで戦時はほんの一時期でしたが、「学生と戦争」をもっと深く掘り下げて欲しかった。

七〇代

運動部をもっと取り上げて欲しかった。

二〇代

伝統のラクビー部については、もう少し詳しく展示するものがあればよかった。

二〇代

百周年記念映画のフィルムが展示されていたが、この上映コーナーが欲しかった。

二〇代

自筆校歌の展示に加えて、メロディが流れていれば更によかった。

四〇代

パネル展示物とガラスケース展示物との関連に明確さに欠ける点があった。

六〇代

用語説明が不十分だったと思う。校友、特別生、校外生 etc.

一〇代

ガラスケースの数が少ないせいか、資料を押し込み

の感があった。

順路がわかりにくかった。

展示場内の写真撮影に制約があった。

三〇代

六〇代

五〇代

ボール。

五〇代

Ⅳ 今後の要望

展示期間が短いので、もっと長くすれば更に多くの人が見られるのではないでしょうか？ 三〇代

今後、どこかにこの展示を残せたらと思います。 五〇代

定期的に開催して欲しい。 二〇代

岸本など創立者だけの時代に区切った展示をお願いします。 六〇代

時折テーマを改めながら常時開設してもらいたい。 六〇代

常設の大学歴史館、又は文書資料館の必要有ります。 五〇代

明治大学に無いのは悲しいことです。

Ⅲ 特に印象に残った展示品

特に、校友関係の資料に注目した。

七〇代

御茶の水の由来絵画。

四〇代

創立者の資料にとっても興味が有りました。

四〇代

ポアソナード使用の机。

五〇代

校歌の原譜と自筆歌詞。

六〇代

師弟食堂の看板。

二〇代

三代目記念館講堂外壁のレリーフ。

七〇代

出陣日の丸寄せ書きが印象に残った。

六〇代

女子部関係資料、特に女子部の制帽と旗。

四〇代

幻の目黒キャンパス。

六〇代

戦後の吉祥寺寮関係資料。

七〇代

大学に提出された「マージャン屋営業許可願ひ」。

一〇代

大学紛争時のヘルメットやラクビー部のサイン入り

明治大学歴史展関係資料

資料目次

資料 1	リパティタワー竣工記念ホームカミング式典・イベント(案)	82
資料 2	リパティタワー竣工記念イベント全体会資料	84
資料 3	「明治大学歴史展」実施体制	85
資料 4	歴史展の準備項目(目安)	86
資料 5	明治大学歴史展パンフレット	90
資料 6	リパティタワー完成記念、明治大学歴史展 平面図	96
資料 7	歴史展の各節の年表(パネル)	98
資料 8	歴史展の各章の解説文(パネル)	101
資料 9	歴史典の各テーマ・コーナーの解説文(パネル)	104
資料 10	パネル説明(補足用・例)	107
資料 11	補足説明用ビラ(例1・2)	108
資料 12	記念品・ポストカード	110
資料 13	ポスター	111
資料 14	全国大学史資料協議会・明治大学歴史展 説明資料	112
資料 15	『Meiji Now』報道の記事	114
資料 16	『明治大学広報』報道記事(予告)	115
資料 17	『明治大学広報』報道記事(結果)	116

式典・イベント (案)

功労者パーティー 23階大会議室	(音響・照明・映像・ 司会・その他)	物産展 体育館内	模擬店 屋外	子供向けパフォーマンス エントランスホール、構内
<p>(歴史編纂室 主催の歴史展 展示物あり)</p> <p>募金功労者との パーティー ・役員挨拶 ・招待者挨拶 ・功労者表彰 ・懇親会</p>	<p>業者委託 ・会場内・外の装飾 ・司会 ・式典内の進行管理 ・音響、照明管理</p> <p>オーフロア教室は設置 しない。</p> <p>映像記録は？(ビデオ ・スチルカメラ)</p> <p>(司会委託：夢講座の 4コース8講座とも?)</p>	<p>体育館BF3 アリーナに 開店 ・20店内? ・各テール2本 ・商品の制限 ・電源工事</p> <p>(熱源は電気 のみ、臭気 の強いものは避 ける)</p> <p>・土足用マッ トレス使用</p> <p>・ドリンクコー ナーの 開設(2)? (使用制限あ り;無理?)</p> <p>閉店</p>	<p>(晴天) 藤棚 広場に開店</p> <p>・テントは? ・電源工事</p> <p>(雨天) 屋内 ? に移動 /エントラ ンスホール?</p> <p>閉店</p>	<p>移動パフォーマンス ・風船配り (98meiji home coming day /120周年募金 キャンペーン等)</p> <p>・ぬいぐるみ巡回</p> <p>・記念写真撮影 コーナー設置?</p> <p>・ゲームコーナー 設置?</p>

資料 1

リハビリタワー竣工記念ホームカミング

時 間	ホームカミング式 記念ホール 1013室	応援団ホール 屋 外	校舎施設案内 リハビリタワー 他	夢 講 座 1021～1032室	銘板除幕式 エントランスホール 辺
8:30 9:00 :30 10:00	〔開 場〕 〔受 付〕 〔式 典〕 実行委員長挨拶 理事長 挨拶 学 長 挨拶 校友会長挨拶 卒業生代表挨拶 〔記念講演〕 I:総 長 II:新「校歌物語」 校歌制作者顕彰	学内出発 (雨天中止) 学内解散			
11:00	校歌斉唱〔応援団 伴奏?音楽団体? 副実行委員長挨拶 式典終了	(式典出場 ・校歌伴奏 リーダー)			
12:00	午後の部案内(食 堂・近隣店舗紹介				
13:00 :30 14:00	福引大抽選会 ・豪華景品用意 ・1等～ 等 ・空くじなし!	(福引会出 場)		講座開講式? ・開講挨拶 ・4コース8講座 ・著名人講師 の招聘 ・聴講者異動 (4会場)	除 幕 式 ・ 式 典 ・ ・ 樽酒鏡割り ドリンクコーナー開 設(1)
15:00	・この間、応援団 リーダー部、吹奏楽部 バンドフリーティング部の 演奏・演技! ・音楽団体も共演 か?				
16:00 :15	抽選会終了	(解散)		講座終了	
17:00	景品交換終了				

資料2 リパティタワー竣工記念イベント全体会資料

1998年11月19日

リパティタワー竣工記念イベント全体会

1. 集合場所 各PGにおまかせいたします。荷物等置き場：リパティタワー5階 第2会議室
2. 集合時間 各PGにおまかせいたしますが、9時開場を予定しておりますので8時30分までには必ず持ち場についてようお願いいたします。
3. 休日出勤 11月22日(日)の振替休日を事業課鈴木(内線4327)まで連絡ください。他部署へ入力力をいたします。また、当日残業が発生する場合には後日一括申請します。
4. イベント概要
 - ・ホームिंग 昭和43年卒の方中心 10:00~11:50 リパティホール
 - ・寄付者銘板除幕式 13:00~14:30 フェニックスコリドール
鏡割り、振舞い酒
 - ・募金受付 随時 サロンマロニエ
 - ・明治大学歴史展 10:00~18:00 23階岸本辰雄記念ホール、サロン紫紺、伊藤紫虹ホール
 - ・夢講座 13:00~14:20、15:10~16:30 1011、1012、1021、1022 教室
チケットは当日売りあり
 - ・アトラクション パレード 9:00~10:00
応援団等 12:00~13:30
福引抽選会 13:40~15:00
風船配り
物産展 9:00~17:00
ドリンクコーナー 15:00~18:00
 - ・施設見学 G階教室のデモを中心に教室フロアの教室を紹介
5. 使用施設一覧
 - 地下駐車場…夢講座講師用、物産展搬入用、各種搬入用、基本的に駐車票を持っている人のみ
 - 1階……………松井康成ホール(受付・福引)、1011(夢講座)、1012(夢講座)、1013(ホームिंग)、フェニックスラゲ(物産展)、フェニックスコリドール(銘板除幕式)、サロンマロニエ(募金受付)
 - 2階……………ラウンジアビター(明大カード)、1021(夢講座)、1022(夢講座)
 - 3階……………講師控室(夢講座講師控室等)、1031(ニッポン放送スタッフ更衣室)、1032(明大スタッフ控室&昼食)
 - 4階……………第1会議室(学生部控室)
 - 5階……………第2会議室(職員荷物置場)、第3会議室(募金来賓者控室)
 - 6階……………第4・5会議室(理事控室・AM)、G階各教室(施設案内用)
 - 7階……………1077(物産展控室)
 - 17階……………一般の方の昼食(10:30~14:30)、ドリンクコーナー(15:00~18:00)
 - 23階……………サロン紫紺(理事控室・PM)、岸本辰雄記念ホール等(歴史展)
7. 後片付け 各PGで責任をもって行うこと、また使用備品等は1階中央監視室裏に集めること。
8. 防災体制 別紙資料

資料3 「明治大学歴史展」実施体制

「明治大学歴史展」実施体制

歴史展の位置づけ：全開催期間にわたり「リパティタワー竣工記念イベント」の一環として行う。

開催期間：11月19日（木）～11月24日（火）但し、23日（月・祝）は閉場

開催時間：午前10時～午後6時 但し、21（土）24（火）は午後4時まで

業務内容：受付○見学者芳名簿記入依頼、

○資料配布（展示品リスト・大学史略年表・ポストカードのセット）

○アンケート用紙の配布と回収

○当事務室出版物販売

（明治大学百年史、紫紺の歷程、事務室報告集）

対応○取材・質問対応及び記録として写真撮影等

警備○展示品の警備と保護

整理○会場整理と見学者誘導

人員配置：

（1）11月19日（木）、20日（金）、21日（土）、24日（火）

受付：2名 歴史編纂事務室員、総務部庶務課・文書課課員の輪番制

*歴史展受付業務シフト表参照

*受付の責任者は島田

対応：1名 鈴木

警備：2名 警備会社要員

整理：なし

（2）11月22日（日） リパティタワー竣工記念イベント当日

受付：3名 島田及び総務部を除く他部署の職員2名

対応：1名 鈴木

警備：2名 警備会社要員

整理：3名 総務部を除く他部署の職員

以上

資料4 歴史展の準備項目（目安）

1998・7・

歴史展の準備項目（目安）

1. 展示レイアウトの決定

2. 閲覧・点検・借用手続

図書館貴重書室

西園寺公望の講義筆記ノート	1点
預金証書（矢代操→長直四郎）	1点
長直城遺稿	1点
校歌楽譜	2点

理事長室

開学の石碑（ミニチュア）	1点
--------------	----

庶務課

校旗	1点
----	----

文書課

学則（最初のもの）	1点
-----------	----

ラグビー部（もしくは体育課）

ラグビー・ボール	1点
----------	----

管轄部署不明

三代目記念館模型（大学会館1階ロビー）	1点
リバティ・タワー模型（ ” ）	1点
ハイテク・センター模型（元大学会館1階ロビー）	1点

3. 学外史料の借用

山形県天童市

佐々木基子家

宮城浩蔵書簡（冊子に綴じ込み）	1点
『法政誌叢』と編集関係書簡	1点
佐々木忠蔵の校友活動関係	1点

阿部安佐家

責善舎関係資料	1点
阿部庫治履歴書	1点
宮城浩蔵書簡	1点

佐藤善司家

宮城浩蔵服	1点
-------	----

岐阜県中津川市

山本鉞・久子家

女子部帽子	1点
-------	----

神奈川県箱根町

環翠楼

応援旗	1点
仲居の紫紺の服（あれば）	1点

4. 看板・パネルの原稿作成

看板のデザイン

挨拶・お礼の文章とレイアウト

各章の説明文原稿

タイトルの原稿

キャプションの原稿

図表や地図の原稿作成

5. 展示史料の用意
展示品リストに沿い事務室内に順に並べる
6. 展示品の補修依頼
クリーニング依頼も含む
借用品の補修も含む
7. 展示品の複製依頼
8. ポスターの原稿作成
とくにデザイン（絵柄）について
校正
9. ポスト・カードの原稿作成
とくにデザイン（絵柄）について
校正
10. パンフレットの原稿作成
表紙、内容、奥付等について（2色刷り）
校正
11. 学内の施設・備品の準備
横長小テーブル
衝立
23階倉庫の確保
23階大会議室の確保
12. 学内展示物の搬送（展示会場や事務室へ）
模型や資料室物品や書籍等
13. 警備態勢
19～21日、23日の場合

22日の場合

人員

14. 広報活動

実行委員会パンフレットの原稿作成（8月末）

『明治大学広報』へ原稿提出

ポスター掲示および掲示依頼

案内状のリスト作成と郵送

15. アルバイトの調達

専門アルバイト

作業アルバイト

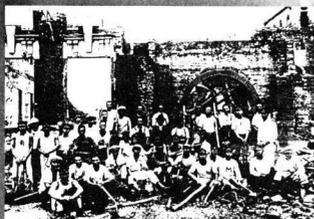
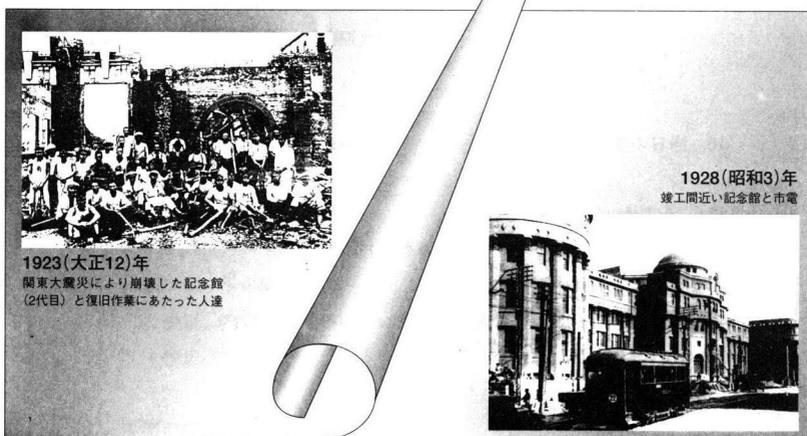
16. 当日の受付

17. その他

文書目録（今回打ち出しのもの）の検討



明治大学歴史展



1923(大正12)年
関東大震災により崩壊した記念館
(2代目)と復旧作業にあたった人達

1928(昭和3)年
竣工間近い記念館と市電



会 期 1998年11月19日(木)～24日(火)
午前10時～午後6時
[23日(月)は休み、21日(土)・24日(火)は午後4時まで]

会 場 明治大学リパティタワー23階
岸本辰雄記念ホール等

展示リスト

番号	史料名	時期	*備考
明治大学のシンボル			
1	旧正門門標	1928(昭和3)年	*以前は木製
2	旧正門敷石	1928(昭和3)年	*鉄扉の開閉跡
3	校旗	1916(大正5)年制定	
4	記念館写真 初代	1911(明治44)年10月竣工	
5	記念館写真 2代	1912(大正元)年12月竣工	
6	記念館模型 3代	1928(昭和3)年3月竣工	
7	記念館模型 4代	1998(平成10)年9月竣工	*リバティタワー
8	学則	1881(明治14)年1月	*最初のもの
9	校歌楽譜 1	1920(大正9)年	*西条八十自筆
10	校歌楽譜 2	1920(大正9)年	*山田耕符自筆
11	3人の創立者の写真 岸本辰雄 宮城浩蔵 矢代 操	1851(嘉永4)年11月8日～1912(明治45)年4月4日 1852(嘉永5)年4月16日～1893(明治26)年2月14日 1852(嘉永5)年6月20日～1891(明治24)年4月2日	
1 夜明け前			
(1)創立者が生まれ、育つ			
12	新田隆澄の写真	1869(明治2)年7月	*鳥取藩京都警備隊。辰三郎とは辰雄
13	宮城浩蔵の服	明治初年	*天童市佐藤善三郎氏蔵
14	宮城浩蔵の葉書	1889(明治22)年3月	*天童市佐藤善三郎氏蔵
15	矢代家記載の分限帳	明治初年	*鯖江藩
(2)創立者が上京する			
16	司法省法学校時代の 創立者の成績順位表(写真)	1876(明治9)年1月	
17	宮城浩蔵のバリ大学学籍簿と 成績表(写真)	1876(明治9)年10月～	
18	矢代操の出版広告	1877(明治10)年7月	
19	西園寺公望の講義ノート	1880(明治13)年頃	
20	矢代操の辞令	1881(明治14)年5月	
21	岸本辰雄の借用証書	1883(明治16)年5月	*資金調達依頼
22	ボワソナードの肖像画	1889(明治22)年4月	*創立者の師、名誉教員
23	ボワソナードの使用机	明治初年	*フランスより持参
《テーマ・コーナー1》 幕末維新・明治大学ゆかりの地			
24	御曲輪内 大名小路絵図	1865(慶応元)年	*島原藩邸等
25	数寄屋橋周辺の屏風絵	1809(文化6)年	*津山市立津山郷土博物館提供
26	皇居から臨んだ風景	1887(明治20)年頃	*長崎大学提供
27	ニコライ堂から臨んだ風景	1891(明治24)年頃	
28	駿河台小川町絵図	1850(嘉永3)年	
29	旗本中坊家屋敷図	元禄年間	*現在のリバティタワーの所：お茶の水図書館提供
30	芭蕉蔵の絵	江戸時代(昭和30年11月11日作)	*旧体育館のあたり
31	御茶ノ水の絵	江戸時代(昭和30年11月11日作)	

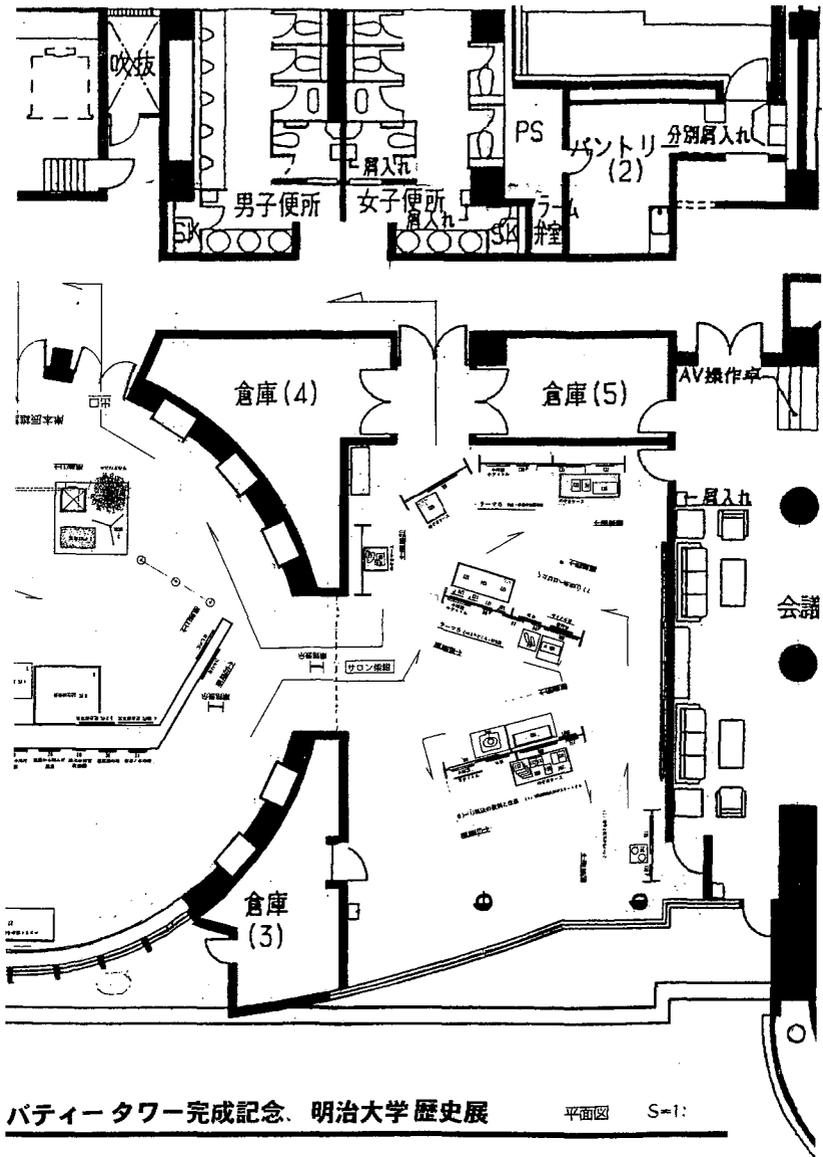
番号	史料名	時期	*備考
2 明治法律学校の誕生			
(1) 学校設立の届けを出す			
32	設立願の写真	1880(明治13)年12月	
33	開校の新聞広告の写真	1881(明治14)年1月12日	*「東京横浜毎日新聞」
(2) 開校する			
34	開学記念碑のミニチュア	1995(平成7)年11月	
35	校門光景の絵	1881(明治14)年(昭和25年11月作)	
36	現員生徒及ヒ学課月表	1882(明治15)年9月～	*生徒数等の一覧表
37	試験及第證	1883(明治16)年5月	
38	アップールの写真	明治期	*経済学講義担当
39	アップールの著書『経済学講義』	1883(明治16)年2月	*宇川盛三郎訳
40	校誌「明法雑誌」創刊号	1885(明治18)年2月	
《テーマ・コーナー2》 草創期の学生生活			
41	講義筆記帳	1876(明治9)年頃	
42	初期の講師生徒卒業記念写真	1884(明治17)年	
43	親子の書簡	1888(明治21)年3月～	*犬飼文平より
44	寄宿生活の絵	明治初年(昭和25年11月作)	
3 山あり谷ありの時代			
(1) 移転し、校舎を建てる			
45	南甲賀町校舎の線画と間取図	1891(明治24)年	*明治19年移転
46	決議録	1888(明治21)年12月～	*意志決定の会議録
47	生徒之證	1888(明治21)年4月	
48	卒業證書	1889(明治22)年12月	
49	講法会々員募集のビラ	1888(明治21)年10月	
50	特別生規則と講法会設立ノ趣旨・同規則	1890(明治23)年5月	*適学不可の者へ(のちに校外生制度) *特別生は寄宿し監督・指導をうける
51	校外生の案内書	1901(明治34)年7月	
52	『民法財産取得編講義』卷之壹	1892(明治25)年12月	*講義録
(2) 「外圧」が迫る			
53	論文「民法出テ、忠孝亡フ」	1891(明治24)年8月	*「法学新報」第5号
54	「特別監督条規」の写真	1886(明治19)年11月	
《テーマ・コーナー3》 支える校友			
55	校友規則と校友名簿	1885(明治18)年12月	
56	東京代言人住所姓名一覧表	1887(明治20)年2月	
57	校誌「法政誌叢」の編集	1891(明治24)年9月	*天童市佐々木基子氏蔵
58	最初の校友会支部の記事	1900(明治33)年2月	*1889(明治22)年結成、横浜
59	校友会各支部規則	1904(明治37)年1月	
60	校友の創った学校一覧	明治期	

番号	史料名	時期	*備考
4 大学昇格			
(1)大学昇格運動がはじまる			
61	明法学士の証書	1901(明治34)年	
62	基本資金募集紀事	1903(明治36)年度	
63	経緯学堂の写真	1908(明治41)年8月	*留学生の学舎
(2)明治大学となる			
64	大学認可と学則の公示	1920(大正9)年4月	
65	白熱党のメンバーの写真	1920(大正9)年頃	*政治経済科学生中心の団体
66	関東大震災の惨状の写真	1923(大正12)年	
《テーマ・コーナー4》 スポーツ明治・「おゝ明治！」			
67	飛鳥山運動会の写真	1902(明治35)年6月	
68	端艇部メンバーの写真	1925(大正14)年	
69	関東相撲大会出場の写真	1926(大正15)年	
70	柔道部練習風景の写真	昭和初年	
71	大学野球リーグのスクラップ・ブックとメンバー表	1934(昭和9)年～	
72	箱根駅伝の応援旗	1935(昭和10)年頃	*箱根環翠楼蔵
73	サークルの部印と印箱	1935(昭和10)年代	
5 戦争と明治大学			
(1)体制の建て直しをはかる			
74	関東大震災のあとかたづけの写真	1923(大正12)年9月	
75	関東大震災の復興歌	1923(大正12)年9月頃	
76	関東大震災のあとかたづけの名簿	1923(大正12)年12月	
77	校友へ寄付のよびかけ文	1923(大正12)年9月	
78	移転の決議文	1923(大正12)年9月	*小平へ
79	復興校債募金の趣旨書と申込用紙	1924(大正13)年3月	
80	3代目記念館竣工の記念品	1928(昭和3)年	
81	女子部の部旗	1929(昭和4)年頃	
82	女子部の制帽	1941(昭和16)年4月	*中津川市山本久子氏蔵
83	【校規全書】	1933(昭和8)年11月	
(2)戦禍にまみれる			
84	興亜科新設による学則改正	1939(昭和14)年	
85	創立60周年関係の写真	1940(昭和15)年	
86	教練の写真	1940(昭和15)年	
87	軍隊行進の錦絵	1941(昭和16)年	
88	演劇慰問隊のアルバム	1942(昭和17)年5月～	
89	演劇慰問隊のシナリオ	1942(昭和17)年6月	
90	演劇慰問隊の旗	1942(昭和17)年頃	
91	演劇慰問隊のノート	1943(昭和18)年4月～	

番号	史料名	時期	*備考
92	工科設置計画書	1944(昭和19)年1月	
93	出陣の際の日の丸寄せ書き	1944(昭和19)年9月頃	
94	出陣の際の血書	1944(昭和19)年10月	
95	学徒緊急動員要領	1944(昭和19)年9月	*東京明治工業専門学校
《テーマ・コーナー5》心のよりどころ・記念館			
96	初めての記念館の写真	1911(明治44)年7月	
97	初めての記念館の図面	1911(明治44)年7月	
98	2代目の記念館の写真	1912(大正元)年12月	
99	2代目の記念館の土台レンガ	1912(大正元)年	
100	3代目の記念館の図面	1927(昭和2)年7月	
101	3代目の記念館の模型	1927(昭和2)年	*コンテスト応募作品
102	3代目の記念館の絵	昭和初年	
103	3代目の記念館の天照像	1928(昭和3)年	
104	3代目の記念館のソクラテス像	1928(昭和3)年	*外壁装飾
105	3代目の記念館の講堂の椅子	1928(昭和3)年	
106	リパティタワーの絵	1996(平成8)年11月	
6 戦後の復興と改革			
(1)新制明治大学がスタートする			
107	教員・学生によるカリキュラム改革案	1946(昭和21)年	
108	新制大学申請書	1948(昭和23)年7月	
109	幻の目黒キャンパスの図面	1951(昭和26)年	*現在の防衛庁・科学技術庁
110	用地獲得関係の手帳記事	1945(昭和20)年	*伊藤省吾氏筆
111	短期大学の設置認可書	1950(昭和25)年3月	
112	大学院設置認可申請書	1951(昭和26)年10月	
(2)紛争と改革があいつぐ			
113	専教連改革関係資料	1955(昭和30)年7月	*専任教授連合会
114	総合計画答申書	1955(昭和30)年12月	
115	総合計画のパネル	1955(昭和30)年頃	
116	紛争関係の写真	1969(昭和44)年5月	
117	紛争時のビラ類	1969(昭和44)年4月～	
118	全共闘ヘルメット	1970(昭和45)年頃	

番号	史料名	時期	*備考
7 未来へはばたく			
119	アラスカ学術調査事務局の表札	1960(昭和35)年頃	*創立80周年記念
120	アラスカ学術調査事務局の写真	1960(昭和35)年5月	*マッキンレー登頂
121	アラスカ学術調査事務局の旗	1960(昭和35)年	
122	大学改革答申書	1967(昭和42)年4月	
123	百周年祝賀の写真	1980(昭和55)年11月	
124	百周年祝賀の記念品	1980(昭和55)年11月	
125	記録映画「明治大学百年」	1980(昭和55)年12月	
126	ゲスト・ハウスのパネル	1998(平成10)年	
127	新構想の資料	1997(平成9)年～	
128	植村直己自作の陶器	1974(昭和49)年6月	
129	ラグビー部使用中のボール	1998(平成10)年11月	
《テーマ・コーナー6》 戦後・学生の生活事情			
130	師弟食堂の看板	1941(昭和16)年12月	
131	学生風紀取締の要望書	1948(昭和23)年5月	*校友会より
132	吉祥寺寮の規則	1962(昭和37)年頃	
133	吉祥寺寮訪問者名簿	1973(昭和48)年5月～	
134	吉祥寺寮の入浴規則と当番札	戦後	
135	マージャン屋営業許可願	1957(昭和32)年9月	

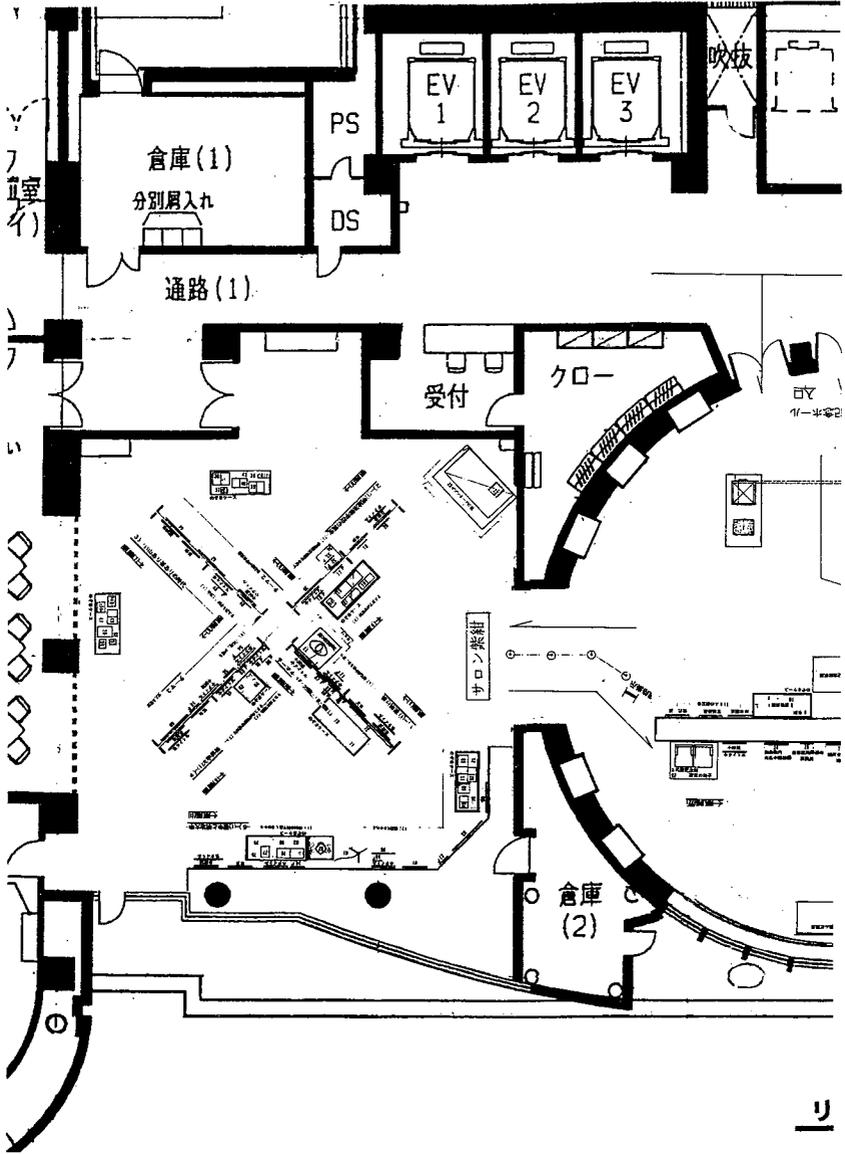
1998年11月10日
 明治大学（主幹 歴史編纂事務局）



パティータワー完成記念、明治大学 歴史展

平面図 S=1:

資料 6 リバティタワー完成記念、明治大学歴史展 平面図



資料7 歴史展の各節の年表（パネル）

1 夜明け前

(1) 創立者が生まれ、育つ

- 1851(嘉永4)年11月8日 岸本辰雄が鳥取に生まれる
- 1852(5)年4月15日 宮城浩蔵が天童に生まれる
- " 6月20日 矢代操が鯖江に生まれる

(2) 創立者が上京する

- 1869(明治2)年 岸本、上京する(宮城・矢代は翌年)
- 1872(5)年8月17日 岸本・宮城、明法寮(司法省法律学校)で学ぶ(矢代は翌年)
- 1876(9)年8月 岸本と宮城がパリへ留学する
- " 12月25日 講法学社が開業する
- 1879(12)年10月31日 矢代、元老院に就職する(80年に岸本は判事、宮城は検事に)

2 明治法律学校の誕生

(1) 学校設立の届けを出す

- 1880(明治13)年11月 講法学生生退学、学習会を開く(まもなく岸本らに開校を願う)
- " 12月8日 開校願を出す

(2) 開校する

- 1881(明治14)年1月17日 数寄屋橋の旧島原藩邸に開校する
- " 1月 西園寺公望、講師に招聘される(アピールは翌年)
- 1882(15)年2月 校友規則が制定される(「校友」は本学が最初に使用)

3 山あり、谷ありの時代

(1) 移転し、校舎を建てる

- 1886(明治19)年12月11日 南甲賀町へ移る
- " 5日 特別生規則を制定する(この頃、さまざまな改革をする)
- 1887(20)年3月20日 校友定宿を小川町に設ける
- この頃 学生は書生と壮士にあこがれる

(2) 「外圧」が迫る

- 1887(明治20)年8月 東京帝国大学の監督下になる
- 1892(25)年5・6月ころ 民法典論争に敗れる

- 1899(明治32)年7月11日 校友会が組織される
- この頃 「私立撲滅策」にゆれる

4 大学になる

(1) 大学昇格運動がはじまる

- 1903(明治36)年12月19日 校友実業会で商科設置が可決される(翌年、政・文学部とともに新設)
- 1904(37)年9月17日 留学生のための経緯学堂が開校される
- 1911(44)年10月14日 駿河台へ新築移転する

(2) 明治大学となる

- 1920(大正9)年4月15日 大学に昇格する
- " 11月 校歌を公示する
- 1923(12)年9月1日 関東大震災により多大な打撃をうけるが、すぐ復興に取り組む
- この頃 デモクラシー運動および学校騒動が盛んとなる

5 戦争と明治大学

(1) 体制の立て直しをはかる

- 1923(大正12)年10月12日 復興審議会を設置し、復興をめざす
- 1928(昭和3)年1月10日 制度調査会委員会第一回会合が開催される
- " 4月7日 女子法科(のちの女子部)が設置される
- 1934(9)年3月24日 予科が和泉に移転する

(2) 戦禍にまみれる

- 1939(昭和14)年3月3日 興亜科が認可される
- " 4月 教練が必修となる
- 1940(15)年11月18日 創立60周年記念式典がくりあげられる
- 1941(16)年3月 繰り上げ卒業が始まる
- " 4月 報国団が結成される(勤労働員へ)
- 1943(18)年10月8日 学徒出陣壮行式をおこなう

6 戦後の復興と改革

(1) 新制明治大学がスタートする

- 1945(昭和20)年9月12日 授業を再開する

- 1949(24)年 2月21日 新制大学として認可される
- 1950(25)年 3月15日 短期大学部設置が認可される
- この月 生田キャンパスが開設される
- 1952(27)年 3月31日 大学院設置が認可される
- 1953(28)年 1月31日 経営学部設置が認可される

(2) 紛争と改革があいつぐ

- 1955(昭和30)年 9月 3日 専教連がスト宣告をする(わが国の教授として初)
- 1958(33)年 8月 総合計画委員会が発足する
- 1960(35)年 6月16日 全学の安保抗議デモをおこなう
- 1961(36)年 1月 9日 学費改定問題がおこる
- 1969(44)年 1月19日 明大前通りで「カルチエ・ラタン」闘争が展開される(明
大全共闘結成は6月21日)

7 未来へはばたく

- 1980(昭和55)年11月 4日 創立100周年を祝う
- 近年 総合施設整備および大学改革にいどむ

(注) 縦書きの年表のようにして、ボードに記す。

資料 8 歴史展の各章の解説文（パネル）

1998・8・24

歴史展の各章の解説文（案）

はじめに

明治大学は今年で創立117年目を迎えました。目下は21世紀、そして120周年に向けて邁進しておりますが、その一環としてここにリパティ・タワーが竣工いたしました。

その完成を記念するとともに、ここに集う多くの方々に創立以来の本学の歴史を振り返っていただくことにより、さらには今後の本学を構想する糧としていただければと思い、本展示を企画いたしました。

とりわけ、今回の大学史展は明治大学の正史に加えて、卒業生・学生らに焦点を当ててみました。

1. 夜明け前

明治法律学校（のちの明治大学）は岸本辰雄・宮城浩蔵・矢代操によって創立されました。3人はともに幕末、江戸からはるかへだてた藩の、しかも低い禄高の武士の家に生まれました。その青年たちが出会うのは藩の選抜生として上京、司法省（現在の法務省）の法学校に入学した時でした。

2. 明治法律学校の誕生

司法省法学校を卒業し、それぞれの道を歩んだ3人でしたが、常に彼らの脳裏にあったのは最新、かつ本格的な法律教育をすることでした。一方、法律私塾の講法学社に不満をもち、退学・自主学習をしていた学生らはかつての同社の師・岸本らに学校開設を願いました。

そしてついに1881（明治14）年1月17日、数寄屋橋島原藩邸跡の一角に「権利・自由」をうたった法学校を開校しました。

なお、この開校時、講師として駆けつけたり、事務のすべてを担当したり、あるいは資金の援助に尽くした人達があったことを忘れてはなりません。

3. 山あり谷ありの時代

志願者が急増する明治法律学校はついに1886（明治19）年、南甲賀町に移転し、自前の校舎を実現しました。

しかし、その後の歩みは必ずしも順調ではありませんでした。特別監督条規等による帝国大学の管理・監督、国策によるドイツ・イギリス法の保護、さらには同じフランス法系学校との競争があいつぎました。しかし、教職員・学生に加わり、卒業生の活躍が目立ち始めるのもこのころであり、再生への強力な存在となりました。

4. 大学昇格

明治法律学校が名実ともに大学となるのは1920（大正9）年4月1日のことであり、校名は「明治大学」です。そのためには、明治後半からの学内整備・拡充はもとより、卒業生らの必死の昇格運動がありました。

時あたかも大正デモクラシーの風潮はますます在野精神・反骨精神を有するよきにつけ悪しきにつけ本学をもちあげることとなりました。

しかし、その熱気はまもなく大天災の関東大震災によってかき消されてしまいました。

5. 戦争と明治大学

震災により大打撃をうけた明治大学は復興に立ち向かいました。その焼土には教職員だけではなく学生、卒業生らの一丸となった姿がありました。その結果、震災5年のちには復興記念の祝典を行うほどになりました。

しかし、やがて世には暗雲がたちこめ、ファシズムや戦争へと進んでいました。そのことは明治大学にあっても例外ではありませんでした。

ただし、女子部の設置等にみられるように全く戦争に、国家にからめとられたわけではありません。

6. 戦後の復興と改革

戦後、本学は新たな大学をめざして出発しました。そこではかなりのとまどいと混乱がみうけられました。また一方では気概と希望もみとめられました。そのエネルギーの源となったものはやはり教職員・学生、そして卒業生らの学園における再開の喜びでありました。

その後、大学では生田キャンパスの開設、経営学部の新設、新校舎の建設といったことが次々と進められました。ごく大まかに言えば、そうした制度・施設の拡充は1960年ころまで推し進められました。その後、とくに専教連改革・学費問題さらに全共闘運動等によって急激に質的な改革が要求されてきました。

7. 未来へはばたく

明治大学は1980（昭和55）年11月4日、学内外で創立100周年を祝いました。このことを契機として、急速に建学の精神に基づく本学の歩みに学びつつ、さらには新しい時代を担う大学のあり方を求めるようになります。そのことは21世紀を目前にし、激変する今日にあって最大の課題とされております。

おわりに

この展示からもいささかおわかりいただけたかと思いますが、明治大学（日本の私立大学といってよい時もあります）の歴史は小島が大波をかぶってきたようなものでありました。しかし、その島はそのたびごとに島民である教職員学生はもとより、やがては島から出て活躍している人達（卒業生）らによって島は固められ、広げられてきました。その間には時として試行錯誤もありましたが、彼および彼女らには「権利・「自由」という共通の精神と理念がねずいていきました。

さらに、この島が堅固になり、拡張していくことを願っております。

資料9 歴史展の各テーマ・コーナーの解説文（パネル）

テーマ・コーナー 1

幕末維新・明治大学ゆかりの地

明治法律学校（のちの明治大学）は府内有楽町数寄屋橋の地に開校しました。この界限は江戸時代には銀貨鑄造所が設けられ、明治初年には市街地が造られたところでした。

しかし、間借校舎の手狭さや学生の急増により移転しなければならなくなり、本郷の地も移転の候補地にあがりましたが、結局、南甲賀町（今の主婦の友社）になりました。

江戸時代、この一帯は旗本を中心とした武家屋敷がありました。とはいえ、まだまだ緑の目立つ住宅地といった感じでした。それが明治初年に士族が去りはじめると、それまでも周辺にあった商家や民家などが広がってきました。

テーマ・コーナー 2

草創期の学生生活

明治法律学校は法学を教育したいと思っていたもの（創立者）と新しい法律を学びたいと願ったもの（学生）によってつくられました。教えたいものと学びたいものが集まった本来の学問教育の場であったといえます。それだけに師弟の関係は非常に親密でありながらも、大変厳しい教育であったといわれております。また、希望に燃える当時の若者・学生は日常生活においてさまざまな武勇伝ものこしています。

テーマ・コーナー 3

支える校友

明治法律学校（明治大学）は校友の大学ともいえます。そもそも「校友」という名称は同校の定めた「校友規則」（1882・明治15年）によってはじめて生み出されたといわれています。

当初は学校主導の校友および校友会でありましたが、やがて活動組織や活動内容が拡充され、大学の発展のためには欠くことのできない大きな存在となりました。

なお、本学最初の支部は1889（明治22）年に設立された横浜の「同窓会」です。

テーマ・コーナー 4

スポーツ明治・「おゝ明治！」

開校の翌年（1882・明治15年）からはじめられた、本学の運動会は、飛鳥山（王子）の名物でした。その目的は親睦や体力増強だけではなく学生の風紀矯正のためでもありました。

学友会傘下の、いわゆる運動部が結成されるのは1906(明治39)年のことであり、端艇・庭球・剣道の3部です。その後は多くの部が創設され、今日も大いに活躍している通りです。

残念ながら本展示ではスペースの関係上、全ての部を紹介することができませんでした。

テーマ・コーナー 5

心のよりどころ・記念館

明治大学の記念館という名称がはじめて登場するのは1911（明治44）年10月のことです。それは、創立30周年を機に南甲賀町校舎から現在の地に移転した時です。その場所はこのリバティタワーの一角です。ところが、この建物は翌年3月に炎上してしまいました。しかし、さっそく記念館再建に着手、その年の12月には完成しました。やがて、この2代目記念館は1923（大正12）年9月の関東大震災によって瓦壊しました。それにより、1928（昭和3）年3月に建設されたのが、3代目記念館いわゆる復興記念館です。そのあとに続くのが、このリバティタワーということになります。

この明治大学のシンボルであり、心のより所ともいえるべきこれら記念館には多くの明大人の汗と涙と浄財と精神がしみ込んでおります。

変わり、広がる学園，はばたく校友と学生

一口に戦後とはいえ，その間，社会だけではなく学園も大きく変化しました。何か，1965（昭和40）年前後の男子学生の服装，すなわち上衣は従来の詰襟，ズボンは黒ではなくカラフルなものは，戦後学生生活史の中でひとつの大きな境目というか過渡を示しているようです。

そして今や学生，それだけではなく校友の生活スタイルも敗戦直後に比べて大きく変わり，まさしく隔世の感がありますが，それでもめざすものは同じ，それは，真の意味での頂点でしょう。



資料10 パネル説明（補足用・例）

校友の創った学校

明治法律学校（明治大学）は、地方（地域）と関係が深いといわれます。それは、地方出身の学生が多いこと、さらに彼らは卒業後、帰郷して活躍したことなどが主因のひとつにあげられます。

ちなみに、ここでは明治期に校友が地方・地域に創った法律学校の例を掲げてみます。

- 東北法律学校（仙台市・明治33年）
- 新潟法律学校（新潟区・明治19年）
- 法学予備校（神田区・明治21年）
- 浅草法律学校（浅草区・明治18年）
- 八王子分校（八王子町・明治16年）
- 千葉町法律研究所（千葉町・明治20年代）
- 岡山法律英学校（岡山区・明治18年頃）
- 高知法律学校（高知街・明治20年）
- 熊本法律学校（熊本区・明治22年）
- 大同法律学校（北朝鮮・明治40年頃）
- 京城法学校（韓国・明治43年頃）

《設置不明》 山形法律学校

資料11 補足説明用ピラ（例1・2）

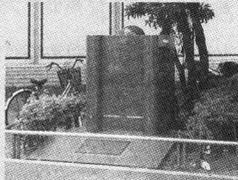
例1

今昔・明治大学の校舎



数寄屋橋校舎
1881（明治14）年1月開校

数寄屋橋
島原藩邸
開学記念碑



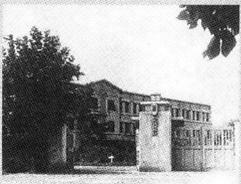
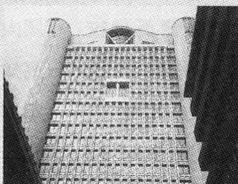
南甲賀町校舎
1886（明治19）年12月移転

現在、
南甲賀町校舎
主婦の友ビル等



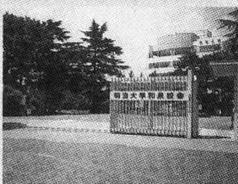
駿河台校舎
1911（明治44）年10月移転

4代目
初代記念館
リハビリタワー



和泉校舎
1934（昭和9）年3月開設

開設時の
正門付近
現在の正門付近



生田校舎
1950（昭和25）年5月開設

開設時の校舎
現在の校舎



例2

箱根馬尺伝

東京・箱根間往復大学駅伝競走、いわゆる「箱根駅伝」は今や年の始めの恒例行事となった。その箱根駅伝に明治大学のゼッケンがみえないのは、実にさびしい気がする。とくにこの駅伝の往時を知る明大校友の方々はそのように感じると思う。

というのは、実はこの駅伝の源流は大正8年・9年の「明治大学東京箱根駅伝競走」にある。当時の「朝日新聞」（大正8年11月26日付）によれば、明大競走部は11月29日、午前7時30分大学校門を出発し、箱根湯本まで70余マイルを赤・白・青の3組に分かれてクロスカンントリーを行うとある。

第1回箱根駅伝は、大正9年2月11・12日に催され、有楽町の報知新聞社（現在、そごう）と箱根間を往復した。参加校は明大・早大・慶大・東京高師のわずか4校であった。

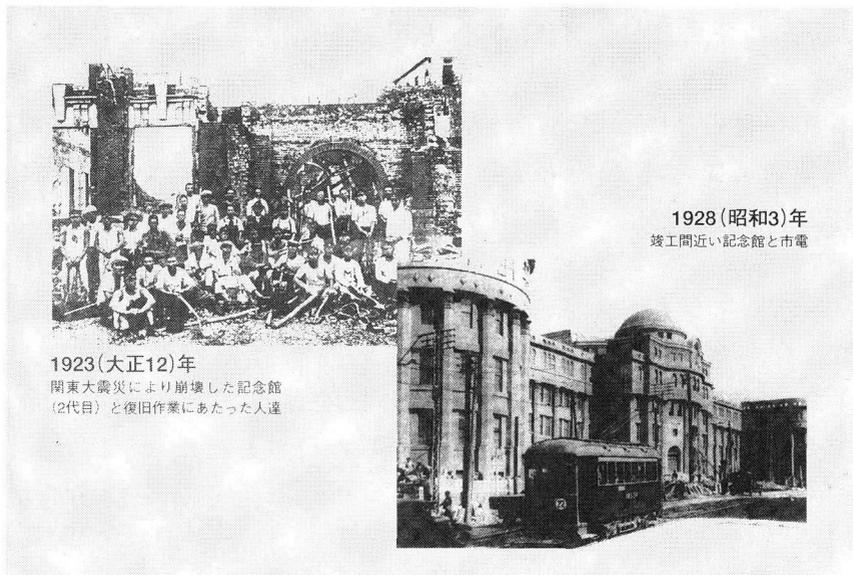
本学はその後、この駅伝の常連だけではなく、幾度も優勝をしている。さらに戦後の大会復活のために本学関係者は奔走した。そして戦後の昭和22年の第1回から同29年まで連続して出場をしているほどである。

本展示にある応援旗は現在、箱根塔之沢の環翠楼が所蔵されているものである。すなわち昭和10年ころ、大学野球部員とOBが応援のため同旅館（競走部常宿）に泊った時に用いて、寄贈したものである。

環翠楼と明治大学の関係は深く、ついに同旅館では女子従業員のタスキ・前掛けも明大スクール・カラーの紫紺に統一し、この応援旗の下、声援したという。ちなみに、箱根湯本の一の湯旅館では早稲田大学の常宿であり、エンジ色で対抗したという。

また、戦後まもないころ、小田原で熱狂的に応援する女性があり、「明治のおばさん」と呼ばれたという。

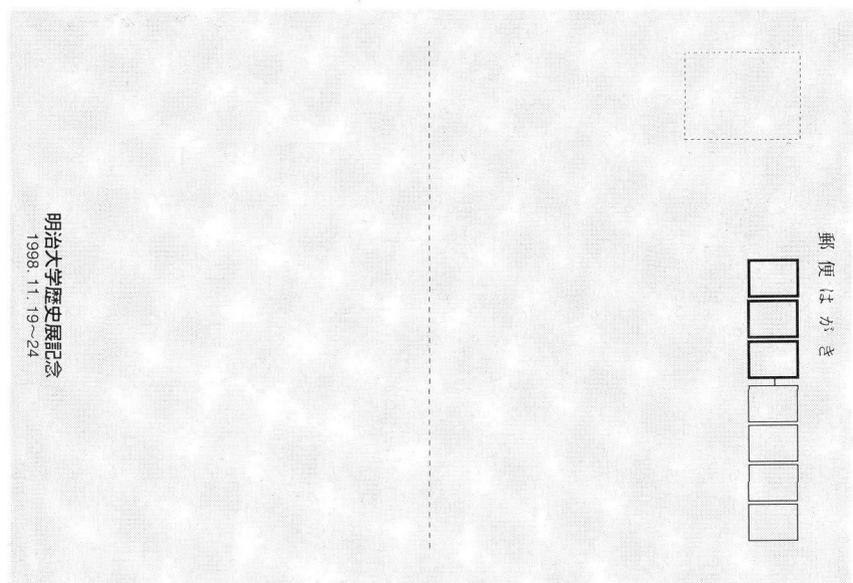
資料12 記念品・ポストカード



1923(大正12)年

関東大震災により崩壊した記念館
(2代目)と復旧作業にあたった人達

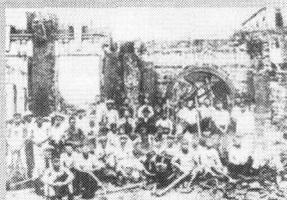
1928(昭和3)年
竣工間近い記念館と市電



明治大学歴史展記念
1998.11.19~24

郵便はがき

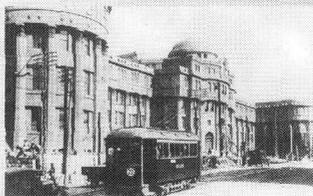
明治大学歴史展



1923 (大正12) 年

関東大震災により崩壊した記念館
(2代目)と復旧作業にあたった人達

1928 (昭和3) 年
竣工間近い記念館と市電



1998.11/19(木)~24(火)

A.M.10:00~P.M.6:00

(23日月は休み、21日(土)・24日(火)はP.M.4:00まで)

リバティタワー23階

岸本辰雄記念ホール等

明治大学 (主幹：明治大学歴史編纂事務室)

資料14 全国大学史資料協議会・明治大学歴史展 説明資料

全国大学史資料協議会・明治大学歴史展 説明資料

1998. 11. 24

1. 歴史

明治大学史展の歩み

開催期間	名称	目的	場所
1928. 4. 21～ 4. 24 (昭和3)	明治教育文化展覧会	震災復旧記念祝典	新館4階 全部
1931. 11. 1～11. 6 (昭和6)	明大50年史料展覧会 刑事展覧会	創立50周年記念	本館3階
1940. 11. 18～11. 21 (昭和15)	近世文化展	創立60周年記念 皇紀2600年奉祝	図書館3階
1950. 11. 17～11. 19 (昭和25)	(各学部等展覧会)	創立70周年記念	記念館新館
1954. 5. 22～ 5. 23 (昭和29)	政治経済学部創立50周年 記念式典展覧会	政治経済学部 創立50周年記念	記念館講堂
1955. 11. 19～11. 21 (昭和30)	法科創立75周年記念式典 展覧会	法科創立75周年記念	大学院 1・2階
1960. 11. 1～11. 5 (昭和35)	アラスカ展	創立80周年記念	図書館 中央本館
1973. 10. 1～10. 10 (昭和35)	駿河台を歩いた文学者たち	文学部創立50周年	三省堂
1993. 10. 5～10. 9 (平成5)	明治大学の歴史展	創立 113周年記念 東日本大学史連絡協議会・西日本大学史担当者合同研究部会開催	大会館 5・6階
1995. 11. 7～11. 11 (平成7)	明治大学記念館歴史展	記念館さよなら イベント	2号館1階

2. 目的

- (1) リバティタワー竣工を記念する。
- (2) リバティタワーに集う多くの方々に、創立以来の大学の歴史を振り返っていただく。
- (3) 21世紀の明治大学を構想するかとする。
(注) 上記(2)ではおもに大学の正史を示し、(3)ではおもに校友・学生をクローズ・アップする。

3. 時期・期間

- 11月19日(木)～24日(火)
- 23日(祝日)は休み
- 毎日10:00～18:00(21日と24日は16:00まで)

4. 場所

リバティタワー23階の岸本辰雄記念ホールとサロン紫紺と伊藤紫虹ホール

5. 方法

- (1) 極力、新しい展示の方法や技術を取り入れる。例えばなるべく立体的な展示品を多くする。あるいは建物(ホール)との同調をはかる。
- (2) 親しみやすい展示とする。
説明文をわかりやすく、簡潔にする。図版に統一性をもたせカラフルにする。
展示品の補足パンフレットを配布する。
- (3) より高いレベルの内容構成をめざす。
時系列(時代の流れ)の展示と場(空間、テーマ)系列の展示をミックスする。
いわゆる「キャラバン」方式をとる。

6. レイアウト 別紙

7. 展示内容 別紙

8. 関係業者

展示 —— 外部専門会社

印刷 —— 同上

写真 —— 同上

9. 保守・警備・受付

保守・受付 —— 歴史編纂事務室、総務部庶務課・文書課、学内他部署

警備 —— 外部専門会社

運搬 —— 学内施設課、外部専門会社

10. その他

- (1) 本展示会の総括はリバティタワー竣工記念イベント本部、担当部署は歴史編纂事務室である。
- (2) 本展示会終了後、『歴史編纂事務室報告』第20集に展示報告をする。

明治大学の歴史展

明治大学のシンボルともいえるリパ
イタワーは本年九月に竣工しました。

そのことを記念するとともに、百年を
ゆうにこえる本学の長い歴史を振り返
り、さらに二十一世紀の明治大学のあり
方を構想する手がかりとしていただくた
めに、明治大学の歴史展を開催します。

最近の本学の大学史展は一九九三年一
〇月のことです。それは、実に四三年ぶ
りの明治大学史展でありました。その目
的は当時編纂中の『明治大学百年史』の
関係史料を公開するとともに、最終巻の
ための史料提供を願うためでした。その
内容構成は時期を追って、オーソドック
スに明治大学の歴史を紹介したもので
す。いわば明治大学正史展といったとこ

ろです。

次の大学史展は『明治大学百年史』刊
行を終えた翌年、すなわち一九九五年一
月のことでした。これは「明治大学記
念館歴史展」という名付けで消えゆく三
代目記念館の歴史を扱ったものです。い
うなればテーマ展というべきものです。
今回の大学史展はそうした従来の正史
展とテーマ展をミックスした新しい構成

を考えています。そしてそのテーマとし
て大きくとりあげるのは、明治大学に
とって伝統・特色であり、かつ今後の課
題のひとつでもある「校友・地域（地
方）」です。基本的な史料とともに、大い
にそのことに関する史料を紹介します。
皆様の先輩の時代、自分たちの在学時を
十分に想い起こしていただけることと思
います。また時には会場で足を止めて母
校の将来を想い巡らせていただければ幸
いです。

〈明治大学の歴史展〉

期 間 一九九八年一月一九日(木) ～ 二四日(火)

ただし、二三日(月)は閉場

一〇時～一八時(二一日と二四日は一六時迄)

場 所 明治大学リパ
イタワー二三階

問い合わせ 歴史編纂事務室 〇三(三三二九六) 四〇八五

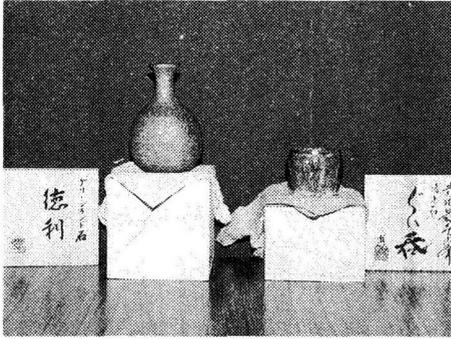
明治大学歴史展

岸本記念ホールで11月19～24日

明大では、リバティタワー竣工記念イベントの一環として「明治大学歴史展」を11月19日～24日の日程で開催する。この展示はリバティタワー竣工を記念し、同タワーに集う多くの方々に、創立以来120年の本学の歩みを振り返っていただくと共に、さらには21世紀の本学を構想する糧としていただこうというのが目的である。

展示の構成は『明治大学のシンボル』：「一、夜明け前」「二、明治法律学校の誕生」「三、山あり谷ありの時代」「四、大学昇格」「五、戦争と明治大学」「六、戦後の復興と改革」「七、未来へはばたく」となっている。その間に折々テーマ・コーナーを、

例えば『幕末維新・明治大学ゆかりの地』『草創期の学生生活』『支える校友』などというように設けてある。すなわち、時代の流れを追いつつも、時々立ち止まってある事



柄を想起起こしていただくことを企図している。

展示品は、文書・物品・写真・絵など約150点にのぼり、創立者の一人である宮城浩蔵の自筆書簡や服、記念館の模写、校歌自筆楽譜、箱根駅伝の応援旗、また本学OBで世界的冒険家・故植村直己の自作焼物（写真）等々が陳列される。とくに今回は、校友や学生に関するものを多めに取り上げた。

この展覧会は近年の大学史展（93年の「明治大学の歴史展」や95年の「記念館歴史展」）を心まえつつも、さらに規模や内容の拡充を図ったものである。（歴史編集事務室）

明治大学歴史展

5千人を超える来場者

リバイタワー竣工記念イベントの一つ「明治大学歴史展」は、11月19日から24日の5日間にわたって、23階の岸本辰雄記念ホール等を使用して開催された(写真)。

今回の歴史展は、1995年の「記念館歴史展」以来のもので、リバイタワー竣工を記念し、創立以来100年の明大の歩みを振り返ると共に、さらには21世紀の明大を構想する糧としようというのが目的。

展示の構成は「明治大学のシンボル」「1.夜明け前」「2.明治法律学校の誕生」

「3.山あり谷ありの時代」「4.大学昇格」「5.戦争



と明治大学」「6.戦後の復興と改革」「7.未来へはばたく」という、歴史的な時間の流れを追ったものの中に、『幕末維新・明治大学ゆかりの地』『草創期の学生生活』『支える校友』などのテーマ・コーナーを各所に配したユニークで巧みな構成が特色。

歴史展は、最終日まで約5000人の入場者を数え、特に22日のイベント当日は一日で2000人以上の見学者で賑わい、中でも50・60歳代の方が懐かしそくに展示物に見入る姿が印象的であった。ア

ンケートでも「明大の歴史がコンパクトにまとめられ良かった」「展示物の保存が良く明大の重みを感じた」「今後どこかに展示を常設して

ほしい」という意見が多く寄せられ、岸本記念ホールの雰囲気と貴重な展示物とが相まって来館者にも非常に好評を得た。

第四部 歴史編纂事務室記録

- 1 明治大学復興関係設計図略目録
- 2 広報部『MEIJI UNIVERSITY』（総合案内）への提出原稿
- 3 入試事務室『大学ガイド』への提出原稿
- 4 職員会『職員会ニュース』第三四二号への提出原稿
- 5 ミニ歴史展関係資料
- 6 職場研修関係資料
- 7 編纂事務室日誌

1 明治大学復興関係設計図略目録 (小滝一正氏寄贈分)

1998年9月30日作成

A 仮校舎関係		
1-1	仮校舎新築設計図	T 12・10 2点
B 第一期関係		
1-1	高等予科修繕工事設計図	T 14・7 1
1-2	増築設計図-1	T 14・12 3
1-3	増築設計図-2	T 14・12 22
1-4	新築設計図	T 15・8 3
1-5	旧校舎間仕切模様替設計図	T 15・8 5
1-6	(増築工事強度計算書)	2
1-7	(第一期平面図 封筒)	1
1-8	復興新築設計図	5
1-9	(神田区駿河台南甲賀町所在敷地詳細図) S 3・6	2
1-10	(区画整理敷地並=建物配置図)	1
C 第二期関係		
2-1	第二期増築設計図	T 14・12~S 3・10 72
D 第三期関係		
3-1	復興第三期記念館新築設計図-1 S 2・7	31
3-2	復興第三期記念館新築設計図-2 S 3・8・23	2
3-3	大講堂強弱計算書 S 2・7・18	2(含8枚)
3-4	復興第三期記念館新築工事 S 2・7	19
3-5	(第三期工事設計図) S 2・7~S 3・1・18	18
3-6	復興第三期記念館設計変更図 S 2・7, S 2・9	3
3-7	第三期(関係図) S 2	10(含15枚)
3-8	記念館新築設計図 S 3・3	2
3-9	記念館設計図 S 3・3	1

E 第四期関係

4-1	復興第四期新築設計図-1	S3・7	5
4-2	復興第四期新築設計図-2	S3・7	9
4-3	復興第四期新築設計図-3		3
4-4	第四期(関係図)	S3・8	1
4-5	第四期工事新築設計図-1	S3・12	7(含2校)
4-6	第四期工事新築設計図-2	S3・12	1
4-7	第四期工事新築設計図-3		3
4-8	第四期工事新築設計図-4(封筒)		1(2袋)
4-9	体育館水泳プール図解並=説明図		3
4-10	(復興第四期工事設計図)		9

F 第五期関係

(a)5-1	図書館第一期工事設計図	S6・7, S6・9	23
5-2	図書館新築設計図	S6・8~S7・4	23
5-3	図書館第一期新築設計図	S6・9~S7・12	9
5-4	図書館第一期電気工事設計図	S6・7~S6・11	3
5-5	図書館第一期工事増築設計図	S6・12	1
5-6	図書館第一期工事変更設計図	S6・12	1
(b)6-1	図書館第二期工事設計図	S8・3	44
6-2	図書館第二期工事書庫設計図	S8・3	2
6-3	図書館第二期増築工事(関係図)	S8・4, S8・5	16
6-4	図書館エレベーター新設設計図	S8・5	1
6-5	図書館第二期(強度計算書)		6
6-6	図書館第五期工事(設計図)		10
6-7	(図書館設計図)		12
6-8	図書館計画図		1

G 予科関係

予-1	予科新築設計図-1	S7・9	3
予-2	予科新築設計図-2	S7・9	2
予-3	予科新築設計図-3	S8・1, S8・7	5
予-4	予科新築設計図-4	S8・3, S8・8	25
予-5	予科新築設計図-5	S8・7	4

予-6	予科新築設計図-6	S8・7, S8・8	9
予-7	予科新築設計図-7	S8・8	6
予-8	予科新築設計図-8	S8・8	1
予-9	予科新築設計図-9	S8・8, S8・10	4
予-10	予科新築設計図-10	S8・8	5
予-11	予科新築設計図-11	S8・10, S8・12	3
予-12	予科新築設計図-12	S8・8	7
予-13	予科新築設計図-13		2
予-14	予科設計図-12	S8・13	1
予-15	予科入口上廂増設設計図	S8・7	2
予-16	予科校舎付属食堂新築設計図	S9・2	1
予-17	予科生徒控室講堂新築設計図	S11・1	2
予-18	予科講堂新築設計図	S12・7	3
予-19	予科建築強度計算書		6
予-20	(予科校舎関係設計図)		2
予-21	予科講堂兼雨天体操場新築設計図		1

H その他

そ-1	復興建築付帯工事設計図	S2・7	1
そ-2	(通風扇図面)	S3・3・30	1
そ-3	家具設計図	S9・3	9
そ-4	向島艇庫新築設計図	S9・9	8
そ-5	明治中学校武道場新築設計図	S10・7, S10・12	13(含3校)
そ-6	(原動機配置図)		1
そ-7	(建築設計図)		2
そ-8	(学内案内図)		3
そ-9	(門塀設計図)		1
そ-10	(前庭植木配置図)		1
そ-11	(梁伏図)		1

I 学外関係

外-1	(ARANGEMENT OF ROOM HOTEL)		2
外-2	YMCA 水泳プール設計図		1

J 仕様書関係

文一 1 (復興第四期関係工事仕様書) S3・12	1
文一 2 (図書館関係工事仕様書) S6・11～S8・4	5

計 650

(注) 当歴史編纂事務室では本史料の詳細な目録も作成済であるが、今回は紙数の関係上、載せなかった。したがって、本誌では「略目録」とした。



2 広報部『MEIJI UNIVERSITY』（総合案内）への提出原稿

明治大学の歴史

■前史

明治法律学校、のちの明治大学は岸本辰雄・宮城浩蔵・矢代操によって創立された。岸本は鳥取藩、宮城は天童藩、矢代は鯖江藩といったように3人とも地方、それもかなり江戸から隔てた藩内で、しかも禄高が低い士族の家に、嘉永年間に生まれ、育った。

やがて、彼らは幕末維新の動乱と変革の中、明治政府の命をうけた藩の選抜生（貢進生）として上京した。そして彼らが出会ったところは明法寮（のちに司法省法学校）であった。同校は司法省が設立したものであり、司法官僚を速成することが目的であった。この学校で「お雇い外国人」教師のボワソナードらからフランス法学を学んだ彼らは、それぞれの道を歩んだ。すなわち、岸本はフランスに留学し、帰国後は判事に、また宮城も同国に留学し、帰国後は検事になった。矢代は元老院に就職し、その傍ら法律私塾の講法学社（北島道竜設立）等の経営と教育に当たった。

■明治法律学校の誕生

司法省法学校在学以来、きわめて親しい間柄の創立者3人は、本務は異なりながらも、常に最新、かつ本格的な法律教育をすることが脳裏にあった。

一方、講法学社の設置者の経営姿勢に不満をもっていた学生らは退学し、その内、十数名は神田小川町の長屋で自主学習をしていた。彼らはやがて、以前、同社で講師をしていた岸本・宮城に新しい法律学校の開校を願った。岸本らは友人であり、講法学社において学生に慕われていた矢代を誘い、東京府に私立法律学校設置願いを提出した。そして、ついに1881（明治14）年1月17日、麴町区の数寄屋橋の一角・島原藩邸跡に法学校を開校した。時あたかも自由民権の風潮の真っ只中、明治法律学校は「権利・自由」を校訓とし、フランス法を中心として教育に当たっていった。

その後、同校は資金難に苦しむのであるが、志願者は日に日に急増していった。そのため、ついに1886（同19）年12月11日、神田南甲賀町に自前の校舎を新築し、移転した。

しかし、その後の同校の歩みは必ずしも順調ではない。特別監督条規等により東京帝国大学の統括・管理下に置かれたり、私学併合を企図されるなどした。いわゆる「私学撲滅」策である。「権利・自由」を標榜する本学は特にその標的とされた。また、国策によるドイツ・イギリス法の保護は、やがてフランス法（本学など）と対立をひき起こす。その頂点は民法典施行をめぐる大論争であるが、結果としてフランス法系は敗北した。

■大学昇格から戦時体制下へ

明治法律学校が大学令による大学（「明治大学」）となったのは1920（大正9）年4月1日のことである。しかし、そこにたどりつくまでには並々ならぬ苦闘と努力があった。学位「明法学士」の発案と授与，専門学校令による「明治大学」認可，法・商・政・文の4学部体制，駿河台移転，大学昇格のための募金運動等々はその代表的な事例である。とにもかくにも教職員・学生・校友らの奮闘努力により，総合大学としての明治大学が成立したのである。

このキャンパスでは留学から帰った新進気鋭の教員，かなりの数に上る留学生，さらには大正デモクラシーを謳歌する学生，そして時には学園騒動に関係する人達といった新たな動きが顕著になってきた。まさに伝統の在野精神・反骨精神を基軸に学園は右に左にと揺れたり，またよきにつけ悪しきにつけ活況を呈していったといえよう。

そのような学園に大打撃を与えたのは関東大震災（1923・大正12年9月1日）であった。だが，壊滅的な学園の焼け跡にかけつけ，いち早く片付け・復興に当たったのは教職員はもとより，学生・校友であった。その結果，1928（昭和3）年4月21日には記念館で復興の式典を挙げていくまでになった。

しかし，やがて社会は経済不況・軍事拡大・テロといった暗雲がたちこめ，明治大学もまたファシズムや戦時体制（とくに太平洋戦争）に巻き込まれるようになった。興亜科の設置や勤労動員・学徒出陣などはその典型的な例である。ただ，その一方，女子教育の拡大，スポーツの振興，予科（和泉校舎）の移転等々，前向きな側面が認められたのも事実である。

■戦後の復興から新時代へ

本学は1949（昭和24）年2月24日，新制明治大学として認可され，新たな出発をした。学部は法・商・政経・文・理工・農の6学部からなり，さらに翌月25日には第2部（夜間制）が設置された。当然，このころは当時の社会状況と同様に，本学内においても大きな戸惑いと混乱が生じた。しかし，その一方，新しい大学をめざして気概と希望に満ちていたわけでもある。

その後，本学は生田キャンパスの開設，大学院の拡充，経営学部の新設，さらには新校舎の建設が進められていった。こうした制度と施設設備の拡充は急速に推進されたのであるが，やがて1960年代ころより学内の質的な改革が叫ばれるようになった。例えば専教連改革，学費問題，あるいは全共闘運動等々である。そうした経緯を経て，明治大学は1980（昭和55）年11月4日，創立100周年を祝った。そして，それを契機として，いままで以上に，建学の精神に基づき本学の歩みを検証しようとする動きが活発化した。また，それと同時に新しい時代を担う大学としての在り方が急速に求められてきた。

明治大学・年譜

- 1880年 2月 岸本辰雄，6月宮城浩藏，仏国より帰朝
" 12月 明治法律学校開業届提出
(麴町区上六番町36番地宮城浩藏屋敷内)
- 1881年 1月 明治法律学校開校，麴町区上六番町より有楽町3丁目1番地
数寄屋橋内旧島原藩邸に移転
- 1886年12月 私立法律学校特別監督条規公布
有楽町島原邸より伸田駿河台南甲賀町11に新築移転
- 1888年 5月 特別許可学校規則により法律学部・政治学部の2学部が許可され，校長・
教頭の制を置く，初代校長に岸本辰雄，教頭に宮城浩藏が就任
- 1900年 2月 校則を改正し，卒業生に「明治学士」の称号を認可
- 1903年 8月 明治法律学校を「明治大学」と改称(専門学校令)
- 1904年 4月 学則改正により法学部・政学部・文学部・商学部設置，各学部本科・専
門科設置
- 1905年 7月 大学組織を財団法人に改める
- 1911年10月 最初の記念館落成(現在の駿河台校舎)
創立三十周年記念式典挙行
- 1912年 4月 創立者岸本辰雄逝去
" 7月 政学部を政治経済科と改称
- 1920年 4月 大学令による大学設立認可
" 5月 明治大学校歌作成(作詞・児玉花外，作曲・山田耕筰)
- 1921年 2月 大学予科校舎(駿河台)新築落成
" 4月 専門部に二部法科を設置
- 1923年 4月 専門部に二部経済科を設置
- 1925年 4月 政治経済学部認可
- 1929年 4月 専門部経済科(二部)の呼称を専門部政治経済科と改称
女子部開設(現在の短期大学)，専門部科二部設置
- 1930年 3月 明治大学商業学校設置
- 1932年 4月 専門部文科を設置
- 1939年 9月 専門部興亜科を新設，経営・貿易・農政・厚生 の4科を置く
- 1944年 3月 女子部を改め明治女子専門学校設置
- 1944年 4月 東京明治工業専門学校設置，専門部商科を経営科と改称

- 1945年 9月 興亜科を産業経済科と改称
- 1946年 6月 明治農業専門学校設置
- 1949年 2月 学校教育法により明治大学設置，法学部・商学部・政治経済学部・文学部
・工学部・農学部を置く
- 〃 3月 二部に法学部・商学部・政治経済学部・文学部を置く
- 1950年 3月 二部に工学部増設
- 〃 4月 短期大学設置
- 1951年 3月 大学組織を学校法人に改める，生田校舎建設
- 1952年 4月 大学院設置
- 1953年 4月 経営学部設置
- 1954年 4月 大学院校舎落成
- 1965年 3月 生田工学部校舎竣工
- 1980年11月 創立百周年記念式典挙行
- 1989年 4月 理工学部設置
- 1991年 1月 生田中央校舎竣工
- 1994年 3月 駿河台12号館舎竣工
- 1995年11月 明治大学発祥の地に記念碑建立（千代田区有楽町2丁目）
- 1996年 9月 和泉校舎体育館竣工
- 1998年 9月 リバティタワー竣工

3 入試事務室『大学ガイド』への提出原稿

明治大学のあゆみ

明治

- 1860年2月 岸本辰雄、6月宮城浩蔵、仏国より帰朝
- 〃 12月 明治法律学校開業届提出(麹町区上六番町36番地宮城浩蔵屋敷内)
- 1861年1月 明治法律学校開校、麹町区上六番町より有楽町3丁目1番地教習座橋内旧島原藩邸に移転
- 1866年12月 私立法律学校特別監督条規公布
- 〃 有楽町島原邸より神田駿河台南甲賀町11に新築移転
- 1868年5月 特別認可学校規則により法律学部・政治学部の2学部が認可され、校長・教頭の制を置く、初代校長に岸本辰雄、教頭に宮城浩蔵が就任
- 1900年2月 校則を改正し卒業生に「明法学士」の称号を認可
- 1901年4月 制服・制帽の制を定める
- 1903年8月 明治法律学校を「明治大学」と改称(専門学校令)
- 1904年4月 学別改正により法学部・政学部・文学部・商学部設置、各学部本科・専門科設置
- 1905年7月 大学組織を財団法人に改める
- 1911年10月 農初の記念館落成(現在の駿河台校舎)創立三十周年記念式典挙行
- 1912年4月 創立者岸本辰雄逝去
- 〃 7月 政学部を政治経済科と改称

大正

- 1920年4月 大学令による大学設立認可
- 〃 5月 明治大学校歌作成(作詞・児玉花外、作曲・山田耕柝)
- 1921年2月 大学予科校舎(駿河台)新築落成
- 〃 4月 専門部に二部法科を設置
- 1923年4月 専門部に二部経済科を設置
- 1925年7月 政治経済学部認可

昭和

- 1929年4月 専門部経済科(二部)の呼称を専門部政治経済科と改称
- 女子部開設(現在の短期大学)、専門部商科二部設置
- 1930年3月 明治大学商業学校設置
- 1932年4月 専門部文科を設置
- 1933年8月 予科を和泉に移転すべく校舎建築竣工
- 1939年9月 興亜科専門部を新設、経営・貿易・農政・厚生
の4科を置く
- 1944年3月 女子部を改め明治女子専門学校設置
- 〃 4月 東京明治工業専門学校設置、商科専門部を経営科と改称
- 1945年9月 興亜科を産業経済科と改称
- 1946年6月 明治農業専門学校設置

昭和

- 1949年2月 学校教育法により明治大学設置、法学部・商学部・政治経済学部・文学部・工学部・農学部を置く
- 〃 3月 二部に法学部・商学部・政治経済学部・文学部を置く
- 1950年3月 二部に工学部増設
- 〃 4月 短期大学設置
- 1951年3月 大学組織を学校法人に改める、生田校舎設置
- 1952年4月 大学院設置
- 1953年4月 経営学部設置
- 1954年4月 大学院校舎落成
- 1957年3月 大学院文学研究科増設認可
- 1959年4月 大学院農学研究科・経営学研究科増設認可
- 1960年3月 創立八十周年記念事業としてアラスカ学術調査隊出発
- 1961年3月 大学院工学研究科建築学専攻博士課程認可
- 1963年4月 大学院政治経済学研究科経済学専攻博士課程認可
- 1965年3月 生田工学部校舎竣工
- 1968年3月 大学院工学研究科工業化学専攻修士・博士課程増設
- 1974年1月 連合父兄会結成
- 1978年4月 大学院農学研究科農芸化学専攻・農学専攻・農業経済学専攻増設
- 1980年11月 創立百周年記念式典挙行
- 1983年3月 生田第三校舎3号館竣工
- 1984年4月 創立百周年記念図書館竣工
- 1985年7月 創立百周年記念大学会館竣工
- 1987年5月 和泉校舎図書館増築竣工
- 1988年10月 和泉第一校舎竣工
- 1989年2月 生田第一校舎4号館竣工
- 〃 4月 理工学部設置
- 〃 7月 生田第二校舎6号館竣工
- 1991年1月 生田中央校舎竣工
- 1993年4月 大学院理工学研究科増設、基礎理工学専攻修士課程設置
- 1994年3月 駿河台12号館竣工
- 1995年4月 大学院理工学研究科、基礎理工学専攻博士課程設置
- 〃 11月 明治大学発祥の地に記念碑建立(千代田区有楽町2丁目)
- 1996年9月 和泉校舎体育館竣工
- 1998年9月 創立百二十周年記念館リビティタワー竣工

平成

4 職員会『職員会ニュース』第342号への提出原稿

明治大学の素朴な疑問

——意外に知らない明治大学

Q1：校旗・校章以外に、明治大学のシンボルはあるのでしょうか。あるとすれば、何でしょうか。また、どの部署でシンボルを考案するのでしょうか。

A：「明治大学」というマーク（徽章）を配した校旗は1915（大正4）年4月に制定されました。『駿台新報』（昭和14年10月17日付）によれば、その色の深紫は色階としては最上位のものであり、旗の形は「方正端敞」を象徴しているといわれます。また、その制定者は木下友三郎氏（制定時は校長）と記されています。なお、それ以前の明大マーク（徽章）は下記のもので1903（明治36）年に制定されました。（歴史編纂事務室）



Q2：創立記念日が2日あるのはなぜですか。

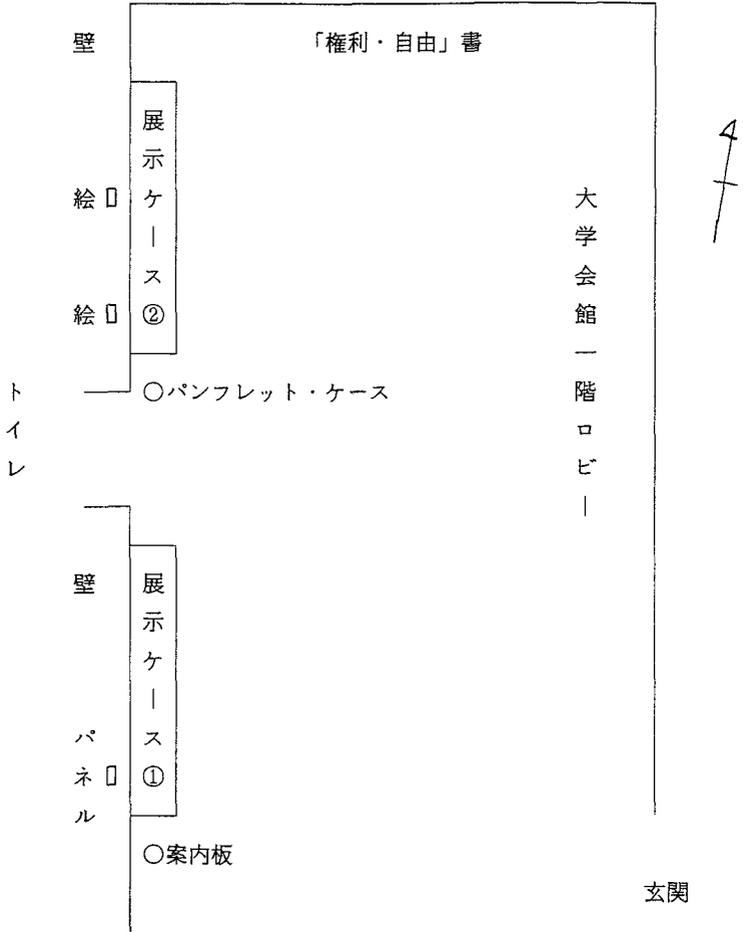
A：1月17日は創立記念日で、人間でいえば誕生日です。これはほとんどの学校でも設けているように開校を記念する日です。『明治大学二十年史』では、この日「開校の典を行ふ」とありますので、その規模はともかく、何らかの行事を行った可能性が大了。

問題はこの日から授業をしたのかどうかということです。当時の新聞にはこの日「教場ヲ開キ」とありますし、またこのころはあまり大々的な式典等をしてない、さらに校内に司法試験合格をめざす厳しい学問的な雰囲気があること等々を考えると、授業も即日はじめたものと思われます。

11月1日は1933（昭和8）年に定められた「創立記念祝日」です。制定理由のひとつは、創立50周年記念式典を記念した日であること、またその一環としての施設拡充（とくに記念図書館建設）のために恩賜金が交付されたことを記念するためです。

しかし、実はもうひとつ理由があり、1月17日の記念日の方は「第三学期ノ始メニシテ学生ノ出席少ナク」と当時の文部省への提出書類にあります。（歴史編纂事務室）

配置図



受付

第1回 明治大学小史展の構成について

テーマ 学園をみまもってきた記念館

主旨（展示場の「御挨拶」に相当。衝立に貼り、左端に立てる）

明治大学および明治大学史にあって、シンボルといえば記念館はそのひとつにあげられましょう。今回の展示ではシンボルのみならず心の拠り所でもあった、その記念館の歩みを振り返ってみましょう。

内容（展示物のキャプションに相当）

1 初代記念館の写真（明治44年） 吊るし

創立30周年を記念して南甲賀町（現在の主婦の友社）から今の駿河台の地に移転した時にキャンパスの中央部（現リバティタワー）に建設された。

2 2代記念館の写真（大正元年） 吊るし

初代記念館は完成5ヶ月にして焼失してしまう。そして、9ヶ月後に再建されたのが、この記念館である。

3 3代記念館の模型（1996年12月） 既設

2代記念館は大正時代を生き抜いていくが、大正12年の関東大震災によって崩壊した。しかし、教職員・学生・校友らの必死の労苦により、ついに記念館は蘇った。

4 リバティタワーの模型（1996年3月） 既設

3代目の記念館の跡にリバティタワーが竣工したのは、昨年9月のことである。今や確実に明治大学、そしてお茶の水のシンボルとなっている。

5 記念館講堂建築資金募集の記事（明治43年7月） ケース内

明治大学の校誌『学叢』第7号に収載されている初代記念館の建設資金募集に関する記事である。学生が呼びかけを行っている。

6 復旧作業の写真と『焼跡整理簿』（大正12年9月、同年12月） 写真（吊るし）・文書（ケース内）

関東大震災により壊滅状態となった学園にはいち早く学生らがかけつけ、復旧に向けて汗を流した。

7 復興校債募集の趣意書・申込書（大正13年3月） ケース内

関東大震災からの復興のため、全国の関係者に校債の応募を呼びかけた。

8 ドームの銅板（昭和3年） ケース内

3代記念館の頂上部はこの銅板におおわれたドームでした。このドームの形もまたリパティタワーに引き継がれました。

9 貴賓室の壁布（昭和25年） ケース内

創立70周年記念行事の際、3代記念館の貴賓室の内部の壁に貼られた布である。

10 3代記念館の絵（昭和初年） 吊るし

竣工まもない記念館を描いた作品である。自動車などが当時の風情を添えている。

11 記念館のグッズ（昭和年間） ケース内

(1) 創立50周年記念のペン皿（川島達男氏寄贈）

(2) 3代記念館オルゴール（坂場薫氏寄贈）

(3) 3代記念館置時計（布留川邦夫氏寄贈）

(4) 3代記念館ソノシート（岩田武氏寄贈）

さすがに記念館のグッズは数多く作られた。これはほんの一部である。

12 記念の絵葉書（明治44年，昭和3年4月，同15年） ケース内

(1) 明治大学創立三十年 記念絵葉書

(2) 明治大学校舎絵葉書

(3) 明治大学復興記念絵葉書

(4) 創立六十周年記念絵葉書

記念館の絵葉書も今となってはかなり貴重なものである。

13 歴史編纂事務室報告『明治大学記念館の歴史と資料』と『明治大学記念館』 1928

⇒1995』（1996年3月，同年9月） ケース内

ともに3代記念館の終焉を機に刊行されたものである。

展示の期間

① 2月25日～5月31日 ② 6月15日～9月30日

③ 11月1日～12月24日 ④ 1月18日～2月28日

展示のテーマ（当面の予定）

① 学園をみまもってきた記念館

② 神田・お茶の水と明治大学

③ 明治大学史料・この一年 一受贈史料一

④ 女子部から短大へ

6 一九九八年度職場研修関係資料

古賀政男音楽博物館

渋谷区上原三一六一一二

(TEL 三四六〇一九〇五一)

職場研修実施計画・申請書(一九九九年一月二日)
部署名 総務部歴史編纂事務室

実施責任者 長浜忠雄

研修課題(テーマ)

大学史料の活用—とくに史料の公開について—

課題の選定理由 当室では、新たに歴史編纂業務に当たっていくため、「大学史料の収集・保存・活用」をテーマに、その大概を把握してきた。本年度はさらにテーマを絞り、大学史料の公開の問題を扱う。

実施日時 二月五日(金) 九時～一六時迄(一日間)

実施場所 体育記念室・古賀政男音楽博物館

研修に使用する資料

1 発表レジュメ

2 参考資料

実施スケジュール(内容・方法)

九時〇〇分～一〇時〇〇分 発表

一〇時〇〇分～一一時三〇分 討論

一一時三〇分～一三時三〇分 昼食・移動

一三時三〇分～一四時三〇分 説明

一四時三〇分～一六時〇〇分 見学

古賀政男
音楽博物館

備考

職場研修報告書(一九九九年二月六日)
部署名 総務部歴史編纂事務室
実施責任者 長浜忠雄
研修課題(テーマ)

大学史料の活用—とくに史料の公開について—

実施日時・場所 二月五日(金) 九時～一六時迄

体育記念室・古賀政男音楽博物館

参加者 長浜忠雄

報告内容

本年度の当室職場研修は予定どおり、上記のテーマで行なわれた。

第一部(午前中)は報告・発表とそれに基づく討論がなされた。まず、資料の「資・史料の活用とその問題点」と「参考資料」をもとに報告・発表がなされた(鈴木)。その内容の項目は「1、史料公開の制度化」、「2 各大学の情報および史料の公開」、「3 本学の情報および史料の公開」、「4 著作権について」、「5 著作権の実態」、「6 権利の侵害」、「7 2・3の

論文から学ぶ」である。とりわけ、本学における史料の公開は現実的、かつ緊急の問題であるため、当日は具体的な事例をもとに討論がなされた。この問題は人権や著作権といったことも関連するため、討論にかなりの時間を費した。また史料の公開は当然、史料の管理・保存の問題とも関連するため、本学および当室の現状が議論された。とくに史料の殺菌・消毒や保存庫（現在は明中高校内に仮設）については、早急に解決しなければならぬことが確認された。さらに、史料の公開の前提となる史料の入力（目録化）にも話題が及び、現状はかなり遅滞気味となっていること、そしていかにすべきかということについて、意見が出された。

第2部（午後）は上記のことに先進的な古賀政男音楽記念館を見学した。前半は、まず中本専務理事より同館の概要説明があり、続いて鹿島基広・大木雅子両学芸員より史料に関する詳しい説明があった。当然、音楽著作権のことにもふれられた。なお、古賀政男氏（故人）は本学の出身であり、その関係の史料についても紹介があった。後半は両学芸員の案内で、施設、とくに展示コーナーと保存庫を見学した。原史料の復元、見学者本位の展示方法、あるいは条件の整った保存施設等々、学ぶべきことが多々あった。



職場研修・レジュメ

資・史料の活用とその問題点

1 史料公開の制度化

- (1) 公文書館法の制定
1987（昭和62）年12月15日法律第115号（資料1参照）
第3条公文書等の利用・責務
- (2) 文書館の設置
国立公文書館と史料館
都道府県のもの（山口県立文書館等）
市町村のもの（藤沢市文書館等）
- (3) 情報公開制度と開示要求
いずれとも急増（しかし、制度は「上から」の実現）
国（閣議決定レベル）
特殊法人（1年以内に）
- (4) アカウンタビリティについて
説明責任
重視の傾向
- (5) 近年の問題点
古文書と文書の区別の是非
文書保存期間の短縮化（開示請求のためや保存スペースの都合）
法案化にともない公開鈍化
研究・商行為と人権の関係

2 各大学の情報および史料の公開

- (1) 東京大学の場合—— 自己点検・評価の中からの要望
- (2) 名古屋大学の場合—— 『名古屋大学史資料室利用規定』の制定（資料2参照）
- (3) 早稲田大学の場合—— 『早稲田大学大学史資料センター規定』の制定
(資料3参照)
- (4) 大学の「閉鎖性と未熟さ」について
史料を抱える体質

いわゆる「縄張り」意識（とくに法人と教学）

公開体制のなさと不統一

(5) 近年のデータ

3 本学の情報および史料の公開

(1) 既存の法規

「個人情報の保護に関する規定」(1994年4月11日)(資料4参照)

「図書館における個人情報の保護に関する要綱」(1995年10月2日)(資料5参照)

(2) 当室関係の法規（内規を含む）

「文書の整理及保存に関する規程」(昭和43年3月25日)(資料6参照)

「当面の半現用・現用文書の取り扱いについて」(1998年7月27日)(資料7参照)

4 著作権について（著作権セミナーによる）

(1) 著作権の定義

(2) 著作権の種類

(3) 著作権の保護期間

(4) 無許可による著作物利用

(5) 著作権の利用方法

(6) 著作権者不明の手続き

(7) 著作権侵略の処罰

以上，資料8参照

5 著作権の実態——応用のために——

(1) 著作権軽視の理由

(2) 現実と運用

(3) 多くの問い合わせ

以上，資料9参照

6 権利の侵害

(1) 差別用語，不快用語

(2) その他

7 2・3の論文から学ぶ

(1) 「公文書の評価選別と公開非公開の基準についての試論」(佐藤隆，『秋田県立公文書館紀要』第4号)

ア 秋田県立公文書館公文書課の基準づくり

廃棄のための評価選別基準（業務の入口）

閲覧利用のための公開非公開基準（業務の出口）

イ 公文書の整理

文書の引継と一次整理（永・10・5・2・1年保存もの）

二次整理

（注）文書学事課でうけて、次に公文書館

ウ 評価の大原則

原則

ランク付け

エ 非公開の基準

期間…作成後「30年原則」（ICA，つまり国際文書館評議会）

出生100年間（個人）

50年間（中間説）

対象

オ 課題

ネットワーク，協力体制

「倉庫番」化しない

カ いつかの利用に向けて保存するのではなく，現在の利用に向けて対応すること

以上，資料10参照

(2) 「公文書等の保存に向けて——情報公開と史料提供」（水口政次，『双文』第15号）

ア 群馬県の情報公開制度の非開示事項

イ 東京都の情報公開制度の非開示事項

ウ 情報公開制度と文書館閲覧制度

以上，資料11参照

（注）「職場研修・参考資料」（資料1～11）の掲載は割愛した。

7 □歴史編纂事務室日誌□

(一九九八年一月二八日～一九九九年一月二〇日)

'98年

- 1・28 大学史料委員会開催
 広報部、神保町界隈の写真について、来室(貸与)
 『かんだ』(かんだ会)ライター須藤出穂氏、児玉花外について、来室
 入試事務室、講義録について、来室(写真貸与)
 30 図書館より大正期における東京商大への図書寄贈願文、借用
 一橋大学へ国立への移転時期について、問い合わせ
 2・2 紀要の印刷願、用度課へ提出
 5 庶務課より歴代商議員について、問い合わせ
 6 資料室補強工事のための下調べ(点検、書類作成)
 9 紀要印刷の業者説明会
 資料室補強工事のため、業者写真撮影(見積書作成のため)
 元職員佐藤一也氏、昭和28年度入学試験問題について、来室
 10 紀要印刷業者、二葉印刷に決定、原稿を渡す
 専修大学年史編纂課へ森本駿について、回答
 図書館より志田鉦太郎履歴について、問い合わせ
- (14日に来室)
 13 部課長会出席
 東京スタデオ、史料補修完了(吉祥寺寮々則)、搬入
 15 当室史料提供のNTV「いつみても波瀾万丈―浅香光代」放映
 16 報告集の印刷願、用度課へ提出
 17 カード会報掲載原稿、企画室へ提出
 18 カード会報掲載写真の撮影、広報部へ依頼
 企画室、岸本辰雄と校舎の写真について、来室(貸与)
 募金室、鳥取藩主について、来室
 神奈川大学沢木武美氏よりリビタタワーについて、問い合わせ(19日も)
 日本大学大学史編纂室五谷十三雄氏より『明治大学百年史』頒価と通史執筆について、問い合わせ
 19 報告集印刷の業者説明会
 紀要初校ゲラ、届く(校正開始)
 中津川市山本鉦氏、来室(挨拶)
 21 報告集の印刷業者、二葉印刷に決定
 23 報告集の原稿、印刷業者へ渡す
 生田学生課より針生山荘落成記念ペナント移管
 校友阿部政氏より明治期職員岡田新三郎について、問い合わせ
 24 神奈川大学沢木武美氏ら、リビタタワーについて、

- 来室
生田庶務課より農・工学部の移転について、問い合わせ
- 27 鯖江市市民会館長勝山幸雄氏、原稿依頼のために来室（矢代操について、まちおこし運動のため）
ユニ・フォート・マイクロ簿より『組合ニュース』（CH）納品
- 28 『組合ニュース』の整理（〜3月2日）
図書館用品簿へ『組合ニュース』製本依頼（17日に納品）
報告集初校ゲラ、届く（校正開始）
図書館にて「戦後教育史料」（マイクロ焼き付け）閲覧（4日も）
- 4 駿河台学園、『駿河台学園八十年史』寄贈のため、来室
- 6 日本テレビ・エンタープライズ簿中村敦子氏、駿河台界限写真（明治〜昭和）について、来室（写真貸与、13日にNTVで三橋猛雄について放映）
仙台市小山彌太郎氏（校友）より戦時下学生について、情報提供（書簡）
- 11 広報部、旧正門表札について、来室
- 28 ぎょうせい 榎高柳昌彦氏、島原藩邸について、来室（写真貸与）
部課長会出席
- 13 伊藤好一氏御逝去の報（葬儀済み）により同宅へ申問
紀要・報告集の発送準備
ホーム・ページ説明会および講習会
- 17 学生部より吉祥寺寮関係史料移管（19日も）
- 20 創立者・鶴沢総明の墓碑調査
広報部、学部改廃について、来室
- 23 紀要校了
校友課より推薦校友について、問い合わせ
資料室補強工事開始（〜25日）
- 24 図書館より松本滝蔵・米田実について、問い合わせ
沼津商業高校一〇〇周年記念史編纂委員会加藤美智子氏、弓道部について、来室
- 25 部課長会出席
- 26 全国大学史資料協議会東日本部会幹事会および研究部会出席
- 27 明高中事務室より創立者の読み方について、問い合わせ
小山卓氏、父彌太郎について、来室（情報提供）
法学部資料センターより『商法正義』・『民法正義』の表紙と奥付（コピー）、提供

- 樋口まさよし氏（平成7年卒）より創立者名および創立年について、問い合わせ
- 30 紀要、業者より搬入
- 4・1 辞令交付、長浜忠雄事務長着任、松井苗子前事務長調査役（広報担当）へ転出
- 31 明高中事務長より『西洋館』という福音』（『図書』一九九〇・九、コビー）提供
- 2 図書館部課長連絡会出席
庶務課より演奏会プログラム、移管
考古学博物館より考古学陣列館絵葉書、寄贈
雄弁部学生、学徒兵について、来室
- 7 3 報告集、業者より搬入
紀要・報告集の発送（学外分）
明高中事務長より『衆議院議員在職五十年の表彰を受けて』（三木武夫）、寄贈
生田学生課より『文書作成の手引』、移管
- 8 印南博之氏、父博吉氏（元商学部教授）の遺品寄贈のため来室
- 9 募金室、開校地について、来室（9・10日も）
有馬輝武前理事、来室（挨拶）
専修大学年史編纂課浅田岳史氏、報告集のことについて、来室
明高中事務長より史料の補修業者について、問い合わせ
- 11 宮内庁書陵部福井淳氏、高知法律学校等について、来室（情報提供）
- 4・13 大学史料委員会開催
戸沢充則学長へ三木武夫関係「パクロウ会」について、中間報告（17日より調査再開）
- 14 紀要・報告集の配布・発送開始
部課長会出席
- 15 紀要・報告集執筆・編集資料の整理（17日）
大学院事務室より長尾竜一氏（『鶴沢総明』解題執筆）関係資料（コビー）提供
- 16 リバティタワー竣工記念展覧会の準備開始
印南博之氏より父・博吉関係アルバム寄贈
校友三田村健郎氏、学徒兵について来室
葛飾区郷土と天文の博物館主任学芸員橋本直子氏来室、『花菖蒲』寄贈
- 20 総合企画部へ学事記録用資料提出
紀要・報告集のポスター作成・配布
- 21 全国大学史料協議会東日本部会幹事会出席
旧記念館等図面の整理再開
- 22 元留学生崔麟等について、史料調査
農水産業協同組合貯金保険機構伊関氏（校友）より乗竹孝太郎について、問い合わせ
同志社大学元職員竹内力雄氏より内田鉄三郎について、問い合わせ

- 23 部課長会出席
総合施設整備推進室、大学院会議室額絵画について、来室
- 24 学生事務部より、吉祥寺寮関係史料移管
- 25 韓国・朝鮮人学兵について、史料調査（28日）
宮内庁書陵部福井淳氏、各大学年史閲覧のため来室
歴史編纂事務室関係「文書綴」の整理
- 28 日本民芸協会篠崎氏より関東大震災ころの小川町の地図について、問い合わせ
京都府長岡京市後藤正人氏（和歌山大学）より「児玉花外『社会主義詩集』と大塩中斎」（立命館大学紀要抜刷）寄贈
- 30 同志社大学元職員竹内力雄氏より田中不二磨「談話筆記」（コピー）提供
後藤総一郎委員より柳田国男の新体制運動に関する論文について、問い合わせ
浅田毅衛委員より田島義方について、問い合わせ
7 広報部、明法学士関係写真について、来室（写真貸与）
- 8 総合施設整備推進室、神保町の歴史について、来室
9 高知法律学校の調査開始
リパティタワーの内部施設について、総合施設整備推進室へ問い合わせ
- 12 岡山法律英学校の調査開始
- 13 日本大学大学史編纂室五谷十三雄氏、学部間共通総合講座等について、問い合わせ
大同法律学校・北京分校等の調査開始
- 14 全国大学史資料協議会東日本部会幹事会および総会出席
- 15 大学史料委員会開催
16 元職員持永あい子氏より「浮世絵コレクション」（『日本経済新聞』一九九八年五月一六日付、藤沢衛彦氏関係）について、情報提供
- 18 校友二宮正二氏より東京明治工業専門学校の修学年限について、問い合わせ
校友阿部皎氏より岡田新三郎について、問い合わせ
- 19 紀要第3号の執筆依頼準備開始
20 教務課より昨年度卒業式録音テープ借用
理工学部事務室より『勤労動員関係綴』（東京明治工業専門学校）移管
募金室より大学院の「鐘」について、問い合わせ
共同通信社大塚氏より学部名称の由来について、問い合わせ
- 21 政経学部事務室より矢代操について、問い合わせ
22 卒業式挨拶の紀要掲載について、阿久悠事務所訪問
紀要第2号・報告集第19集刊行案内の作成と掲載依頼（校友会事務局・全国大学史資料協議会へ）
教務課より専門科の設置について、問い合わせ

- 25 「鵜沢文書」の取り扱いについて、委員長と事務長、総長と面談
 広島市富樫直子氏へ故武右益則について、問い合わせ
- 26 募金室よりビデオ「募金のお願い」寄贈
 紀要第3号の執筆依頼開始
 鵜沢家へ史料について、交渉再開希望の旨、郵送
 鳥取市教育委員会博物館準備室へ校友中田正子氏について、問い合わせ
 神奈川大学外国語学部教授大里浩秋氏、留学生史について、来室
- 27 歴史展会場候補のリバティタワー見学
 歴史展の時期・会場について、事業振興部と打ち合わせ（29日・6月2・4・15日も）
 リバティタワー23階岸本辰雄記念ホールの常設展示ケースについて、総合施設整備推進室に確認
 文書課より大学院の「鐘」について、問い合わせ
 募金室より最初の校友会について、問い合わせ
 部課長会出席
 広報部より本学所蔵史料（NHK依頼）について、問い合わせ
- 6・1 就職事務部より就職関係行事写真、移管
 2 事務室入り口付近間仕切りの工事
 歴史展の所属、ホーム・カミング・グループに決定
- 3 総務理事より福岡校友について、問い合わせ
 募金室へ開学記念碑関係資料、貸与
 5 人事部より元教員中井精一について、問い合わせ
 8 事務室内模様替え作業の開始
 9 歴史展の概要、総務部長へ報告
 九州大学教授高瀬正仁氏、校友坂本寛治について、来室
- 10 法制資料センターより書籍『民法』等、移管
 校友会事務局、校友会費の徴収の経緯について、来室
 11 東京大学明治新聞雑誌文庫にて高知県関係新聞調査ホーム・カミング等、リバティタワー竣工記念イベント実行委員会出席
 高知市内史料調査（13日）
 入試事務室より学長の就任順位について、問い合わせ
- 16 17 印南博之氏、父・博吉遺品寄贈のため、来室
 歴史展の会場・期間確定
 歴史展について、広報部・管財部と打ち合わせ等
 板橋区鈴木三和子氏より祖父石川牛之助について、問い合わせ

- 18 本学関係国民栄誉賞受賞者について、調査
歴史展の予算等について、庶務課長と打ち合わせ
広報部より『季刊 明治』の原稿執筆依頼
父母会事務室より山梨・長野両県校友について、問
い合わせ
- 19 募金室、岸本辰雄とパリ関係について、来室
『季刊 明治』執筆について、広報部と打ち合わせ
早稲田大学院生伊藤信哉氏より元教員米田稔につ
いて、問い合わせ
- 20 校友課より『MEIJI NOU』掲載、歴史展原
稿執筆依頼
- 21 渡辺副委員長より福島青年改造連盟資料（『福島市
史』収載、コピー）提供
鯖江市史料館竹内信夫氏より校友松本修三について、
情報提供
- 23 広報部へ岸本辰雄写真、貸与
大学史料委員会
- 25 校歌ハーモニカ楽譜購入
- 26 学生高氏源氏より空手部の歴史について、問い合わ
せ
- 30 庶務課より静岡校友会の歴史について、問い合わせ
後藤総一郎委員より学食史料について、問い合わせ
『明大スポーツ』編集部、明治大学歴史展について、
来室
- 2 16 全国大学史資料協議会東日本部会出席
歴史展業務について、管財部へ問い合わせ
熊倉清氏より先祖（元校友）について、問い合わせ
講談社より経緯学堂写真について、問い合わせ
- 3 6 青山学院大学教授兩宮剛氏より戦時下留学生志願に
ついて、問い合わせ
山泉進法学部教授、図書閲覧に来室
- 7 7 広報部より産経新聞大学特集記事について協力依頼
駿河台大学助教塚本美恵子氏、専門部生日系米人
について、来室
- 9 9 歴史展の業者説明会（第1回）
広報部より『大学案内』へ執筆依頼
校友佐々木恒造氏、校歌について、来室
- 11 ユニフォト・マイクロKXへ複写依頼（戦後教育資
料）
管財部と展示業者について、問い合わせ（以降継
続）
- 14 浅田毅衛委員より植村直己記念館パンフレット等寄
贈
歴史展のための資料室物品調査（15、16、17日も）
歴史展のための事務室物品調査（21、24日も）
- 16 高知市公文ガク氏より卒業生山本昌秀について、問
い合わせ
学生課より文学部卒業アルバム（一九六五年）寄贈
- 21

- 22 歴史展の業者説明会（第2回）
 リバティタワー竣工記念行事実行委員会出席
 決裁手続規定等に関する説明会出席
 部課長会出席
- 23 専修大学大学史資料室小展示見学
 図書館用品Kへ資料の製本依頼
 図書館より当室史料目録届く
- 24 KKニックスより生田校舎写真について、問い合わせ
 阿久悠展見学（銀座日動キャオリ）
 歴史展々示リスト作成（以降継続）
 歴史展史料の借用について、図書館と打ち合わせ
 管財部と歴史展準備の打ち合わせ
 全国大学史資料協議会全国大会アンケート郵送（関
 西大学へ）
- 28 朝日新聞社より一九三五〜四五五年の明治大学留学生
 数について、問い合わせ
- 26 紀要執筆者へ暑中見舞状郵送
 管財部より明治大学歴史展の業者見積書受取（19日、
 同部へ回答）
- 25 教務課より校友望月長夫（明治22年卒）について、
 問い合わせ
- 6 歴史展史料借用証書の作成
 入試事務室より『大学案内』所収「建学の精神」「年
 表」の執筆依頼
- 7 学生事務部より体育会関係グッズ寄贈
 募金室へ「インディラとタカオ」関係文書貸与
 広報部より開学記念碑・和泉校舎の写真借用
 東北大学記念資料室へ同室について、問い合わせ
 （19日返事）
- 17 FMV設置、事務システム課の説明
 管財部より富士吉田運動場について、問い合わせ
 明朋より「紫紺」の由来について、問い合わせ
 講談社より錦町分校写真の転載依頼
 森永製菓へエンゼルマークについて、問い合わせ
 大森喬氏へ父茂氏について、問い合わせ（26日、写
 真等借用）
- 20 日米商会へイベント・パンフレット用の写真複製依
 頼
- 24 南甲賀町校舎跡等、写真撮影
 展示史料を資料室より移送（9月2、10日も）
- 25 和泉校舎・数寄屋橋校舎跡の写真撮影
 管理職研修出席
 歴史展について、業者・管財部と打ち合わせ
 施設課より旧記念館起工日について、問い合わせ
 イベント・パンフレットの編集・執筆（以降継続）
- 26 広報部より機関誌『明治』の校正依頼
 歴史展の経費について、庶務課と打ち合わせ（7日
 も）
- 9・2 歴史展の経費について、庶務課と打ち合わせ（7日
 も）

- 展示史料(事務室のもの)の点検(3・7・9日
も)
有馬輝武前理事来室、海軍一四期関係ビデオ持参、
鑑賞
実践女子大学生嶋村佳永子氏、大学門札について、
来室・写真撮影
3 明中高事務長より『日本経済新聞』所収の黄尊三関
係記事
提供上越市史編さん室より刊行物の交換依頼
4 広瀬良弘駒沢大学教授、大学史の編纂と研究の現状
について、来室
来室産経新聞森彰英氏より創立者の写真転載の依頼
7 室会議(来年度の業務内容について)
紀要執筆者廣島雄三氏より春日井元総長等について、
問い合わせ(10日も)
8 歴史展経費増額の決定
9 演劇衣装家三大寺志穂美氏明大生の学帽について、
来室
10 歴史展業者と展示品の打ち合わせ
山泉進法学部教授明治法律学校生佐竹音次郎につ
いて、来室
17 紀要執筆者廣島氏より昭和30年の競走部々長等につ
いて、問い合わせ
18 募金室より最初の校友会について、問い合わせ
- 坂口光男法学部教授元教授志田鉦太郎氏について、
来室(19日も)
19 政経学部事務長より戦前学生生活の写真寄贈
22 歴史展タニリスト作成(以降継続)
立命館大学百年編纂室秋房理恵氏学部間総合講座の
大学史講義について、来室
24 体育課より同室史料調査依頼
25 端末のプリンター交換
26 学生事務部長より『校規全書』寄贈
27 学生課長より体育会卒業記念品寄贈
28 明中高事務長より『とうきょう広報』掲載「橋づく
し」提供
29 高瀬正仁九州大学助教授より「岡潔年譜」寄贈
同氏へ学校の名称等について、回答
30 福井新聞社吉野憲治氏来室、矢代操写真貸与
広報部より歴史展の概要について、問い合わせ(10
月5日も)
31 歴史展の史料の展示順の検討
32 来年度学部間総合講座の検討
33 全国大学史資料協議会愛媛大会出席(10月2日、
愛媛大学・松山東雲大学)
34 庶務課より同課旧蔵文書寄贈
35 イベント・パンフレットの校正(以降継続)
図書館用品KXより製本(『学事記録』等)納品

- 6 お茶ノ水図書館へ写真借用の手続(19日借用)
 広報部より「建学の精神」等について、問い合わせ
 7 歴史展テーマ・コーナー解説文作成(8日も)
 室会議(来年度の備品購入について)
 8 歴史展出品の学内史料借用手続(以降継続)
 イベント各PG責任者ミーティング
 9 大学院事務室より大学院関係史料寄贈(20日も)
 室会議(歴史展会場等)
 14 プロダクション「Sense」来室、初期明治法律学校写真貸与
 15 広報部へ昭和40年代学校周辺写真貸与
 校友茂木氏校歌等について、来室
 人事部より元政経学部教授大井正氏について、問い合わせ
 16 広報部へ「明治大学広報」掲載「明治大学歴史展」の原稿提出(11月2日掲載)
 募金室の萩原英夫・山口一磨両調査役より『明大校報』寄贈
 募金室より関東大震災の復興史料について、問い合わせ
 17 歴史展の倉庫利用について、共立管財(株)と打ち合わせ
 19 室会議(展示レイアウト等)
 歴史展々示品移送の検討
- 20 校友会事務局より岸本辰雄講演について、問い合わせ
 21 展示業者見積書持参
 イベント本部へ歴史展の人員表等、提出
 室会議(来年度予算について、22日提出)
 「駿河台小川町絵図」購入
 22 広報部より昭和30・40年代写真寄贈
 募金室よりビデオ「募金のお願ひ」寄贈
 23 歴史展資料利用願、津山郷土博物館へ郵送
 校友中川信一氏岸本辰雄の居住地について、来室
 24 校友高橋鈺逸氏学徒出陣について、来室
 26 歴史展のキャプション作成(11月9日展示業者へ渡す)
 27 広報部へ書籍『大学シリーズ 明治大学』貸与
 総合施設整備推進室へ旧体育館図面貸与
 募金室より早稲田大学「会津八一コレクション」(CD-ROM)寄贈
 28 展示業者と打ち合わせ(歴史展レイアウト)
 印刷業者と打ち合わせ(歴史展パンフレット等、30日も)
 松原基子氏来室、冠木精喜元教授の写真寄贈
 29 広報部より昭和30・40年代写真について、問い合わせ
 庶務課へ創立者写真貸与

- 29 天童市佐藤善三郎宅・佐々木基子宅にて歴史展史料借用
歴史展ポスター業者より納品
イベント・アトラクションP.G会議
大学院事務室より入試関係雑誌寄贈
調査役松井苗子氏よりリバイタワール祝賀会記念品寄贈
- 30 別府昭郎文学部教授学則について、来室
岡崎正二氏宮城浩蔵について、来室
調査役井上幸雄氏より社会学部設置計画資料寄贈
地方史研究協議会川崎大会出席
- 31 広報部へ『明治大学広報』掲載「大学史の散歩道」
原稿提出史料の額装品、納品（清文堂）
歴史展史料提供者梅村美和子氏（環翠楼）来室
事業課と歴史展人事の打ち合わせ
著作権セミナー出席（6日も）
歴史展案内状発送（10日も）
イベント責任者会議
学生課より学生服寄贈
大学院事務室より『大学事務研究』等寄贈
国際交流シンポジウムにつき、百年史・紀要等寄贈
図書館用品Kより製本納品（教職員名簿等）
歴史展のための額装（松本額縁店）
歴史展の史料移送について、施設課と打ち合わせ
- 11 歴史展ポスター揭示、各部署へ依頼
学部間共通総合講座の打ち合わせ
歴史展関係施設利用の手続
松原基子宅訪問（冠木元教授の遺品寄贈のうけとり）
歴史展のトピックス・チラシ作成
セントラルテレビより岸本辰雄放映の協力依頼
歴史展関係印刷物、学内印刷所より届く
一九九九年予定経費内訳説明書、庶務課へ提出
歴史展のパフレット、ポストカード、パネル等納品
室会議（展示等について）
歴史展の会場設営、展示品搬入
歴史展に関して各部署へ挨拶（18日も）
歴史展々示品取り付け
歴史展オープン（24日まで）
イベント関係者全体会議
パフレット等、増刷分、印刷業者より届く
浅田毅衛委員より記念館写真真寄贈
校友会事務局より校友会館看板寄贈
伊藤綾女氏より父省吾氏書簡寄贈
中久喜利夫氏より『検証・陸軍学徒兵の資料』寄贈
各部署へ歴史展終了の報告・挨拶（25・26日も）
全国大学史資料協議会出席（歴史展の説明・案内

- 等)
- 25 歴史展のあとかたづけ(以降継続)
 広報部より開校時創立者の年齢について
 部課長会
- 26 吉田善明学務理事より大学院オルゴールについて、
 問い合わせ
 Hartmut O. Rotermund 仏国立高等研究院教授来室、
 図書閲覧
- 27 下山達夫氏より戦時学徒援農について、問い合わせ
 広報部より写真パネル寄贈(カルチェ・ラタン等)
 寺崎弘康氏より奥山儀八郎について、情報提供
 歴史展の礼状発送
- 30 文書課より大学関係図書寄贈
 大学史料委員会の準備(以降継続)
- 2 募金室より体育会等のグッズ寄贈
- 12・1 校友田代健一氏へ教練写真郵送
 体育課より歴史展々示品ラグビー・ボール寄贈
 ICUより歴史展について、問い合わせ
- 3 宮内庁書陵部展示「貴重史料の世界」見学
- 4 大学史料委員会
- 5 体育課倉庫収蔵品の調査
- 8 校友家坂雅子氏より入学式宣誓について、問い合わせ
 管財部へ「展示ケースの設置について」(お願い)提
- 9 出。このことについて庶務課にも連絡
 庶務課より何羽道の在学について、問い合わせ
 歴史展アンケートの集計(5/15日)
 福井新聞社より「福井新聞」(一九九八・11・14、
 「県人会創立一〇〇年」特集)寄贈
 図書館用品KKへアツペール著『経済学講義』修理依
 頼
- 10 『法人自己点検・評価報告書』掲載原稿、総務部長
 へ提出(24日、再作成)
- 11 総合施設整備推進室より復興校舎について、問い合
 わせ
 井上伸造氏より駒沢グラウンド関係資料寄贈
 ミニ展示について、理事会提出資料作成、総務部長
 へ提出
- 14 校友山本鉞氏、女子部の歴史等、情報提供に来室
 蔵前工業会へ大森茂(復興校舎設計者)について、
 問い合わせ
- 15 歴史展々示史料の撮影
- 16 天童市佐藤善三郎家へ展示史料の返却と史料調査
 ミニ歴史展、理事会承認
- 17 募金室よりグッズ(メダル等)寄贈
 広報部より昭和40年代電卓寄贈
 全国大学史資料協議会東日本部会十年史編集会議出
 席(於東京大学)

- 1999年
- 18 歴史展入場者数のとりまとめ
法政大学ポワソナード記念現代法研究所江戸恵子氏
来室、『ポワソナード答問録』寄贈
- 19 募金室よりリバーサル・ネガ（校旗）寄贈
図書館より南甲賀町校舎移転祝賀の書簡解読依頼
（24日報告）
- 22 募金室よりテレホンカード（六大学野球優勝記念
等）、寄贈
前理事有馬輝武氏来室、『出陣学徒の戦中と戦後』
寄贈
管財部来室、校地関係史料について
- 24 報告集掲載写真の撮影
博物館事務室より『郷土石見』49（岡田庄作宣誓小
伝、コビー）提供
- 25 室打ち合わせ（報告集等について）
庶務課より吉川久衛書額、開学記念碑パネル寄贈
明中高校事務長来室、年史編纂について
- 1・8 全国大学史資料協議会十年史原稿提出
9 渡辺副委員長より『文部省年報』について、問い合
わせ（11日閲覧）
松原基子氏より父・冠木精喜書簡寄贈
室打ち合わせ（職場研修等について）
明中高校より伊藤好一先生『追悼集』寄贈
- 12 リバティタワー23階岸本辰雄記念ホールの展示の会
議
セントラル・テレビ来室、岸本辰雄関係史料につい
て
広報部より岸本辰雄の写真について、問い合わせ
古賀政男音楽博物館へ見学・研修願提出
フォト・ビジョン納品
- 13 歴史展使用史料、資料室へ搬入
管財部へ校地関係史料貸与
室打ち合わせ（岸本辰雄記念ホールの展示につい
て）
- 14 岸本辰雄記念ホール調査
セントラル・テレビ来室、岸本辰雄関係の撮影
院生延原智香氏来室、明治大正期の学生について
庶務課より岸本辰雄記念ホール展示関係見積依頼
広報部より当室執筆『大学案内』校正依頼
記念館設計図補修(尙)キャットへ依頼
- 16 岸本辰雄記念ホール展示ケースについて、業者と打
ち合わせ
18 熊本法律学校について鹿児島県歴史資料センター等
へ問い合わせ
日米商会へ学徒兵関係写真の複写依頼
庶務課より校歌楽歌について、問い合わせ
総合施設整備推進室へ記念館模型受取日について、

問い合わせ

父母会事務室より卒業記念品寄贈

植村直己冒険館へ転載許可願郵送

明中高校々長・教頭・事務長来室、90年史編纂について

加藤委員長よりボワソナード居住地等について、問い合わせ

図書館より書額（「在心館」）について、問い合わせ

20 東京スタジオ、岸本辰雄記念ホール展示の工事・備

品見積書持参。庶務課へ報告

（例）アルバへボワソナード写真貸出

（付） 本稿の作成に当っては多くの方々にご指導や御協力をいただきました。末筆ながら感謝の意を記させていただきます。

なお、本稿の執筆は第一部鈴木秀幸、第二部は室員長

浜忠雄、島田栄子、鈴木秀幸がした。また編集は全て前

記の長浜、島田、鈴木が当った。